

令和3年度

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント活動報告書

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会

目 次

はじめに (大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会委員長 山倉 健嗣) ……	1
--	---

I 大学FD活動状況

1 全学FD活動	
(1) 授業担当者懇談会実施報告 ……	2
(2) 授業改善のためのアンケート実施概要 ……	3
(3) 授業改善のためのアンケート集計結果 ……	6
2 各学部の令和3年度FD活動の概要報告	
(1) 家政学部 ……	36
(2) 文学部 ……	38
(3) 社会情報学部 ……	40
(4) 人間関係学部 ……	42
(5) 比較文化学部 ……	44
(6) 短期大学部 ……	46
3 人間文化研究科の令和3年度FD活動 ……	48

II 全学FD講演会・研修会

1 講演会・研修会の内容及びアンケート結果	
(1) オンライン授業の注意点と実践実例 ……	70
～効果的・効率的に進めるためのツール・Tips紹介を中心に～	
(2) 本学におけるオンライン授業事例の紹介・共有 ……	74
① 映像を使った反転授業とresponを使った学生の考え方の集約	
② 対面出席とオンライン出席が混在した授業に適した情報ツールの検討	
③ オンライン授業における学生の主体的な参加への取り組み	
④ オンラインでのグループワークについて	

参考資料

1 大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程 ……	78
2 令和3年度大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会名簿 ……	80

はじめに

令和3年度大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会委員長 山 倉 健 嗣

令和3年度のFD活動報告書をお届けいたします。作成にご協力いただいた教職員の皆様に心から感謝申し上げます。本報告書は令和3年度のFD活動の成果をまとめたものです。全学および学部、研究科のFD活動、全学FD研修から構成されており、本学のFDに対する取り組みを知ることができます。

令和3年度の授業も緊急事態宣言発令に伴う対応に追われました。前期の授業は4月9日に対面8割、オンライン2割で開始しましたが、緊急事態宣言の発令により4月26日より全科目オンライン授業に移行せざるを得ませんでした。実験・実習・実技などの一部科目については対面授業で行われました。6月21日には今年度の開始時の状況、対面8割、オンライン2割で授業を再開しました。

後期の授業は9月27日よりオンライン主体の授業（一部の科目で対面授業）で開始されました。しかし9月30日の緊急事態宣言解除に伴い、対面8割、オンライン2割での授業が再開しました。新型コロナウイルス感染症の継続のもとでの授業でした。令和2年度同様教育現場では今まで経験したことのない状況に対応せざるを得ませんでした。教職員、学生も試行錯誤で授業への対応をしていただきました。ありがとうございました。

学生の授業評価は、令和元年度の委員会での決定を踏まえて、教員の授業方法・内容の改善を目的とし、「授業改善のためのアンケート」として位置づけられることになりました。昨年同様Webで授業評価を実施しましたが、回収率の向上が課題でしたが、教員・教育支援センターの尽力により回収率を上げる努力は行いましたが、残念ながら50%を切る状況でした。今年度の授業評価は昨年度のアンケートの項目を継続し、経年の変化がわかるようにしました。学生の授業評価についての詳細は報告書をご覧ください。

令和3年度はFD委員会主催による、全学のFD講演会・講習会を無事実施することができました。令和2年度以来取り組んできたオンライン授業をテーマとして行いました。前期は7月16日に大阪大学キャリアセンター副センター長 家島明彦先生を講師としてお迎えし、「オンライン授業の注意点と実践事例」というテーマで講演をいただきました。初めてのオンライン開催となりました。大阪大学における授業経験を基とした、示唆にあふれる講演でした。後期は1月31日に「本学におけるオンライン授業事例の紹介・共有」をテーマに、本学の4人の先生より、講演をいただきました。4人の先生のオンライン授業への取り組む姿勢や工夫はとても刺激的でした。また各学科・専攻の授業担当者懇談会は対面あるいはオンラインで行われました。オンライン授業の問題点を共有するとともに改善への重要な示唆があったとの報告がなされています。

令和4年度もウイズコロナの状況で、FD活動の重要性は高まるでしょう。令和3年度の経験をふまえ、本学の教育内容・方法のたゆまぬ努力改善をしていきます。

I 大学FD活動状況

1 全学FD活動

(1) 授業担当者懇談会実施報告

①概要

今年度も千代田キャンパス・多摩キャンパスにおいて、授業担当の教員(専任及び非常勤)による学生指導に関する各位の所見・抱負など活発な意見交換が行われた。

②実施内容(学科・専攻別懇談会)

千代田キャンパス

家政学部 被服学科	オンライン:5月20日(木)
家政学部 食物学科	オンライン:5月8日(土)
家政学部 児童学科	文書:5月8日(土)~31日(月)
家政学部 ライフデザイン学科	オンライン:5月8日(土)
文学部 日本文学科	オンライン:5月8日(土)
文学部 英語英文学科	オンライン:5月8日(土)
文学部 コミュニケーション文化学科	オンライン:5月8日(土)
社会情報学部 社会情報学科社会生活情報学専攻	オンライン:5月8日(土)
社会情報学部 社会情報学科環境情報学専攻	オンライン:5月8日(土)
社会情報学部 社会情報学科情報デザイン専攻	オンライン:5月8日(土)
比較文化学部 比較文化学科	オンライン:5月8日(土)
短期大学部 家政科家政専攻	オンライン:5月8日(土)
短期大学部 家政科生活総合ビジネス専攻	オンライン:5月18日(火)
短期大学部 家政科食物栄養専攻	オンライン:5月8日(土)
短期大学部 国文科	オンライン:5月29日(土)
短期大学部 英文科	オンライン:5月4日(火)
全学共通科目(基礎科目・教養科目)	オンライン:5月8日(土)
教職課程	オンライン:5月13日(木)
図書館学課程	オンライン:5月8日(土)
博物館学芸員課程	オンライン:5月8日(土)

多摩キャンパス

人間関係学部 人間関係学科社会学専攻	オンライン:5月22日(土)
人間関係学部 人間関係学科社会・臨床心理学専攻	オンライン:5月22日(土)
人間関係学部 人間福祉学科	オンライン:5月22日(土)

(2) 授業改善のためのアンケート実施概要

①概要

前・後期において、それぞれ授業改善のためのアンケートを実施した。

今年度は、例年行っている「学期末」の実施に加えて、授業期間の「中間期」に授業担当者の任意でアンケートを実施できることとした。

実施科目数及び回答学生数は次のとおりである。

実施科目数 前期（中間期）：未集計

（学期末）：1,506 科目

後期（中間期）：69 科目

（学期末）：1,469 科目

回答学生数 前期（中間期）：4,003 名

（学期末）：30,494 名（受講者数 64,045 名 回答率 47.6%）

後期（中間期）：3,179 名

（学期末）：23,846 名（受講者数 58,536 名 回答率 40.7%）

②実施時期

前期（中間期）令和3年5月14日(金)～5月27日(木)

（学期末）令和3年7月2日(金)～7月15日(木)

後期（中間期）令和3年11月8日(月)～11月20日(土)

（学期末）令和4年1月11日(火)～1月24日(月)

③実施方法

大妻女子大学ポータルサイト「UNIVERSAL PASSPORT」(UNIPA)で実施した。

④調査項目（4～5ページ参照）

⑤集計結果及び公表

集計は前期・後期のデータを、それぞれ全体・大学・短大別及び次の分類別に分析した。

分類:全体、学部別、学生所属別、学年別、授業別、クラスサイズ別、専任・兼任別、年齢別
また、集計結果は、UNIPA上で授業担当者に公開している。

令和3年度前期(学期末)大妻女子大学「授業改善のためのアンケート」

このアンケートは、授業内容や授業方法の改善を図るためのものです。無記名回答ですので、あなたの成績に影響することはまったくありません。率直に回答してください。

1. 授業改善に向けたあなたの意見や要望・希望を書いてください。

2. 授業形態はどのような方法で実施されましたか。＜複数回答可＞

※PPT:PowerPointの略(必須)

- 対面
- オンデマンド型:テキスト(教材)提示
- オンデマンド型:スライド(PPT)
- オンデマンド型:音声データとテキスト(PPT/PDF等)
- オンデマンド型:動画視聴(YouTube等)
- その他

3. 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。(必須)

- ⑤そう思う ④ややそう思う ③どちらともいえない
- ②あまりそう思わない ①そう思わない ①わからない/判断しづらい/確認していない

4. 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。(必須)

- ⑤そう思う ④ややそう思う ③どちらともいえない
- ②あまりそう思わない ①そう思わない ①わからない/判断しづらい

5. 授業においてmanabaはどのように活用されましたか。＜複数回答可＞(必須)

- 予習復習(アンケートなど)
- 小テスト
- レポート提出
- 中間/期末テスト
- コースコンテンツ
- プロジェクト
- コースニュース
- 掲示板
- レスポン
- その他
- manaba以外のツール(Googleドライブ等)を活用した
- 活用していない

6. 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。

※オンライン上での質問や意見等も含みます。(必須)

- ⑤そう思う ④ややそう思う ③どちらともいえない
- ②あまりそう思わない ①そう思わない ①わからない/判断しづらい/発言の機会がなかった

7. この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。(必須)

- ⑤3時間以上 ④2時間以上3時間未満 ③1時間以上2時間未満
- ②30分以上1時間未満 ①30分未満 ①していない

8. この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。(必須)

- ⑤そう思う ④ややそう思う ③どちらともいえない
- ②あまりそう思わない ①そう思わない ①わからない/判断しづらい

9. あなたは授業に満足しましたか。(必須)

- ⑤そう思う ④ややそう思う ③どちらともいえない
- ②あまりそう思わない ①そう思わない ①わからない/判断しづらい

ご協力、ありがとうございました。

令和3年度後期(学期末)大妻女子大学「授業改善のためのアンケート」

このアンケートは、授業内容や授業方法の改善を図るためのものです。無記名回答ですので、あなたの成績に影響することはまったくありません。率直に回答してください。

1. 授業改善に向けたあなたの意見や要望・希望を書いてください。

2. 授業形態はどのような方法で実施されましたか。＜複数回答可＞

※PPT:PowerPointの略(必須)

- 対面
- オンデマンド型:テキスト(教材)提示
- オンデマンド型:スライド(PPT)
- オンデマンド型:音声データとテキスト(PPT/PDF等)
- オンデマンド型:動画視聴(YouTube等)
- その他

3. 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。(必須)

- ⑤そう思う ④ややそう思う ③どちらともいえない
- ②あまりそう思わない ①そう思わない ①わからない/判断しづらい/確認していない

4. 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。(必須)

- ⑤そう思う ④ややそう思う ③どちらともいえない
- ②あまりそう思わない ①そう思わない ①わからない/判断しづらい

5. 授業においてmanabaはどのように活用されましたか。＜複数回答可＞(必須)

- 予習復習(アンケートなど)
- 小テスト
- レポート提出
- 中間/期末テスト
- コースコンテンツ
- プロジェクト
- コースニュース
- 掲示板
- 個別指導コレクション
- レスポン
- その他
- manaba以外のツール(Googleドライブ等)を活用した
- 活用していない

6. 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。

※オンライン上での質問や意見等も含まれます。(必須)

- ⑤そう思う ④ややそう思う ③どちらともいえない
- ②あまりそう思わない ①そう思わない ①わからない/判断しづらい/発言の機会がなかった

7. この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。(必須)

- ⑤3時間以上 ④2時間以上3時間未満 ③1時間以上2時間未満
- ②30分以上1時間未満 ①30分未満 ①していない

8. この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。(必須)

- ⑤そう思う ④ややそう思う ③どちらともいえない
- ②あまりそう思わない ①そう思わない ①わからない/判断しづらい

9. あなたは授業に満足しましたか。(必須)

- ⑤そう思う ④ややそう思う ③どちらともいえない
- ②あまりそう思わない ①そう思わない ①わからない/判断しづらい

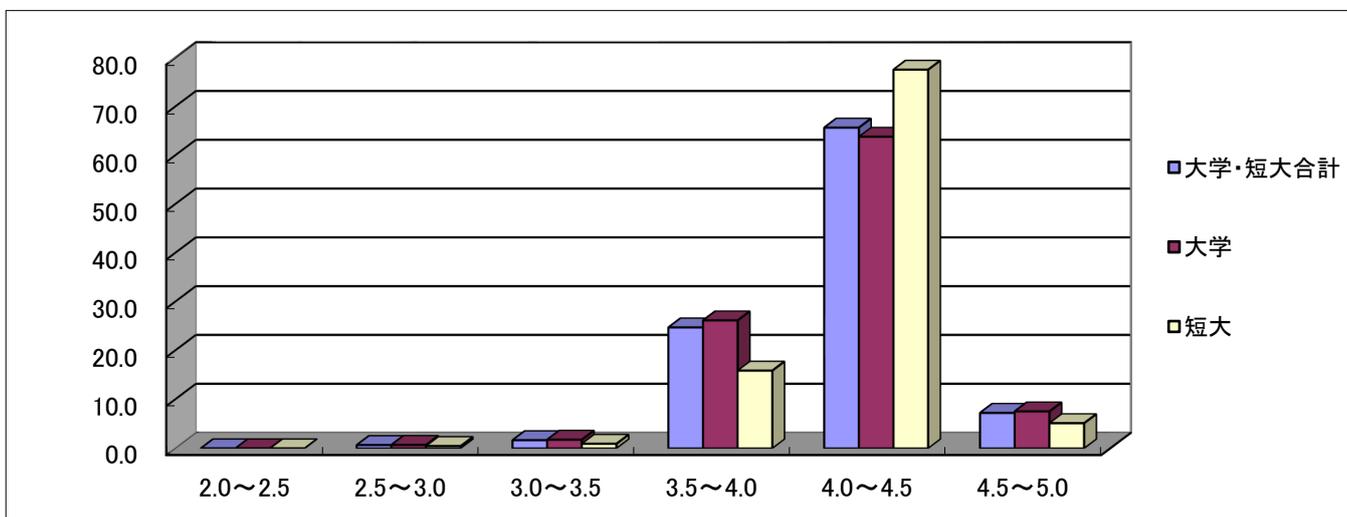
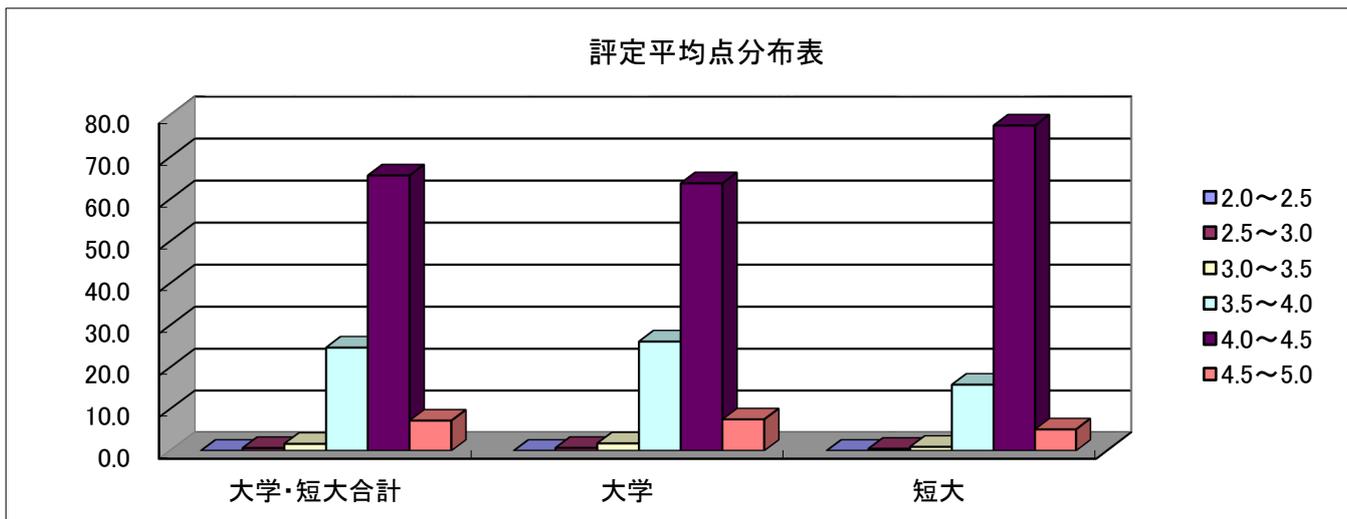
ご協力、ありがとうございました。

全学ファカルティ・ディベロップメント委員会

(3) 授業改善のためのアンケート集計結果

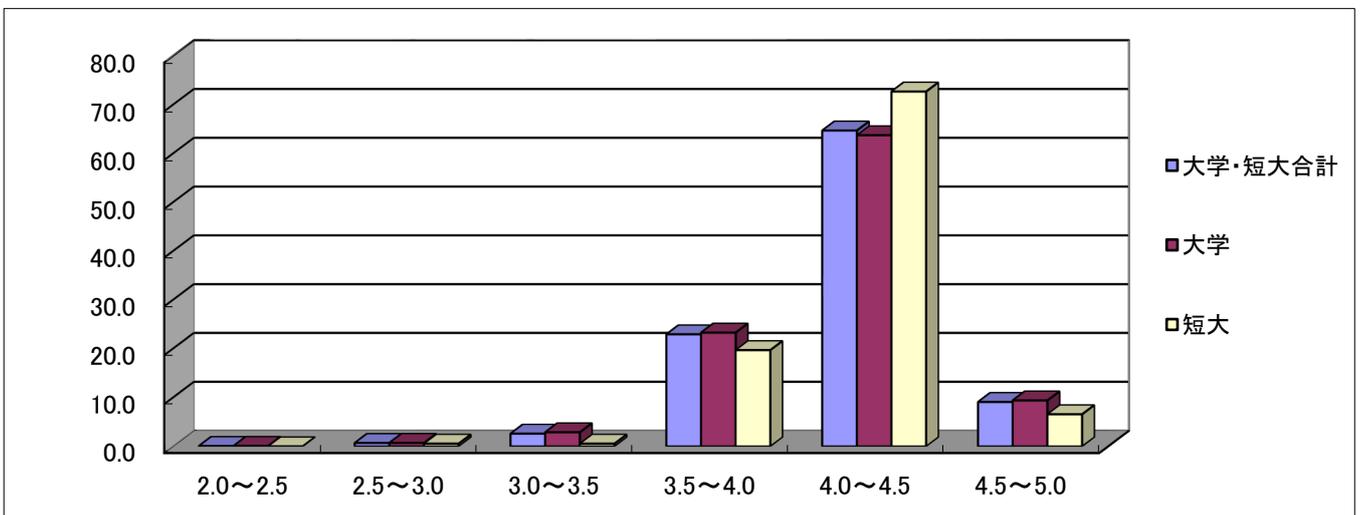
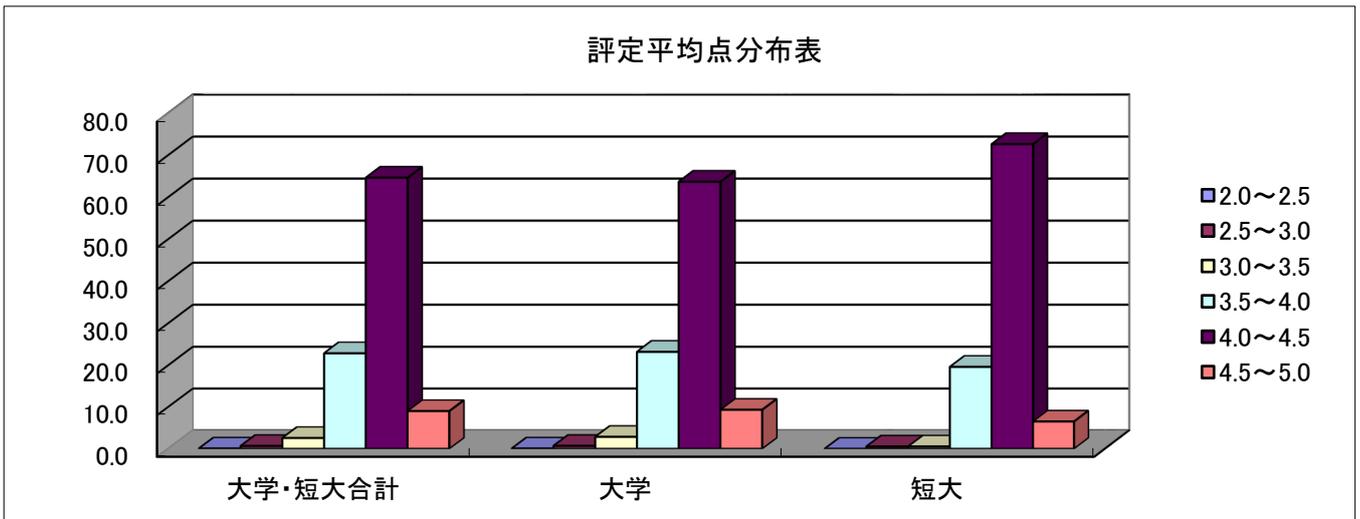
2021年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(全体)

平均点	大学・短大合計		大学		短大	
	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)
2.0～2.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
2.5～3.0	10	0.7	9	0.7	1	0.5
3.0～3.5	25	1.7	23	1.8	2	0.9
3.5～4.0	372	24.7	340	26.2	34	15.9
4.0～4.5	988	65.7	829	63.8	166	77.6
4.5～5.0	109	7.2	98	7.5	11	5.1



2021年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(全体)

平均点	大学・短大合計		大学		短大	
	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)	科目数	割合(%)
2.0～2.5	1	0.1	1	0.1	0	0.0
2.5～3.0	10	0.7	9	0.7	1	0.5
3.0～3.5	38	2.6	37	2.9	1	0.5
3.5～4.0	336	22.9	300	23.3	36	19.7
4.0～4.5	949	64.7	822	63.7	133	72.7
4.5～5.0	133	9.1	121	9.4	12	6.6



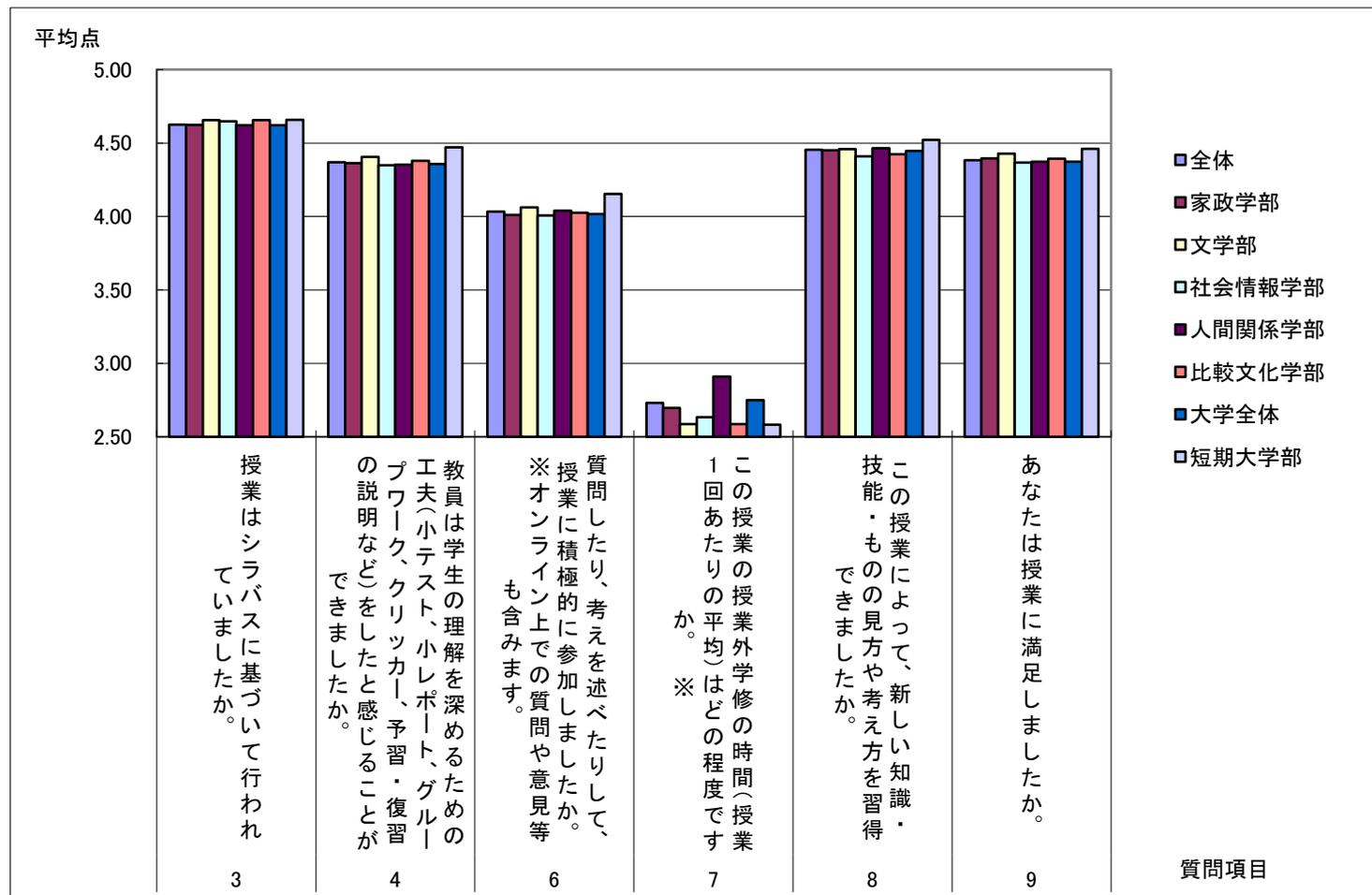
2021年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(全体及び学部別)

対象科目数	実施科目数	未実施科目数
1,515	1,506	9

	全体	家政学部	文学部	社会情報学部	人間関係学部	比較文化学部	大学全体	短期大学部
履修者数	64,045	29,902	25,022	23,784	9,540	21,490	58,282	6,022
回答者数	30,494	15,043	13,080	11,860	4,176	11,101	27,234	3,401
回答率(%)	47.61	50.31	52.27	49.87	43.77	51.66	46.73	56.48

	全体	家政学部	文学部	社会情報学部	人間関係学部	比較文化学部	大学全体	短期大学部
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.62	4.62	4.66	4.65	4.62	4.65	4.62	4.66
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.37	4.36	4.41	4.35	4.35	4.38	4.36	4.47
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.03	4.01	4.06	4.01	4.04	4.03	4.02	4.15
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。 ※	2.73	2.70	2.59	2.63	2.91	2.59	2.75	2.58
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.45	4.45	4.46	4.41	4.46	4.42	4.45	4.52
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.38	4.40	4.43	4.37	4.37	4.39	4.37	4.46

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。



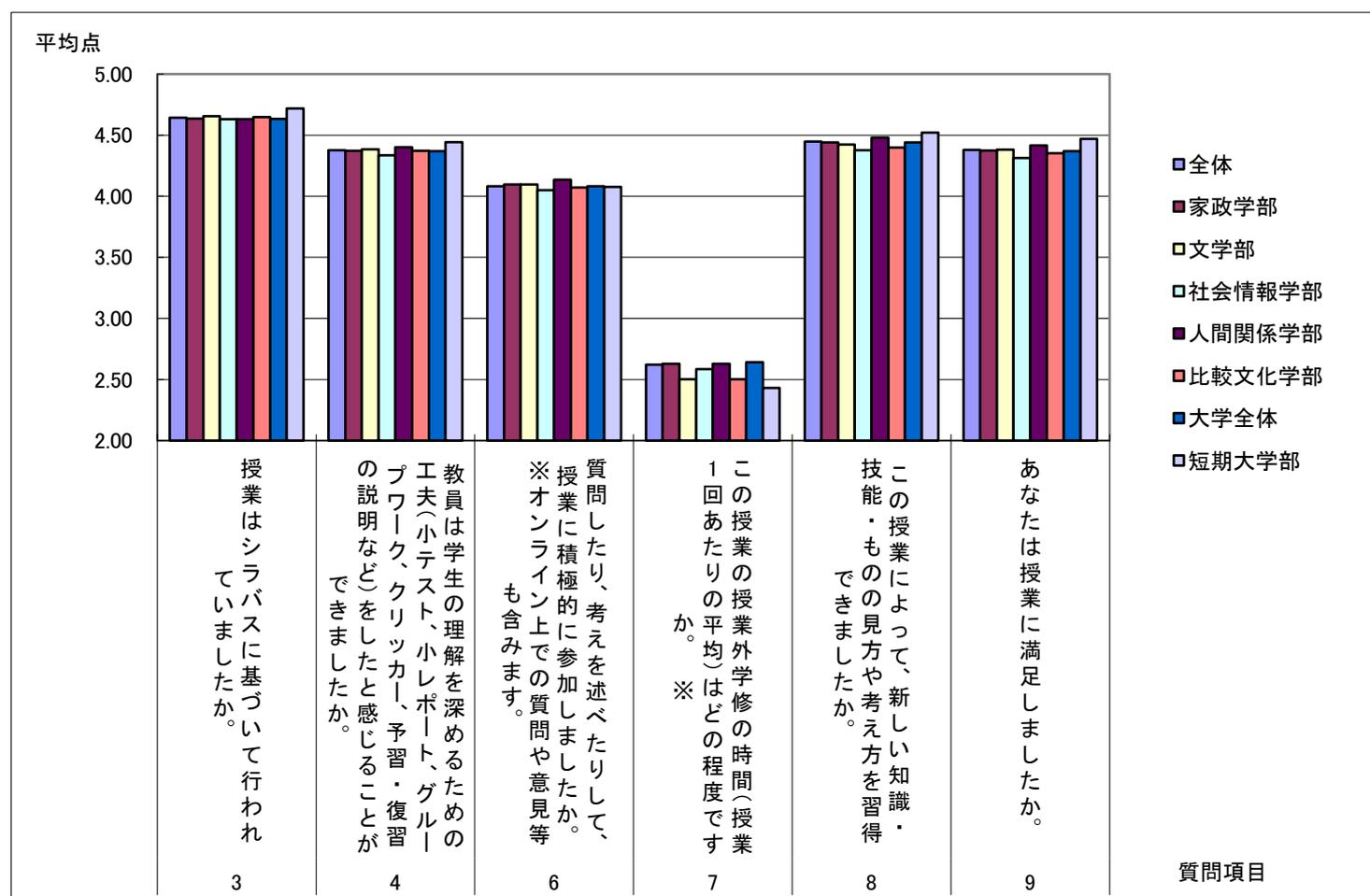
2021年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(全体及び学部別)

対象科目数	実施科目数	未実施科目数
1,477	1,469	8

	全体	家政学部	文学部	社会情報学部	人間関係学部	比較文化学部	大学全体	短期大学部
履修者数	58,536	27,664	22,935	22,024	9,249	19,970	53,869	4,870
回答者数	23,846	11,271	10,012	8,982	3,796	8,135	21,412	2,540
回答率(%)	40.74	40.74	43.65	40.78	41.04	40.74	39.75	52.16

	全体	家政学部	文学部	社会情報学部	人間関係学部	比較文化学部	大学全体	短期大学部
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.64	4.64	4.65	4.63	4.63	4.65	4.63	4.72
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.38	4.37	4.38	4.34	4.40	4.37	4.37	4.44
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含まれます。	4.08	4.10	4.10	4.05	4.14	4.07	4.08	4.08
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.62	2.63	2.50	2.59	2.63	2.50	2.64	2.43
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.45	4.44	4.42	4.38	4.48	4.40	4.44	4.52
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.38	4.37	4.38	4.31	4.42	4.35	4.37	4.47

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。



2021年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(学生の所属別)

回答者数	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大コミ	大生	大環
	1,697	1,242	864	1,605	990	2,012	2,445	2,266	1,923	1,572	1,325
	大情	大社	大心	大福	大人福	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
	1,782	1,520	1,263	1,392	3	3,244	874	667	1,066	339	403

	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大コミ	大生	大環
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.72	4.55	4.58	4.54	4.45	4.64	4.67	4.64	4.63	4.64	4.66
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.42	4.28	4.33	4.38	4.21	4.31	4.47	4.40	4.40	4.32	4.35
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含まれます。	4.12	3.88	3.80	4.02	4.02	3.87	4.06	4.09	4.15	3.99	4.09
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。 ※	2.91	2.73	3.00	2.80	2.56	2.83	2.70	2.68	2.50	2.67	2.54
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.59	4.35	4.47	4.51	4.36	4.45	4.55	4.49	4.45	4.36	4.40
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.50	4.25	4.37	4.49	4.27	4.34	4.49	4.40	4.39	4.32	4.37

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

	大情	大社	大心	大福	大人福	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.53	4.58	4.63	4.66	4.00	4.65	4.62	4.69	4.62	4.73	4.71
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.25	4.21	4.43	4.44	3.67	4.36	4.45	4.57	4.42	4.36	4.58
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含まれます。	3.98	3.91	4.13	4.10	2.00	3.98	4.10	4.14	4.07	4.12	4.50
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。 ※	2.80	2.98	2.91	2.84	2.67	2.70	2.66	2.40	2.59	2.57	2.67
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.29	4.36	4.52	4.52	4.00	4.40	4.52	4.60	4.45	4.40	4.66
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.23	4.26	4.40	4.46	4.00	4.34	4.50	4.53	4.35	4.40	4.58

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

2021年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(学生の所属別)

回答者数	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大ミ	大生	大環
	1,267	1,048	559	1,133	695	1,533	1,903	1,640	1,802	1,457	1,120
	大情	大社	大心	大福	大人福	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
	1,209	1,372	1,113	1,307	3	2,192	665	480	791	341	216

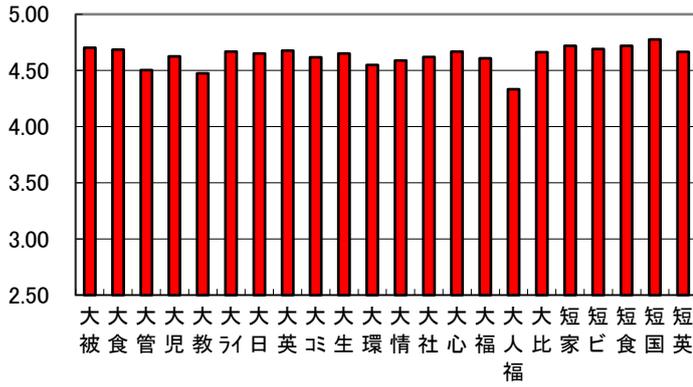
	大被	大食	大管	大児	大教	大ライ	大日	大英	大ミ	大生	大環
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.70	4.68	4.50	4.62	4.48	4.67	4.65	4.68	4.62	4.65	4.55
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.48	4.28	4.18	4.51	4.26	4.34	4.36	4.41	4.38	4.37	4.24
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含まれます。	4.19	3.88	3.87	4.22	4.17	4.03	4.00	4.12	4.14	4.13	3.97
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。 ※	2.91	2.74	2.88	2.54	2.63	2.79	2.51	2.64	2.48	2.57	2.42
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.57	4.42	4.40	4.63	4.36	4.43	4.48	4.47	4.40	4.36	4.24
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.49	4.35	4.27	4.58	4.24	4.32	4.42	4.43	4.30	4.31	4.17

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

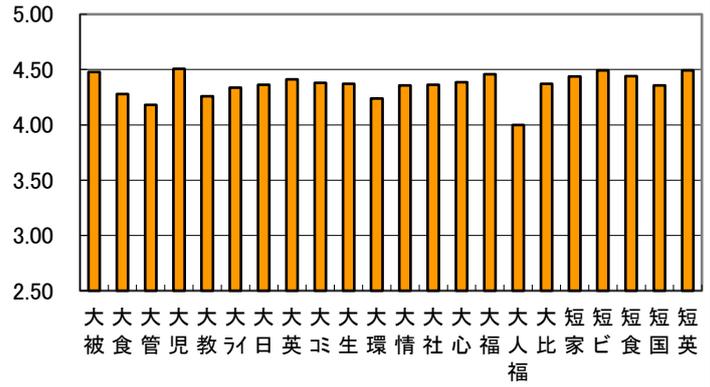
	大情	大社	大心	大福	大人福	大比	短家	短ビ	短食	短国	短英
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.59	4.62	4.67	4.61	4.33	4.66	4.72	4.69	4.72	4.78	4.67
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.36	4.36	4.38	4.46	4.00	4.37	4.44	4.49	4.44	4.36	4.49
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含まれます。	4.08	4.11	4.17	4.13	3.00	4.03	4.00	3.95	4.12	4.08	4.37
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。 ※	2.88	2.63	2.73	2.53	3.33	2.60	2.44	2.31	2.28	2.56	2.91
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.40	4.40	4.52	4.53	4.33	4.41	4.58	4.57	4.46	4.49	4.51
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.35	4.37	4.42	4.47	4.00	4.34	4.51	4.50	4.43	4.44	4.44

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

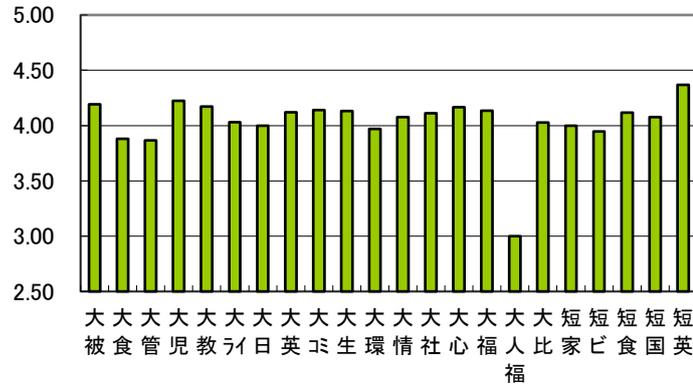
3 授業はシラバスに基づいて行われたか



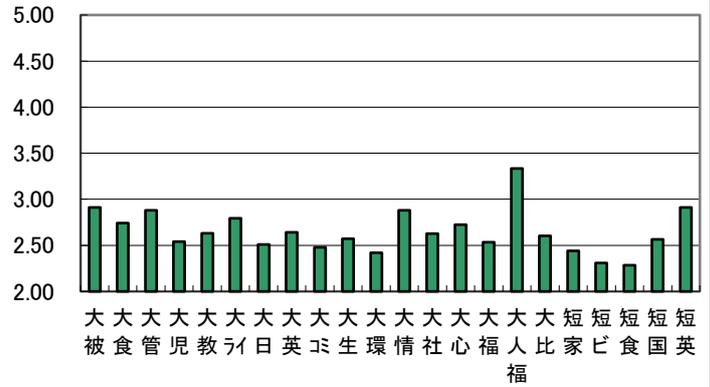
4 学生の理解を深めるための工夫を感じたか



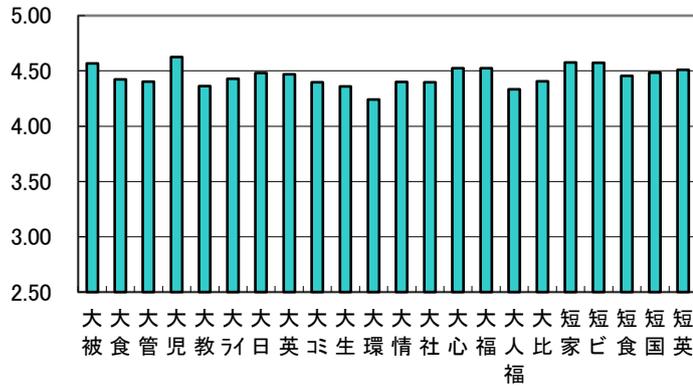
6 授業に積極的に参加したか



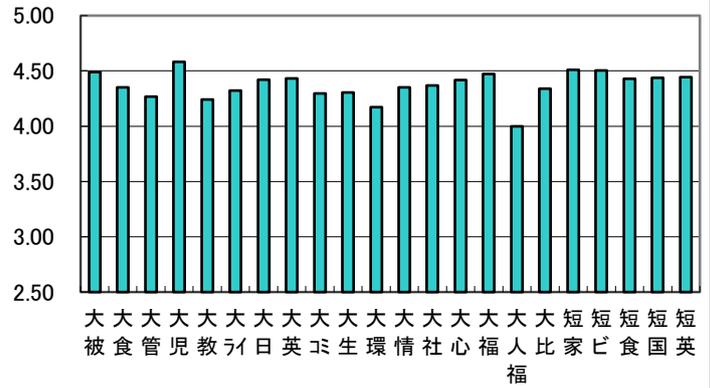
7 授業外学修時間(授業1回あたりの平均)



8 新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できたか



9 授業に満足したか

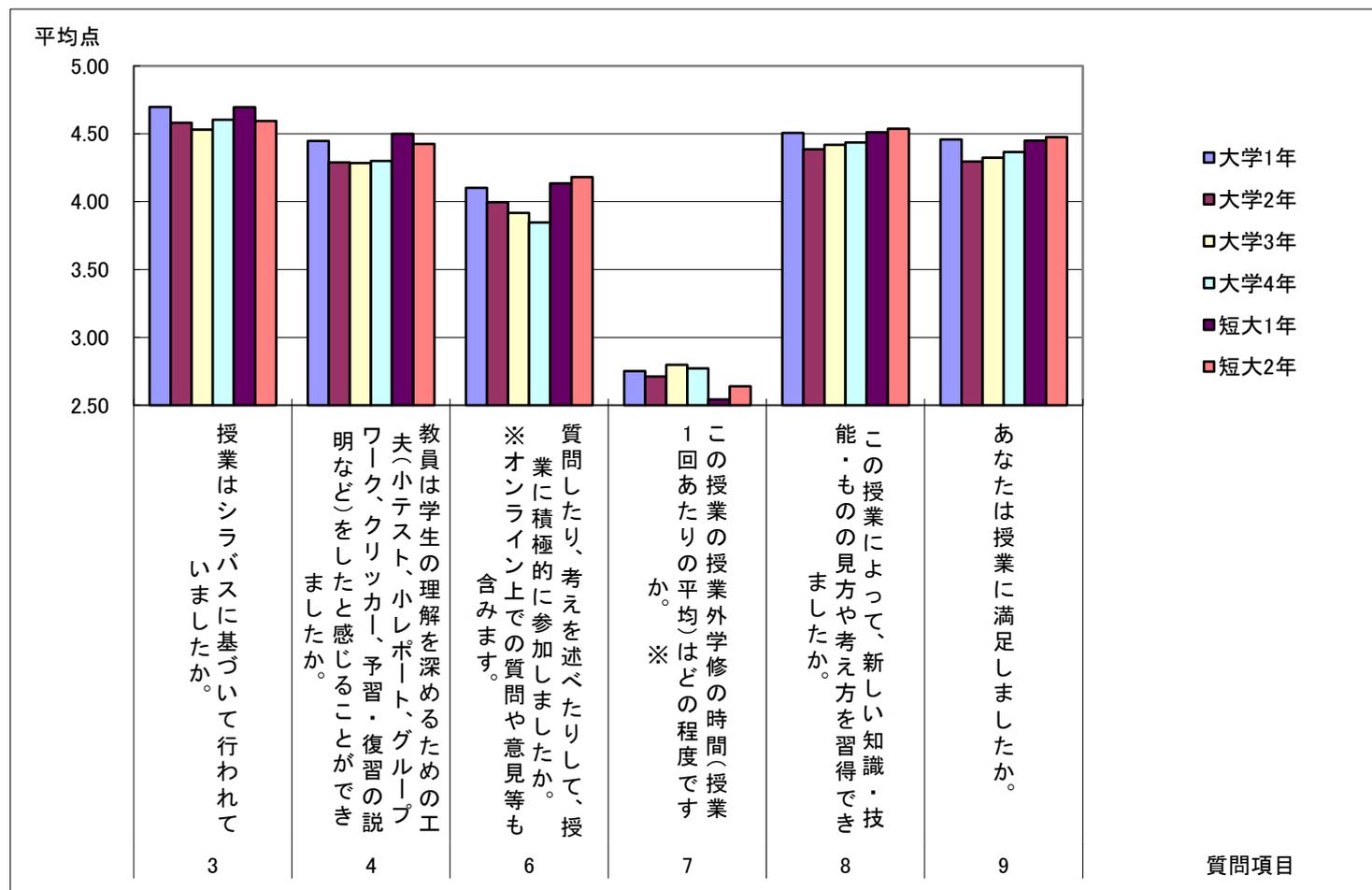


2021年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(学年別)

	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
回答者数	11,515	8,863	5,663	1,193	2,066	1,310

	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.70	4.58	4.53	4.60	4.70	4.59
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.45	4.29	4.28	4.30	4.50	4.42
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含まれます。	4.10	4.00	3.92	3.85	4.14	4.18
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。 ※	2.75	2.71	2.80	2.77	2.54	2.64
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.51	4.39	4.42	4.44	4.51	4.54
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.46	4.29	4.32	4.37	4.45	4.48

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

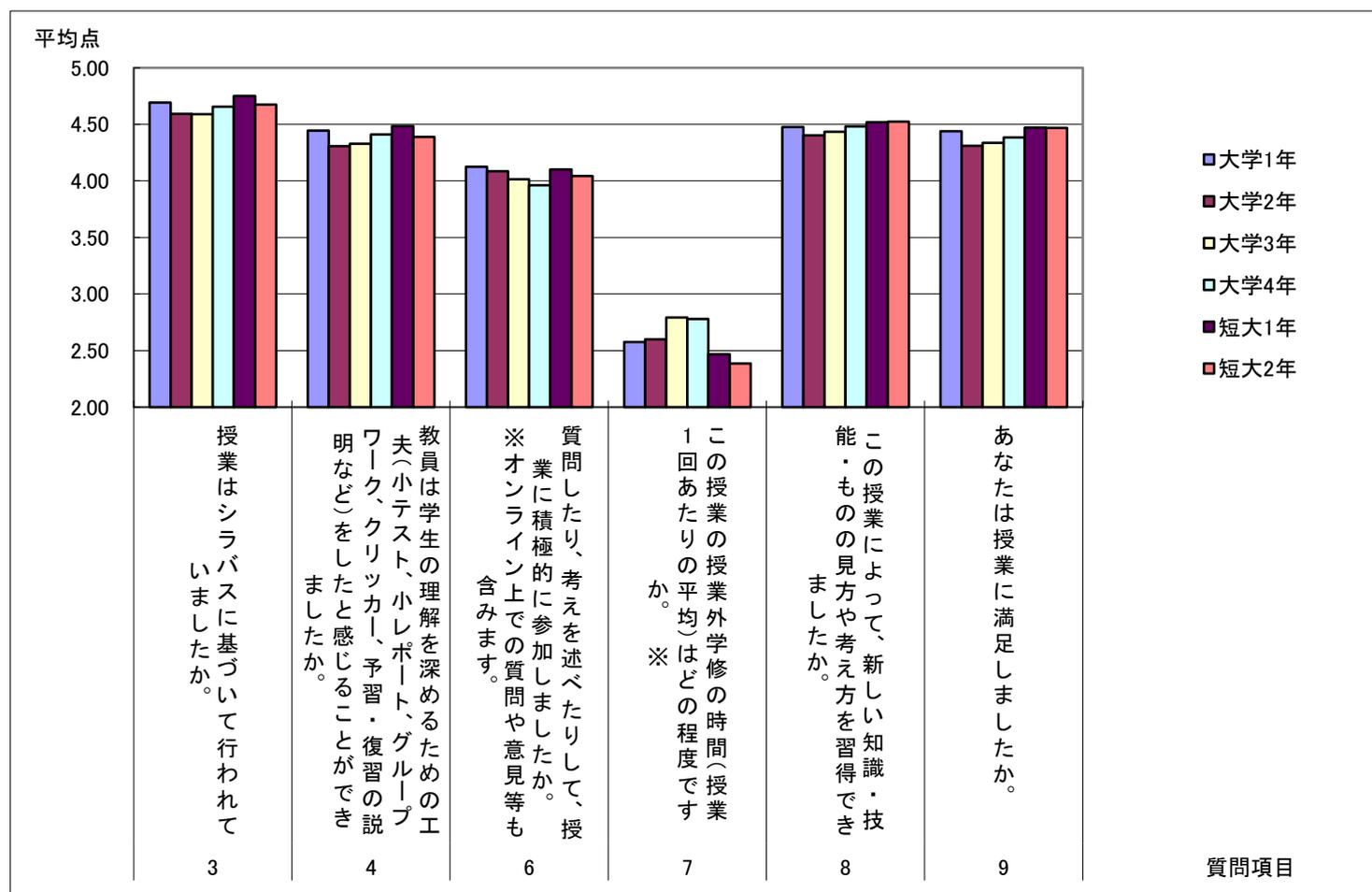


2021年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(学年別)

	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
回答者数	8,477	7,501	4,611	823	1,449	1,075

	大学1年	大学2年	大学3年	大学4年	短大1年	短大2年
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.69	4.59	4.59	4.66	4.75	4.68
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感ずることができましたか。	4.45	4.31	4.33	4.41	4.48	4.39
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含まれます。	4.13	4.09	4.01	3.96	4.10	4.04
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。 ※	2.58	2.60	2.79	2.78	2.47	2.39
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.48	4.40	4.43	4.48	4.52	4.52
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.44	4.31	4.34	4.38	4.47	4.47

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

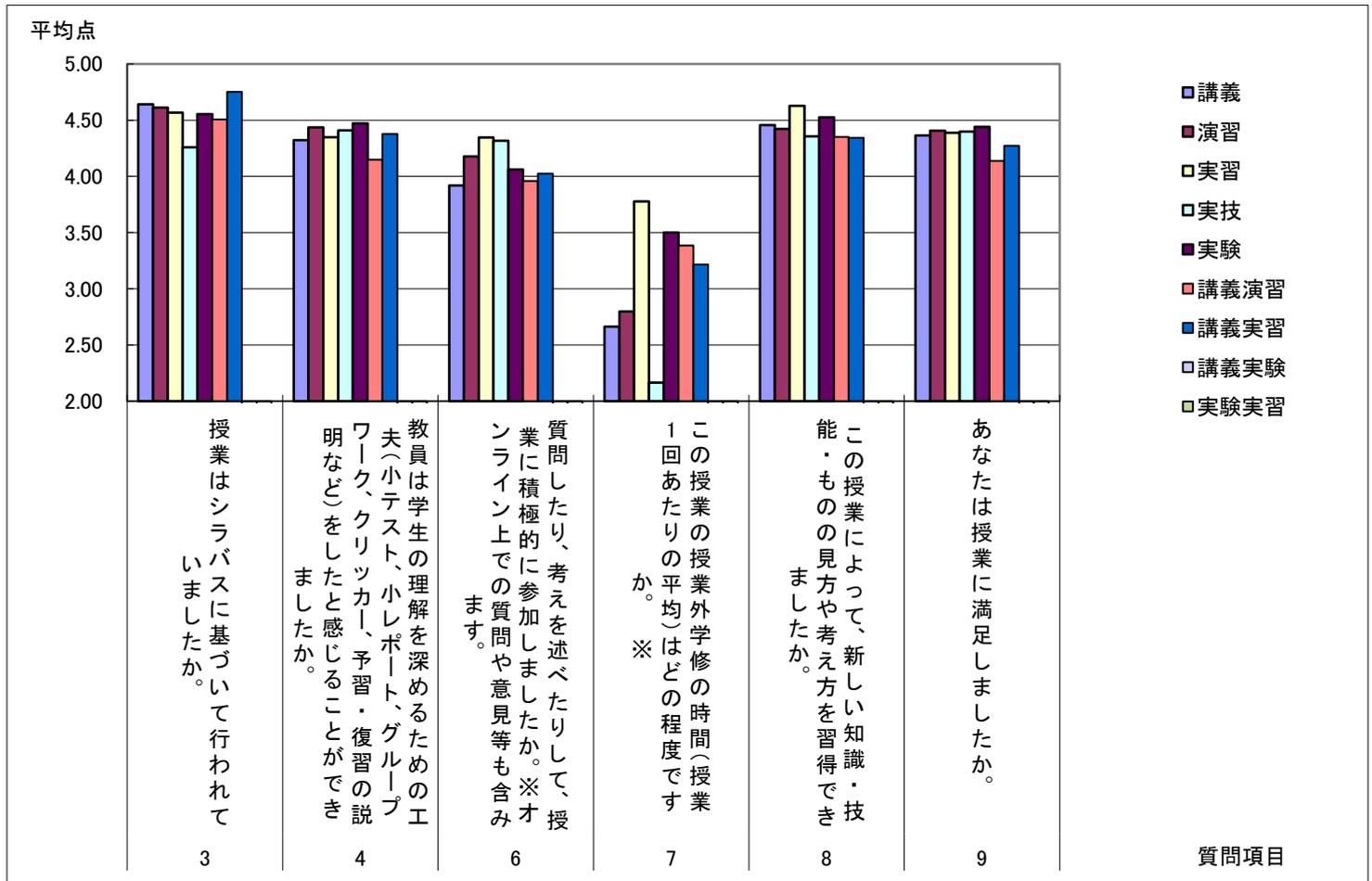


2021年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(授業方法別)大学

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	38,605	14,915	1,131	784	826	1,668	353	-	-
回答者数	17,149	8,030	520	425	305	701	104	-	-
回答率(%)	44.42	53.84	45.98	54.21	36.92	42.03	29.46	-	-

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.64	4.61	4.57	4.26	4.55	4.51	4.75	-	-
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.32	4.44	4.35	4.41	4.47	4.15	4.38	-	-
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。	3.92	4.18	4.35	4.32	4.06	3.96	4.02	-	-
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.66	2.80	3.78	2.16	3.50	3.38	3.22	-	-
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.46	4.42	4.63	4.36	4.52	4.35	4.34	-	-
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.37	4.41	4.39	4.40	4.44	4.14	4.27	-	-

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

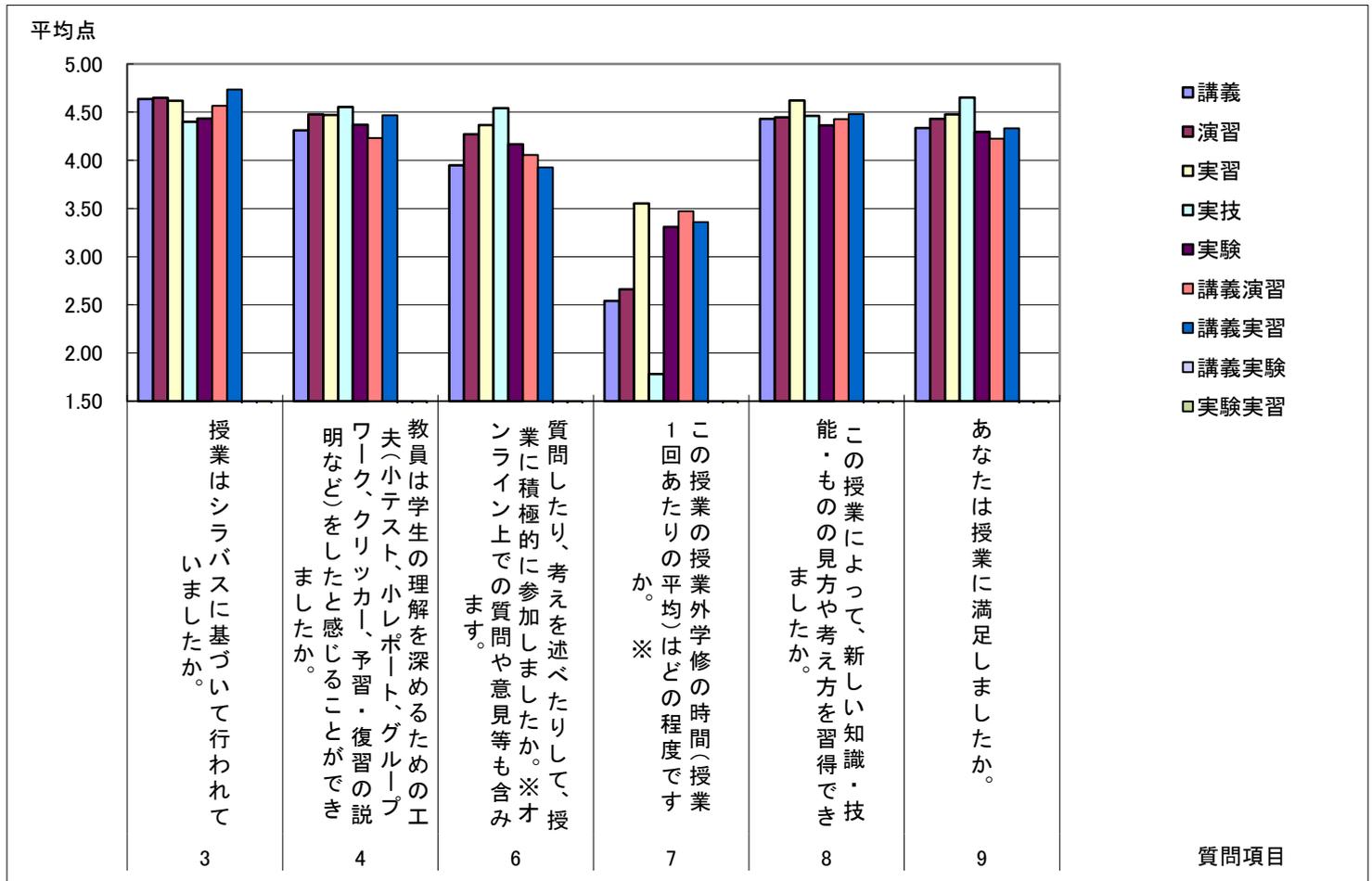


2021年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(授業方法別)大学

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	34,632	14,241	1,726	730	587	1,594	359	-	-
回答者数	12,916	6,719	623	285	193	580	96	-	-
回答率(%)	37.29	47.18	36.10	39.04	32.88	36.39	26.74	-	-

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.64	4.65	4.62	4.40	4.43	4.57	4.74	-	-
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.31	4.48	4.47	4.55	4.37	4.23	4.47	-	-
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。	3.95	4.27	4.37	4.54	4.16	4.06	3.93	-	-
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.54	2.66	3.55	1.78	3.31	3.47	3.36	-	-
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.43	4.45	4.62	4.46	4.36	4.43	4.48	-	-
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.34	4.43	4.48	4.65	4.30	4.22	4.33	-	-

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

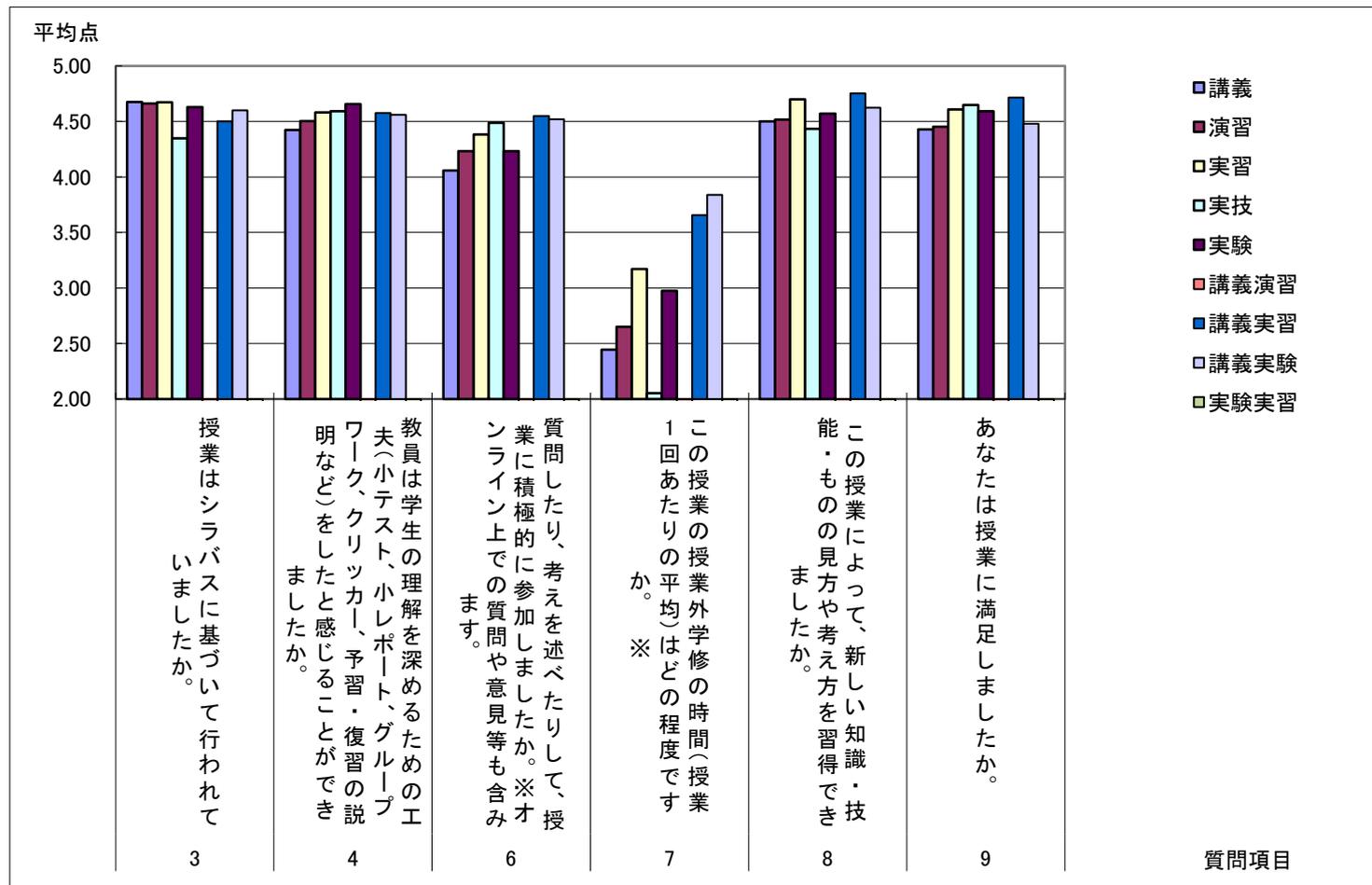


2021年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(授業方法別)短大

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	3,646	1,588	265	159	207	-	118	39	-
回答者数	2,013	945	130	88	131	-	68	26	-
回答率(%)	55.21	59.51	49.06	55.35	63.29	-	57.63	66.67	-

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.68	4.66	4.67	4.35	4.63	-	4.50	4.60	-
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.42	4.50	4.58	4.59	4.66	-	4.58	4.56	-
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。*オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.06	4.23	4.38	4.49	4.23	-	4.55	4.52	-
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。*	2.44	2.65	3.17	2.05	2.98	-	3.66	3.84	-
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.50	4.52	4.70	4.44	4.57	-	4.75	4.63	-
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.43	4.45	4.61	4.65	4.59	-	4.72	4.48	-

*授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

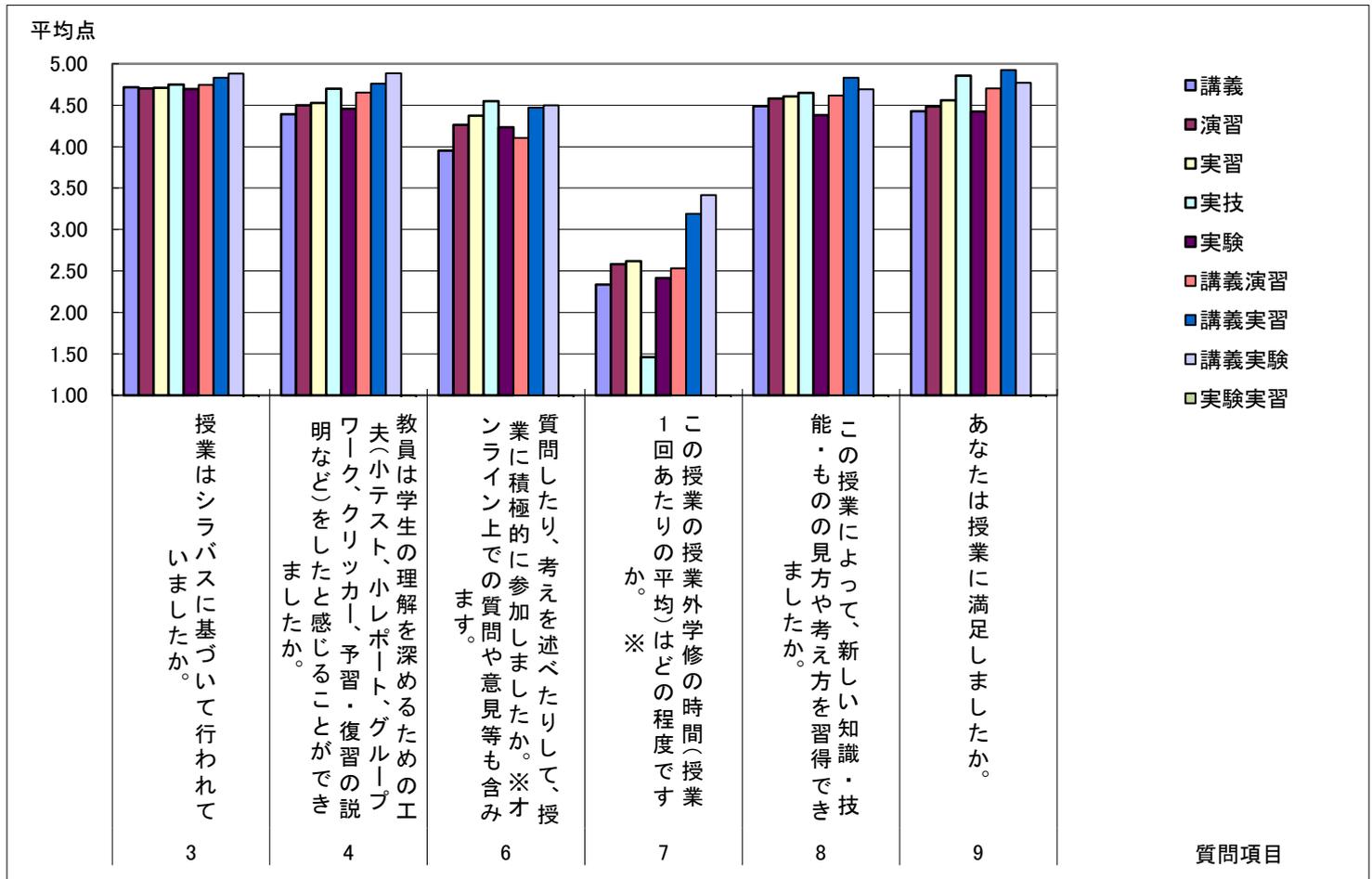


2021年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(授業方法別)短大

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	3,208	906	306	51	135	122	108	34	-
回答者数	1,684	465	165	21	79	47	53	26	-
回答率(%)	52.49	51.32	53.92	41.18	58.52	38.52	49.07	76.47	-

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.72	4.70	4.71	4.75	4.70	4.74	4.83	4.88	-
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.39	4.50	4.53	4.70	4.46	4.65	4.76	4.88	-
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。※オンライン上での質問や意見等も含みます。	3.95	4.26	4.37	4.55	4.23	4.11	4.47	4.50	-
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.34	2.58	2.62	1.46	2.41	2.53	3.19	3.42	-
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.49	4.58	4.61	4.65	4.38	4.62	4.83	4.69	-
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.43	4.49	4.56	4.86	4.42	4.70	4.92	4.77	-

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

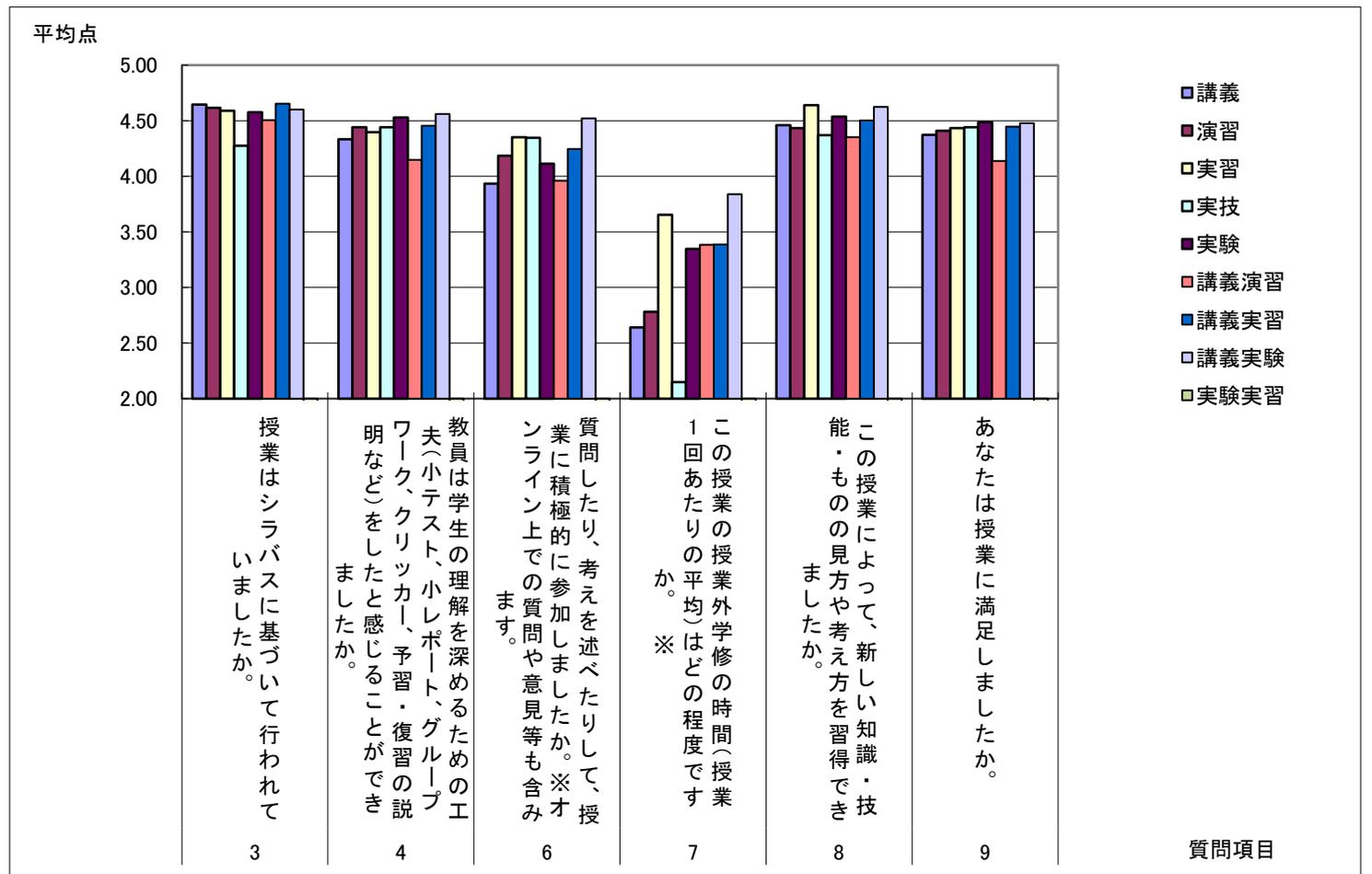


2021年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(授業方法別)大学・短大合計

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	42,059	16,436	1,396	943	1,033	1,668	471	39	-
回答者数	19,054	8,942	650	513	436	701	172	26	-
回答率(%)	45.30	54.40	46.56	54.40	42.21	42.03	36.52	66.67	-

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.64	4.62	4.59	4.27	4.58	4.51	4.65	4.60	-
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.33	4.44	4.40	4.44	4.53	4.15	4.46	4.56	-
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。*オンライン上での質問や意見等も含みます。	3.93	4.18	4.35	4.35	4.11	3.96	4.25	4.52	-
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。*	2.64	2.78	3.65	2.15	3.35	3.38	3.39	3.84	-
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.46	4.43	4.64	4.37	4.54	4.35	4.50	4.63	-
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.37	4.41	4.43	4.44	4.49	4.14	4.45	4.48	-

*授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

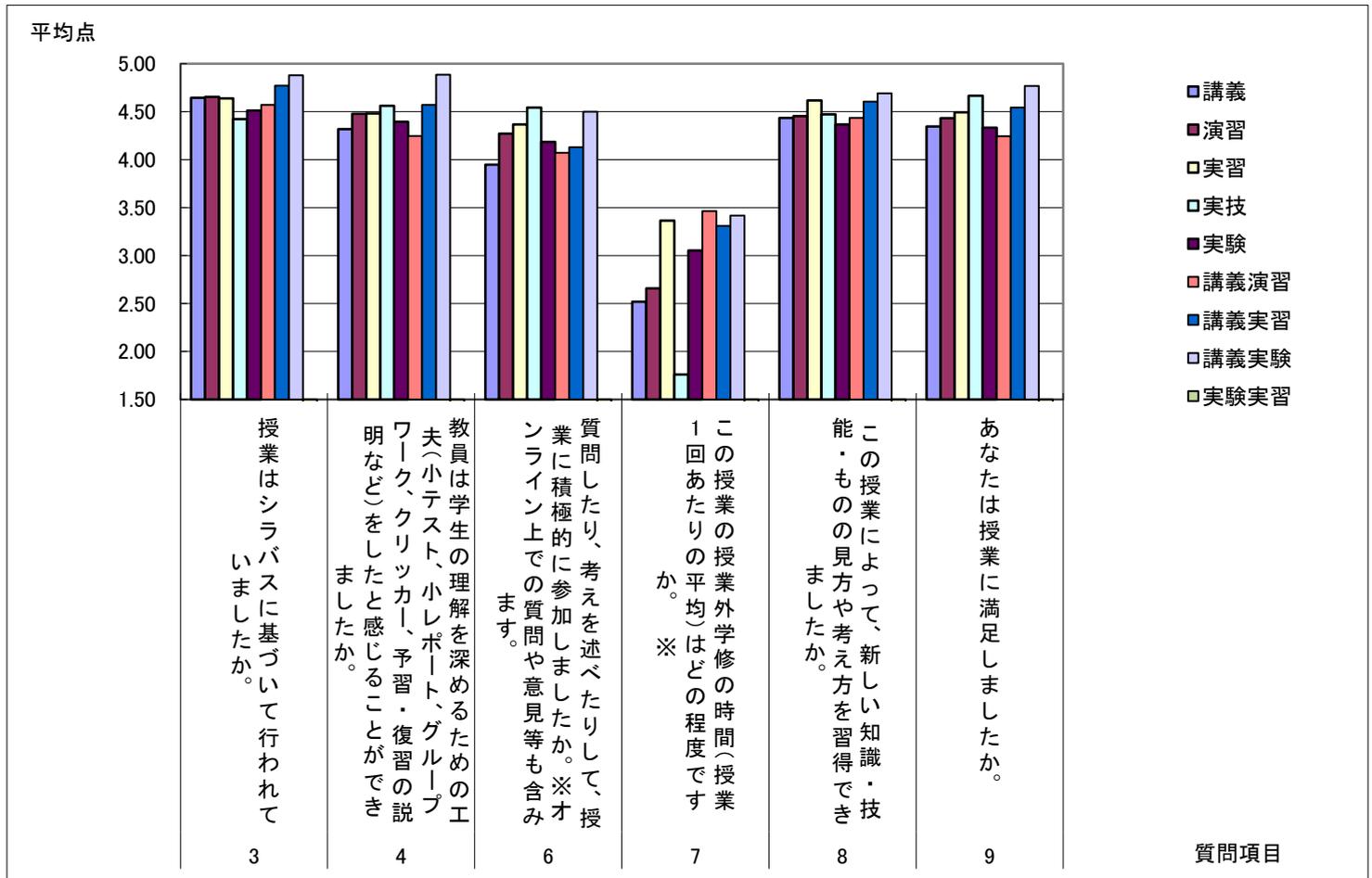


2021年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(授業方法別)大学・短大合計

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
履修者数	37,719	15,147	2,032	781	722	1,634	467	34	-
回答者数	14,524	7,184	788	306	272	597	149	26	-
回答率(%)	38.51	47.43	38.78	39.18	37.67	36.54	31.91	76.47	-

	講義	演習	実習	実技	実験	講義演習	講義実習	講義実験	実験実習
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.65	4.65	4.64	4.42	4.51	4.57	4.77	4.88	-
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.32	4.48	4.48	4.56	4.39	4.25	4.57	4.88	-
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。*オンライン上での質問や意見等も含みます。	3.95	4.27	4.37	4.54	4.19	4.07	4.13	4.50	-
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。*	2.52	2.66	3.36	1.76	3.05	3.46	3.31	3.42	-
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.44	4.45	4.62	4.47	4.37	4.44	4.60	4.69	-
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.35	4.43	4.49	4.67	4.33	4.24	4.54	4.77	-

*授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

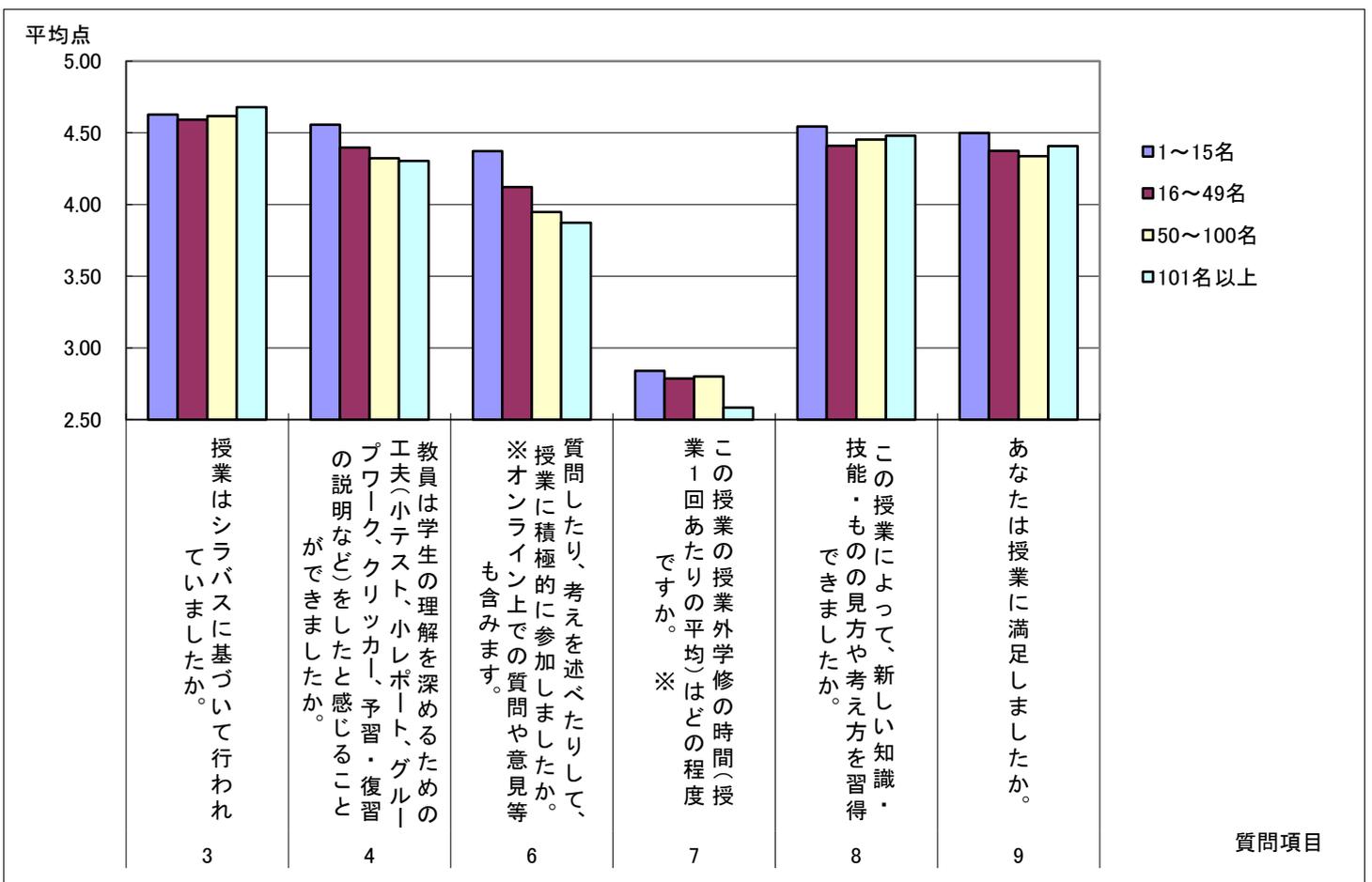


2021年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(クラスサイズ別)大学

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	1,958	20,371	22,461	13,492
回答者数	925	10,424	9,861	6,024
回答率(%)	47.24	51.17	43.90	44.65

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.63	4.59	4.62	4.68
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.56	4.40	4.32	4.30
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.37	4.12	3.95	3.87
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.84	2.79	2.80	2.58
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.54	4.41	4.45	4.48
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.50	4.37	4.34	4.41

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

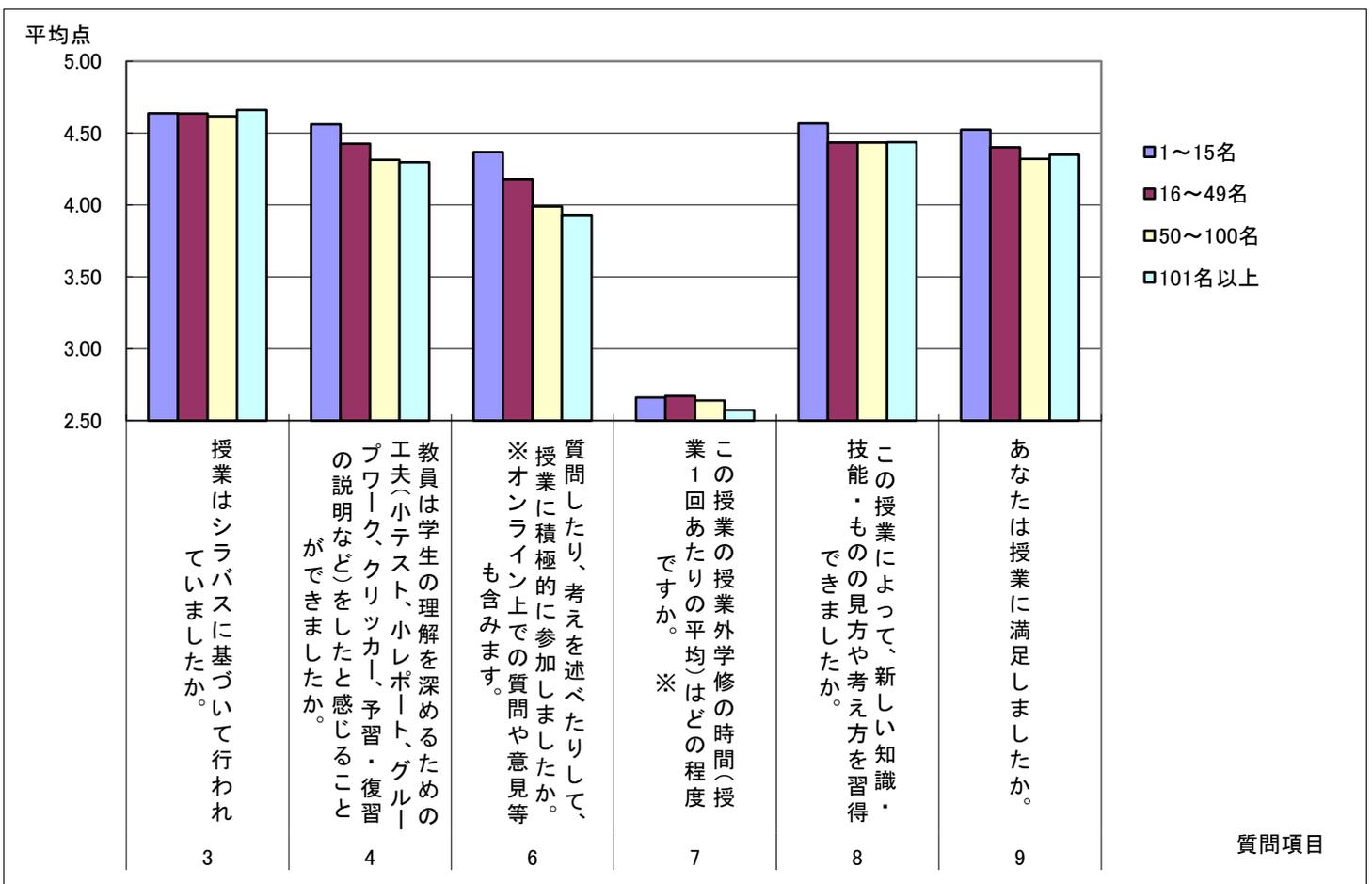


2021年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(クラスサイズ別)大学

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	2,269	21,106	19,344	11,150
回答者数	940	9,247	7,002	4,223
回答率(%)	41.43	43.81	36.20	37.87

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.64	4.64	4.62	4.66
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.56	4.43	4.32	4.30
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.37	4.18	3.99	3.93
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.66	2.67	2.64	2.57
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.57	4.43	4.43	4.44
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.52	4.40	4.32	4.35

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

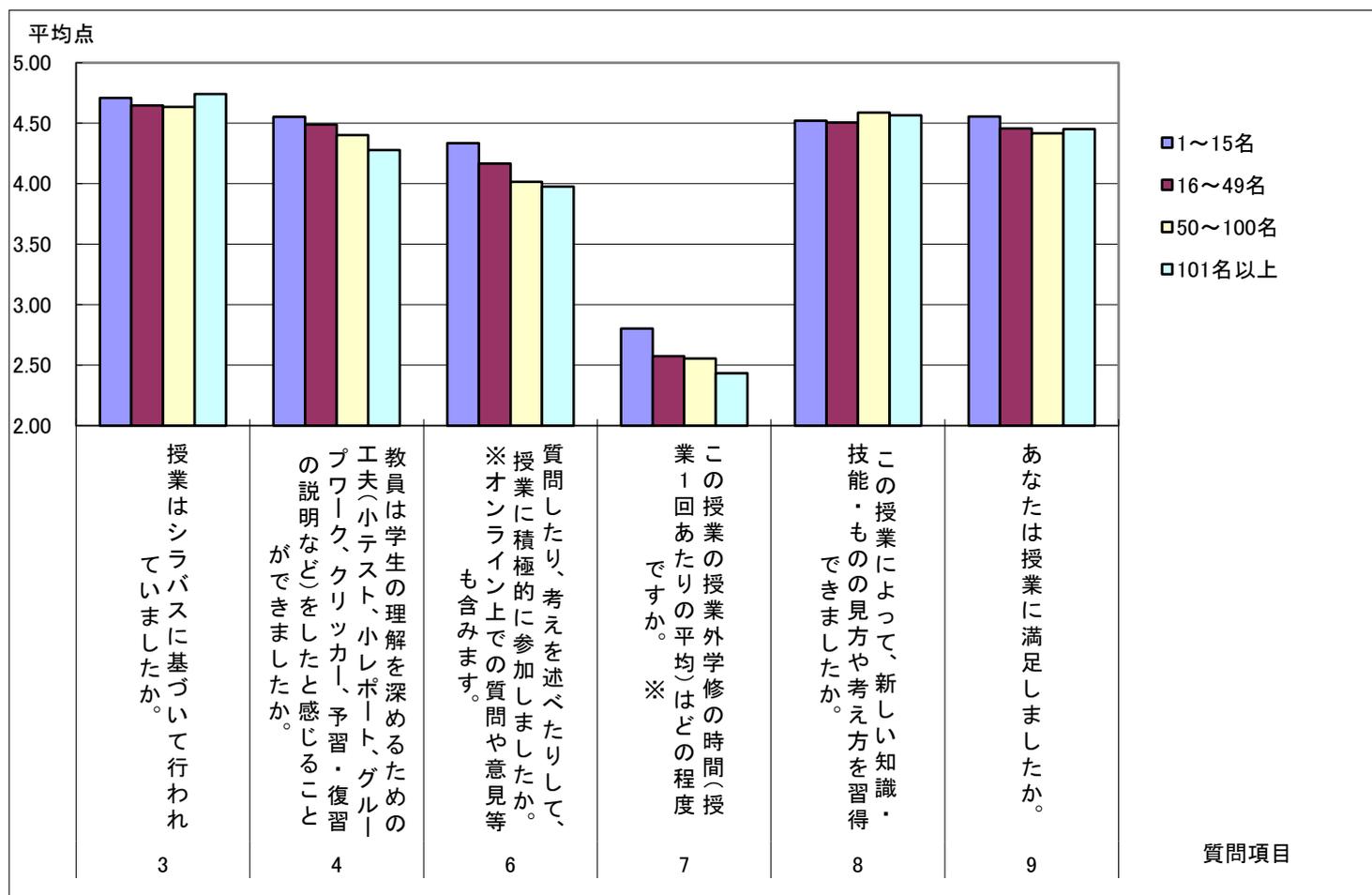


2021年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(クラスサイズ別)短大

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	465	4,502	595	460
回答者数	288	2,520	357	236
回答率(%)	61.94	55.98	60.00	51.30

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.71	4.65	4.64	4.74
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.55	4.49	4.40	4.28
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.33	4.17	4.02	3.98
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.80	2.58	2.55	2.43
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.52	4.51	4.59	4.57
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.55	4.46	4.42	4.45

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

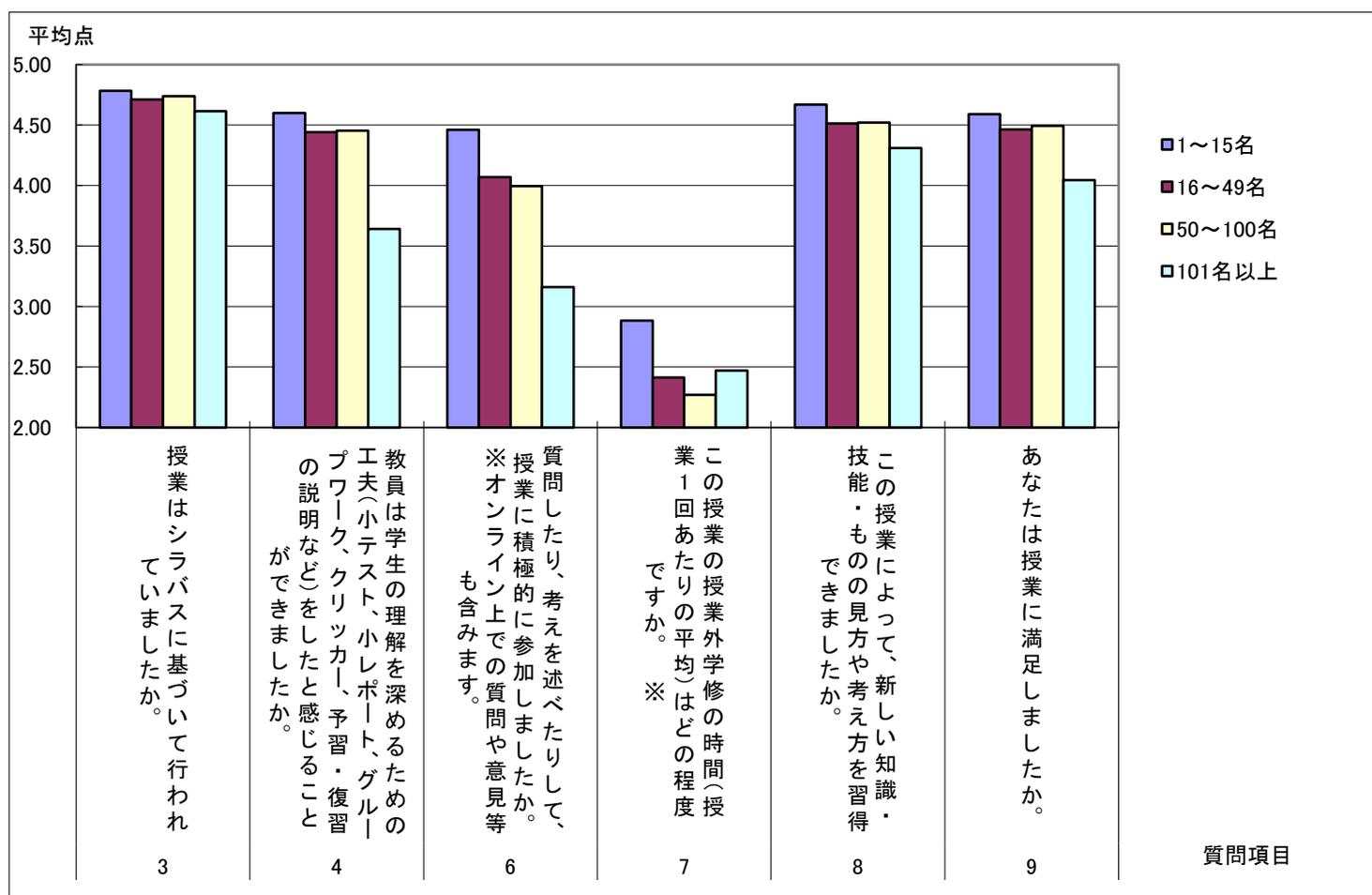


2021年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(クラスサイズ別)短大

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	348	3,649	769	104
回答者数	185	1,939	368	48
回答率(%)	53.16	53.14	47.85	46.15

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.78	4.71	4.74	4.61
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.60	4.44	4.45	3.64
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.46	4.07	4.00	3.16
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.88	2.41	2.27	2.47
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.67	4.51	4.52	4.31
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.59	4.46	4.49	4.04

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

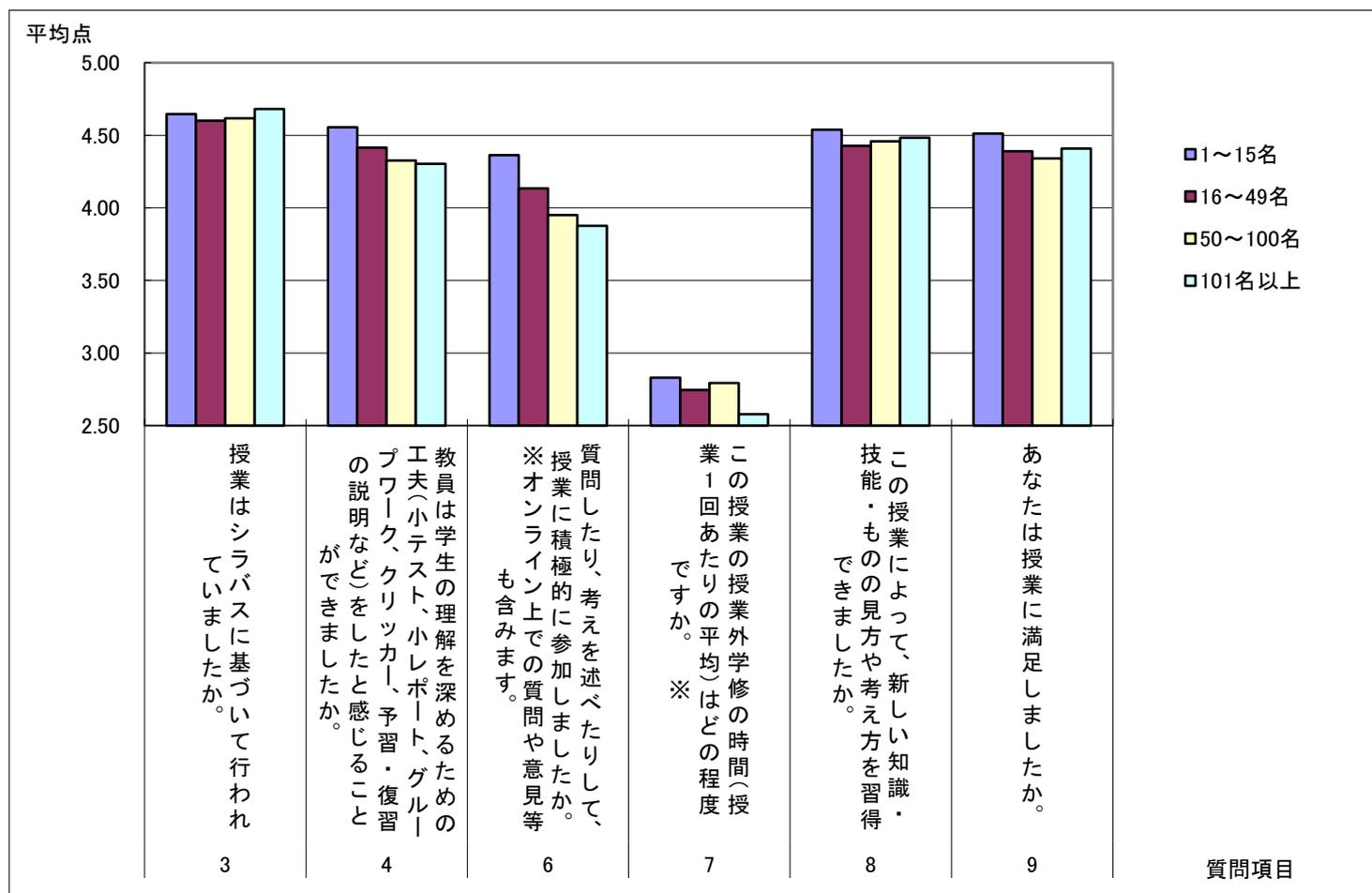


2021年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(クラスサイズ別)大学・短大合計

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	2,423	24,614	23,056	13,952
回答者数	1,213	12,803	10,218	6,260
回答率(%)	50.06	52.02	44.32	44.87

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.65	4.60	4.62	4.68
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.56	4.42	4.33	4.30
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.36	4.13	3.95	3.88
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.83	2.75	2.79	2.58
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.54	4.43	4.46	4.48
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.51	4.39	4.34	4.41

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

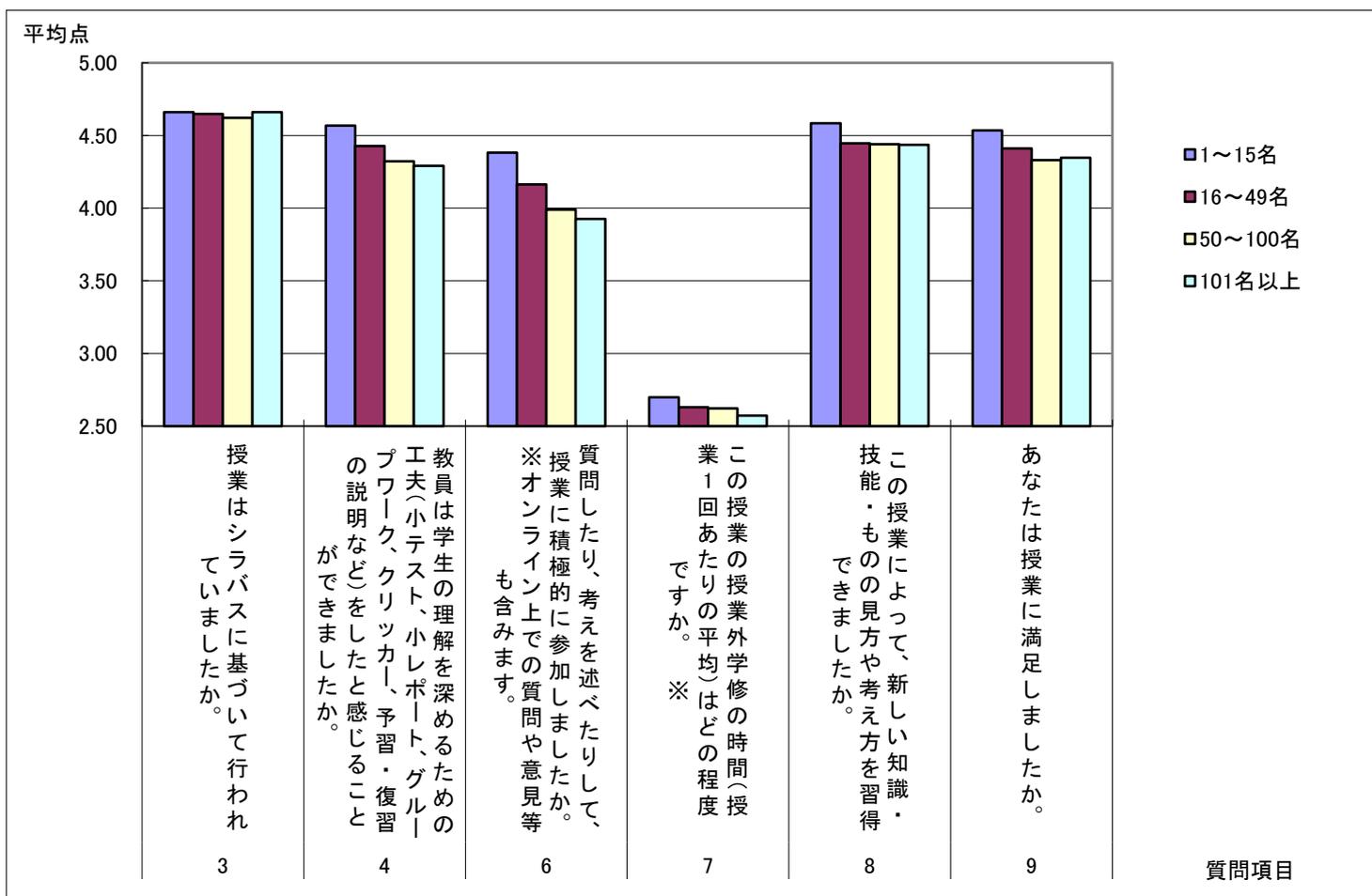


2021年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(クラスサイズ別)大学・短大合計

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
履修者数	2,617	24,552	20,113	11,254
回答者数	1,125	11,080	7,370	4,271
回答率(%)	42.99	45.13	36.64	37.95

	1～15名	16～49名	50～100名	101名以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.66	4.65	4.62	4.66
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.57	4.43	4.32	4.29
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含まれます。	4.38	4.16	3.99	3.93
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.70	2.63	2.62	2.57
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.58	4.45	4.44	4.44
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.53	4.41	4.33	4.35

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

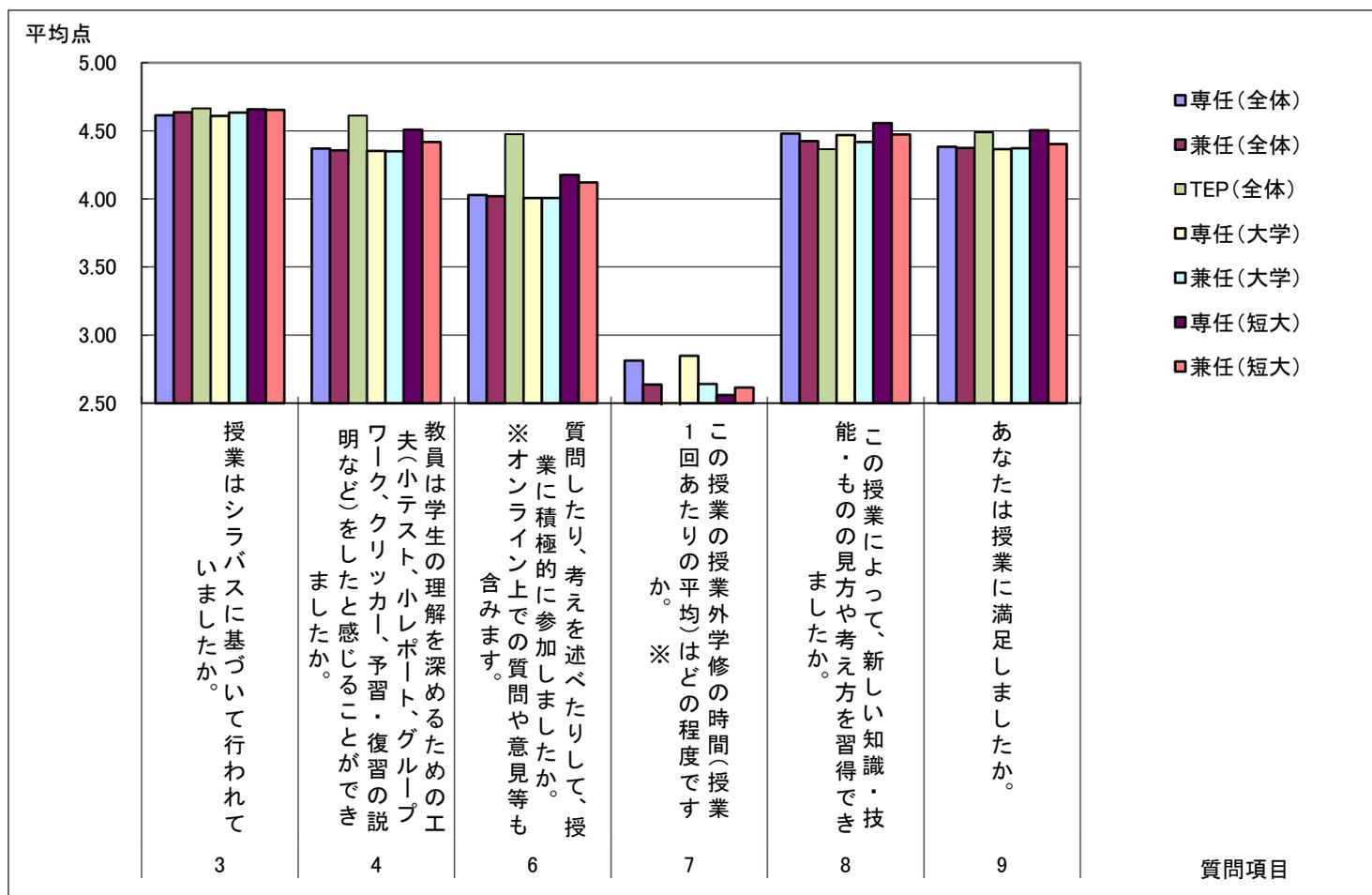


2021年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(専任・兼任別)

	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
履修者数	33,357	28,898	620	30,156	26,336	3,320	2,702
回答者数	15,278	14,406	288	13,398	13,026	1,944	1,457
回答率(%)	45.80	49.85	46.45	44.43	49.46	58.55	53.92

	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.61	4.64	4.67	4.61	4.63	4.66	4.65
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.37	4.36	4.61	4.35	4.35	4.51	4.42
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.03	4.02	4.48	4.01	4.01	4.18	4.12
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.81	2.64	2.25	2.85	2.64	2.56	2.61
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.48	4.42	4.37	4.47	4.42	4.56	4.47
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.38	4.38	4.49	4.37	4.37	4.50	4.40

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

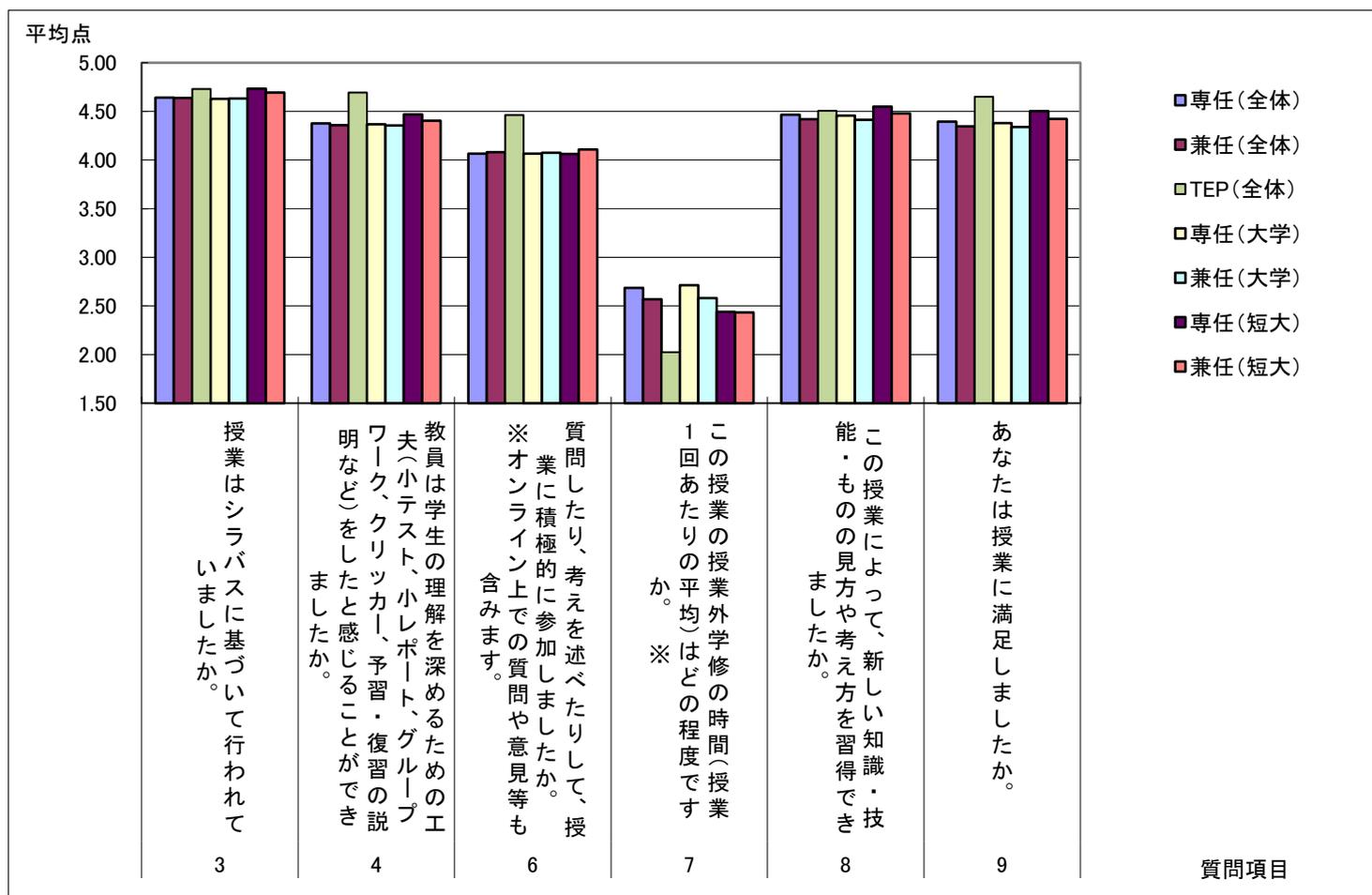


2021年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(専任・兼任別)

	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
履修者数	31,466	25,275	919	28,757	23,401	2,792	1,994
回答者数	12,389	10,657	392	10,963	9,690	1,472	1,027
回答率(%)	39.37	42.16	42.66	38.12	41.41	52.72	51.50

	専任(全体)	兼任(全体)	TEP(全体)	専任(大学)	兼任(大学)	専任(短大)	兼任(短大)
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.64	4.64	4.73	4.63	4.63	4.73	4.69
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.38	4.36	4.69	4.37	4.35	4.47	4.40
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.06	4.08	4.46	4.07	4.08	4.06	4.11
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。※	2.68	2.57	2.02	2.71	2.58	2.44	2.43
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.47	4.42	4.51	4.46	4.41	4.55	4.48
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.39	4.35	4.65	4.38	4.34	4.50	4.42

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

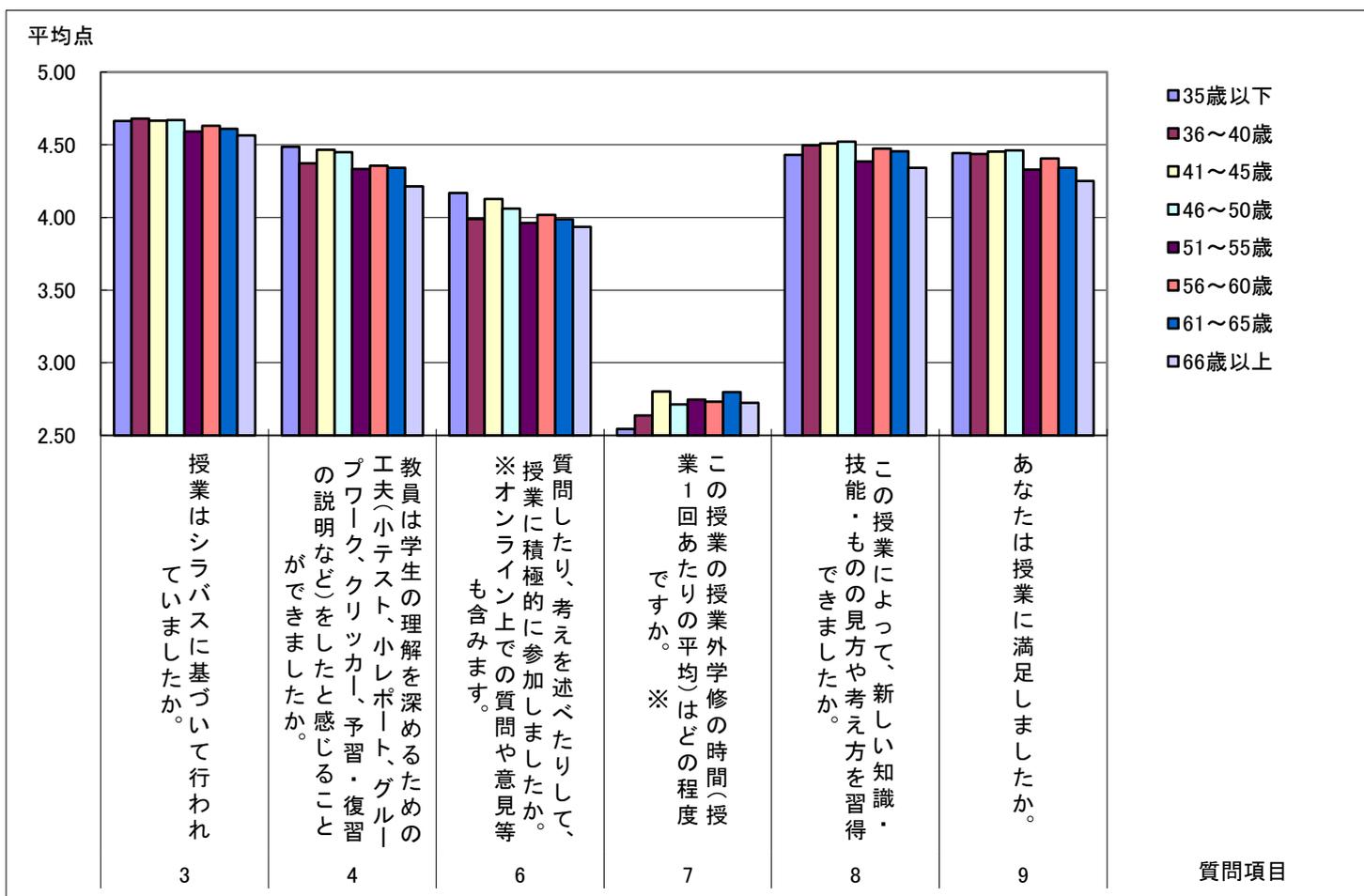


2021年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(教員の年齢別)大学

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	1,831	2,615	7,105	7,439	8,293	8,970	10,091	10,768
回答者数	843	1,141	3,249	3,602	3,802	4,345	4,548	5,182
回答率(%)	46.04	43.63	45.73	48.42	45.85	48.44	45.07	48.12

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.66	4.68	4.66	4.67	4.59	4.63	4.61	4.56
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.49	4.37	4.46	4.45	4.33	4.36	4.34	4.21
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含まれます。	4.17	3.99	4.13	4.06	3.96	4.02	3.99	3.94
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。 ※	2.55	2.64	2.80	2.71	2.75	2.73	2.80	2.72
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.43	4.50	4.51	4.52	4.39	4.47	4.46	4.34
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.44	4.44	4.45	4.46	4.33	4.40	4.34	4.25

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

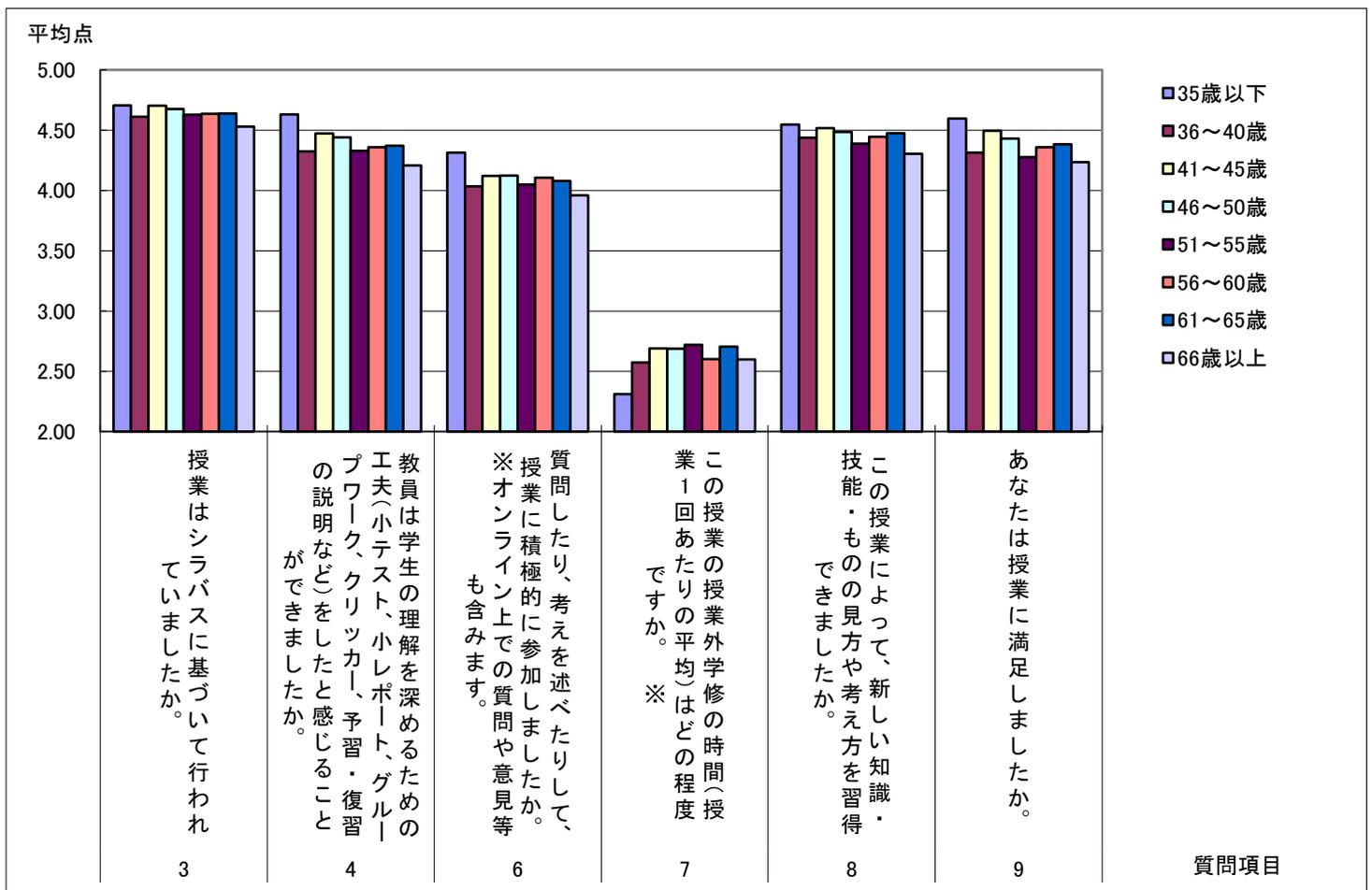


2021年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(教員の年齢別)大学

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	2,145	3,168	7,939	6,780	7,747	7,931	8,651	8,716
回答者数	947	1,203	2,924	2,623	2,806	3,390	3,449	3,703
回答率(%)	44.15	37.97	36.83	38.69	36.22	42.74	39.87	42.49

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.71	4.61	4.70	4.68	4.63	4.64	4.64	4.53
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.63	4.32	4.47	4.44	4.33	4.36	4.37	4.21
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含まれます。	4.31	4.03	4.12	4.12	4.05	4.11	4.08	3.96
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。 ※	2.31	2.57	2.69	2.69	2.72	2.60	2.70	2.60
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.55	4.44	4.52	4.48	4.39	4.45	4.48	4.30
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.60	4.31	4.50	4.43	4.28	4.36	4.38	4.23

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

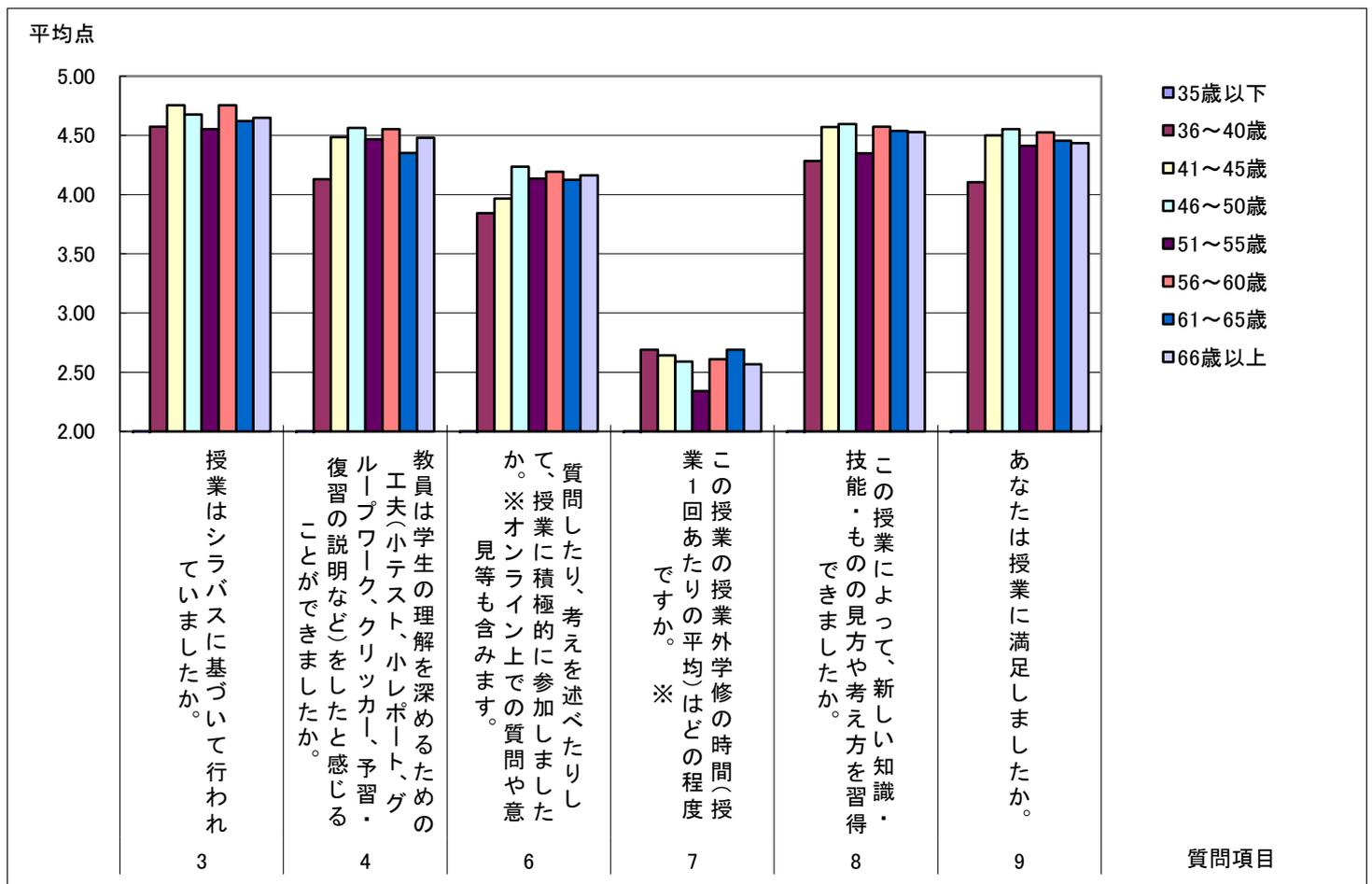


2021年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(教員の年齢別)短大

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	-	216	203	927	686	1,057	1,118	1,815
回答者数	-	108	99	485	396	604	619	1,090
回答率(%)	-	50.00	48.77	52.32	57.73	57.14	55.37	60.06

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	-	4.57	4.76	4.68	4.55	4.76	4.62	4.65
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	-	4.13	4.48	4.56	4.47	4.55	4.35	4.48
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含まれます。	-	3.84	3.97	4.24	4.14	4.19	4.13	4.16
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。 ※	-	2.69	2.64	2.59	2.34	2.61	2.69	2.57
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	-	4.28	4.57	4.60	4.35	4.57	4.54	4.53
9 あなたは授業に満足しましたか。	-	4.10	4.50	4.55	4.41	4.53	4.46	4.43

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

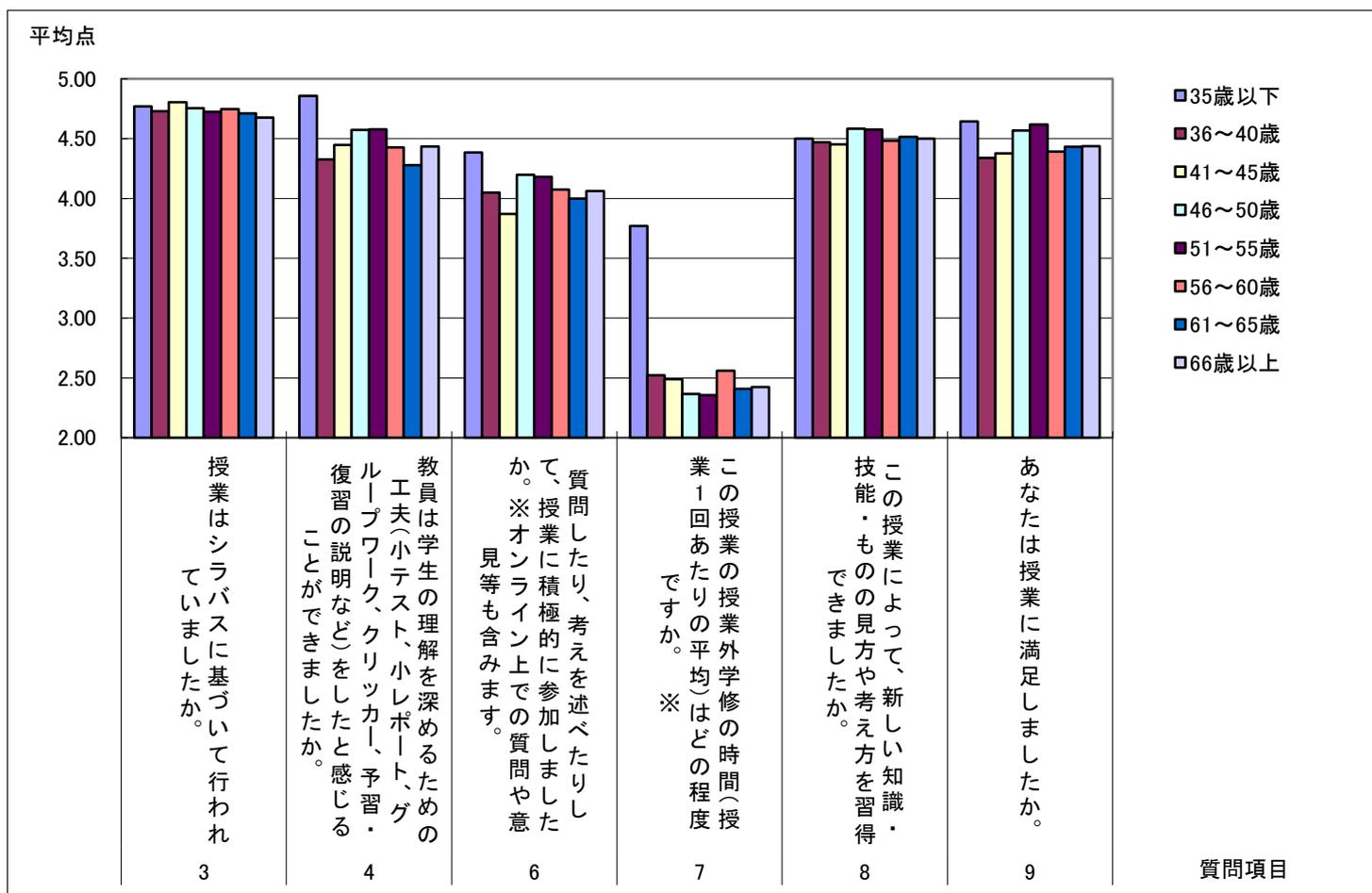


2021年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(教員の年齢別)短大

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	20	109	235	531	743	641	1,077	1,430
回答者数	14	51	106	302	374	344	516	792
回答率(%)	70.00	46.79	45.11	56.87	50.34	53.67	47.91	55.38

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.77	4.73	4.80	4.75	4.72	4.75	4.71	4.68
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.86	4.33	4.45	4.57	4.58	4.43	4.28	4.44
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含まれます。	4.38	4.05	3.87	4.20	4.18	4.08	4.00	4.06
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。 ※	3.77	2.52	2.49	2.36	2.36	2.56	2.41	2.42
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.50	4.47	4.45	4.58	4.58	4.48	4.52	4.50
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.64	4.34	4.38	4.57	4.62	4.39	4.43	4.44

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

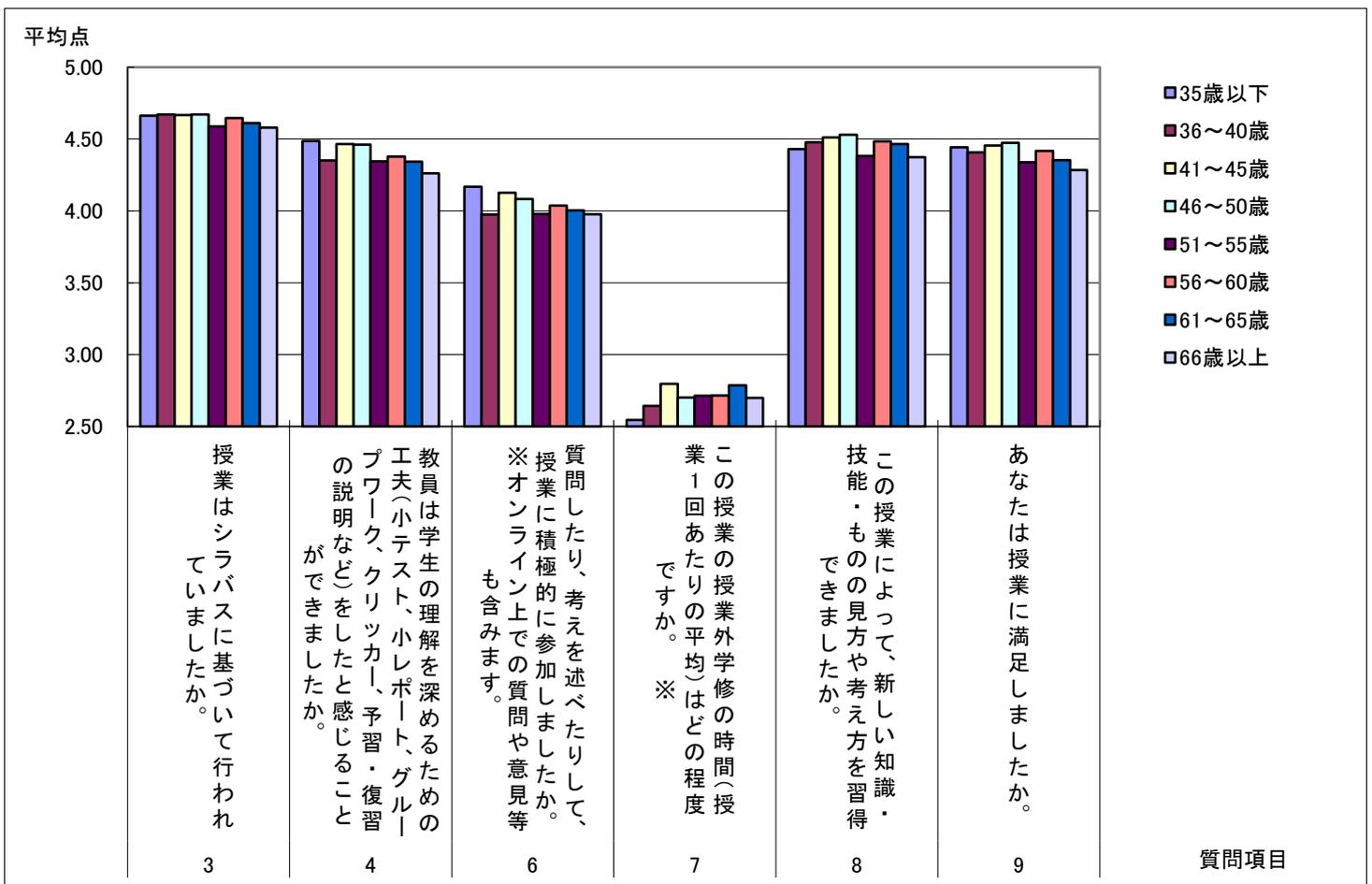


2021年度前期 授業改善のためのアンケート集計結果(教員の年齢別)大学・短大合計

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	1,831	2,831	7,206	8,366	8,979	9,978	11,176	12,508
回答者数	843	1,249	3,298	4,087	4,198	4,918	5,147	6,232
回答率(%)	46.04	44.12	45.77	48.85	46.75	49.29	46.05	49.82

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.66	4.67	4.67	4.67	4.59	4.65	4.61	4.58
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.49	4.35	4.46	4.46	4.35	4.38	4.34	4.26
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含みます。	4.17	3.98	4.13	4.08	3.98	4.04	4.00	3.98
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。 ※	2.55	2.64	2.80	2.70	2.71	2.72	2.79	2.70
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.43	4.48	4.51	4.53	4.38	4.49	4.47	4.37
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.44	4.41	4.46	4.47	4.34	4.42	4.35	4.28

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。

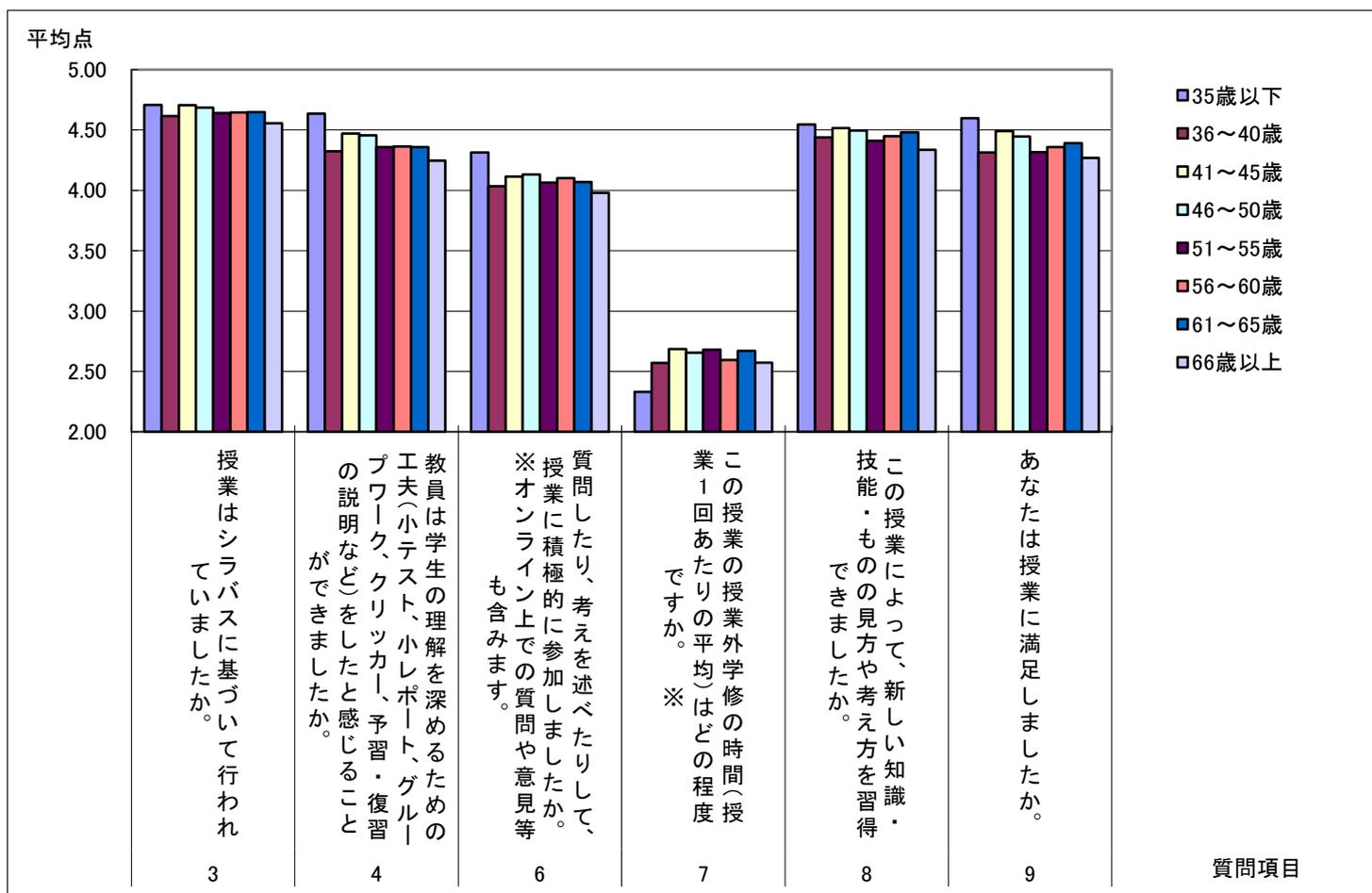


2021年度後期 授業改善のためのアンケート集計結果(教員の年齢別)大学・短大合計

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
履修者数	2,165	3,277	8,103	7,311	8,490	8,523	9,728	10,063
回答者数	961	1,254	2,997	2,925	3,180	3,699	3,965	4,457
回答率(%)	44.39	38.27	36.99	40.01	37.46	43.40	40.76	44.29

	35歳以下	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51～55歳	56～60歳	61～65歳	66歳以上
3 授業はシラバスに基づいて行われていましたか。	4.71	4.62	4.70	4.68	4.64	4.64	4.65	4.55
4 教員は学生の理解を深めるための工夫(小テスト、小レポート、グループワーク、クリッカー、予習・復習の説明など)をしたと感じることができましたか。	4.64	4.32	4.47	4.45	4.36	4.36	4.36	4.25
6 質問したり、考えを述べたりして、授業に積極的に参加しましたか。 ※オンライン上での質問や意見等も含まれます。	4.31	4.03	4.11	4.13	4.06	4.10	4.07	3.98
7 この授業の授業外学修の時間(授業1回あたりの平均)はどの程度ですか。 ※	2.33	2.57	2.69	2.66	2.68	2.59	2.67	2.57
8 この授業によって、新しい知識・技能・ものの見方や考え方を習得できましたか。	4.55	4.44	4.51	4.50	4.41	4.45	4.48	4.34
9 あなたは授業に満足しましたか。	4.60	4.31	4.49	4.45	4.32	4.36	4.39	4.27

※授業外学修には、予習・復習、課題・レポートの作成、作品の製作、プレゼンテーションの準備、友人等との議論、PCやスマホ等で関連事項を検索した時間を含みます。



2 各学部の令和3年度FD活動の概要報告

(1) 家政学部

1. 令和3年度家政学部FD委員会構成

委員長：矢野 博之（児童学科） 委員：水谷 千代美（被服学科） 岩瀬 靖彦 小林 実夏（食物学科）
小関 右介 林原 泰子（ライフデザイン学科）
大妻女子大学ファカルティディベロップメント委員会：市川 博（家政学部長）

2. 授業改善のためのアンケート

昨年度から UNIPA を利用しての WEB 方式への変更となり、二年目である令和3年度も、コロナ禍の影響により WEB 方式での実施となった。前期（中間・学期末）・後期（中間・学期末）とも同じ設問構成とし、設問数全9問（選択式は6段階）により執り行った。

回答依頼は、中間期は教員の任意とし、学期末のみ昨年同様、専任教員・非常勤教員ともに原則全科目の実施対象で行った。実施期間は、前期は「中間」が令和3年5月14日（金）から5月27日（木）まで、「(前期) 学期末」は令和3年7月2日（金）から7月15日（木）までで実施。後期は「中間」が令和3年11月8日（月）から11月20日（土）、「(後期) 学期末」は令和4年1月11日（火）から1月24日（月）までで実施した。以下、「授業改善のためのアンケート」調査（学期末）の実施とその集計、結果等、概況を記す。

① 前後期実施状況 ※分析は前期・後期ともに学期末のものについて記述する。

家政学部	回答者数／履修者数	前期：15,043名／29,902名	(回答率 50.3%	*昨年 62.9%)
		後期：11,271名／27,664名	(回答率 40.7%	*昨年 40.9%)

② 総評：家政学部全体として

満足度（Q9）の平均点は、前期 4.40、後期 4.37 であった。前年度（後期のみ）は 4.15 だったので、0.2 ポイント以上上回る結果となった。授業への参加（Q6）の平均点は、前期 4.01、後期 4.10 であり、前年度は前期 3.49、後期 3.68 に照らすと、大きく上回った。

③ 家政学部全体とアンケート区分別を比較して

「被服学科専門科目」で多くの項目で全体の平均点を上回ったことが特筆される。総じて、授業外学修時間（Q7）については、±0.1 ポイント以上が散見され、バラつきが大きい。満足度（Q9）については、あまり大差はない中、「被服学科専門科目」（前後期）、「諸課程科目（千学部）」（前期）、「児童学科専門科目」および「諸課程科目（千学部／短大）」の後期で、全体を 0.1 ポイント以上上回る結果となった。

④ 家政学部全体と授業形態別を比較して

傾向として、「実習」系が全体の平均点を大きく上回る項目が多く、「実技」系は大きく下回る項目が多い結果となった。ただし、「実習」、「実技」とともに設問によっては全体を上回る（下回る）ものがあり、平均点で見るとバラついた。授業への参加（Q6）では、「実技」、「実習」が前後期ともに全体を大きく上回った。満足度（Q9）では、「実技」が前後期ともに全体を上回る結果となった。

⑤ 家政学部全体とクラスサイズ別を比較して

傾向は例年と同様で、「1～15名」が全体の平均点を上回る項目が多く、「101名以上」が下回る項目が多い結果となった。授業への参加（Q6）では、クラスサイズが小さい（～15名）ほど平均点が高く、クラスサイズが大きいほど平均点が低い傾向となった。

満足度 (Q9) については、「1～15 名」が前後期ともに全体より 0.1 ポイント以上高く、0.1 ポイント以上下回るクラスサイズはなかった。

3. 学部専任教員による FD 報告

今年度は、後期授業アンケート結果も示された後、3 月の年度末期になったが、下記の A～C の項目について、一人当たりの記述量が字×行相当で収まるよう、記名入りの報告文の作成を依頼し、3 月末締め切りで各教員から FD 報告文をメールにて回収した。

質問項目については、昨年度のものをつまみつつ、その後のコロナ禍対応の進捗状況もにらみながら、令和 3 年度の状況をふまえての質問項目を FD 委員会にて検討し、設問を設定した。

以下 A～D の 4 項目の中から自由選択式で、15～20 行での記載で記名入り報告文を各教員から回収した。

-
- 項目 A：今年度の授業アンケート実施科目のうち 1 科目を選択し、その結果を踏まえた次年度以降の取り組みについて記して下さい。
 - 項目 B：コロナ禍にともなう授業実施形態の変更について、その方法と利点および問題点を挙げてください。
 - 項目 C：コロナ禍における授業の成績評価について、苦労した点やどのように対処したかを記してください。
 - 項目 D：アクティブ・ラーニングを実施した授業があれば、その効果や問題点を挙げてください。
-

4. 本年度の家政学部 FD 委員会による主な報告・審議事項

第 1 回家政学部 FD 委員会 連絡及び文書協議 (11 月 25 日 (木)～12 月 7 日 (火))：2021 年度後期全学 FD 研修会の講演者の選出について (→適切な候補者の人選に至れなかった)

第 2 回家政学部 FD 委員会 (3 月 10 日 (木))：UNIPA による「授業改善のためのアンケート」実施結果をふまえての FD 活動報告書に向けての方向性の確認、次年度 FD 活動の実施に向けて、年度内の委員会開催を決定した。

第 3 回家政学部 FD 委員会 (3 月 11 日 (金))：Zoom によるオンラインミーティングにて、報告書作成を詰めて各教員への依頼を決定 (3 月 11 日～3 月 31 日の回収)、次年度の活動への申し送り事項と課題を確認した。

今年度の活動報告の詳細については「2021 年度家政学部 FD 報告書」を参照されたい。

「家政学部 FD 報告書」のアンケート分析については過年度同様株式会社教育ソフトウェア社に外部委託し、2 月 18 日に発注、3 月 31 日に納品された。

5. 次年度への課題と引き継ぎ事項

大きく以下の二点について焦点化した。

・家政学部としての学内 FD 活動の検討と実施 (*対面型座学、実験、実習、実技等の学習活動が混在する学科組織に向けての FD 活動の在り方の模索と研修会の提案)

・令和 4 年度の「授業改善のためのアンケート」の適切な実施のための委員会としての留意事項の確認、ならびに、アンケート結果からのフィードバック等活用についての学内検討

以上

(2) 文学部

新型コロナの流行により、一昨年度まで継続してきた所謂「FD 活動」は、今年度も大幅に変更を余儀なくされた。例年は学科ごとに「公開授業」「授業担当者懇談会」「保証人と教員の懇談会」「学会活動」などを実施してきたが、この2年間、非常勤講師との懇談会や、各学科の学内学会活動などは、何とかオンラインで実施してきたが、「公開授業」や「保証人と教員の懇談会」は実施できなかった。

ただし、従来から「公開授業」には参観者がほとんどなく、その意義が問われていた。また、千鳥会総会に併せて開かれていた保証人と教員の懇談会も、此処数年は保証人の関心が就職結果に集中していたため、実施方法の工夫が必要であった。この2つの行事は、再開できるようになった時点で、実施法についての再検討が不可欠だと思われる。

1. 学生懇談会

今年度の文学部FD 委員会では、授業に特化して実施されている「授業改善のためのアンケート」では汲み上げられない学生たちの意見を直接聞き迅速に対応するために、文字通りの実質的なFD活動としての「学生懇談会」を実施することにした。

このような行事は、既に多くの大学では実施されてきたものである。本学においては「学長との懇談会」が開かれてきたが、全学の諸問題が提起されているのみで、文学部の事情に即して適時に学生のニーズを汲み取り、迅速に対応を講じる機会はなかった。

この学生との懇談会で顕在化した諸問題については、如何に対応したのか(出来なかったのか)という成果を、学部の公式サイトで対外的に公開する意義は少なくないはずである。このような学部の真摯な取り組みを、有り体に世に公表することにより、学生募集や大学に対する評価の向上にも寄与するはずである。

さて、新規事業を起こす場合には色々と手続が必要である。今回はFD 委員会から学部長に対する提案をしたところ、大筋での了承が得られた。そこで、

1. FD 委員会が担うべき定例の学部行事として「学生懇談会」を実施したい。
2. 大学側から、学部長、三学科長、教務委員長、学生委員長、事務方の出席を要請したい。
3. 多種の入学経路(編入、留学など)を経てきた学生たちの意見や要望の集約を重視したい。

という趣旨の「企画書」を提出し、学科長会議で了承された。

以上の経緯を経て、該当役職者には「出席依頼書」を、事務局長に対して事務方からの参加を要請する「要望書」を提出した。事務局長から趣旨の賛同は得られたものの、残念ながら、その場で事務方からの公式な発言は出来ない可能性があるとのことで、オブザーバーとしての出席ということに成った。

本来ならば前期末に実施し後期には出来ることから改善したかったのであるが、今年度はコロナ禍にあって、やっと年度末の1月25日に開催することができた。コロナ蔓延下での対面実施だったので学生の参加者は3学科から6名と決して多くはなかったが、かえって忌憚のない意見交換ができたように思う。特に、コピー料金が高い(1枚10円は学外と変わらない)、学内にリアルタイムオンライン授業が受講できる環境が用意されていないのは困る、などという学部レベルでは対処のしようのない問題提起があった(そのために事務方からの出席を求めたのであるが……)。

一方、学生諸君が特に問題だと感じているのは、授業担当者による遅刻欠席の扱いや成績評価に関する基準の違いであった。この件については、大学も一定の条件統一に努めているものの、非常勤講師を含めて大勢の教員に徹底するのは難しいという事情があることを説明したが、納得して貰えたかどうか。しかし、事情を説

明できたこと自体は無駄ではなかったと思われる。

何れにしても、学生への告知方法や開催時期など出てきた諸問題について今後継続して検討した上で、来年度からの本格的定例実施に向けて進めていくこととなった。

2. 授業改善のためのアンケート

一昨年までは「授業に関するアンケート」と呼ばれており、授業時間を割いて実施されていた。それも、アンケート記述中は教員が教室を出て行き、学生の手によって回収したマークシートを厳封するなどして、かなり厳密な遣り方であった。正直いって其処までする必要があるのかと思ったものである。

昨年度より全科目を対象として、授業時間を使うことなくオンラインで実施されるようになった。集計結果も授業担当者が直ぐに参照できるようになり良かったと思う。さらに、今年度は質問項目も前期後期で変更がなかった。

匿名ゆえに勝手なことを記述し、回答の精度が低い上、授業に真面目に参加しない学生ほど教員に対する評価が低いのは、20余年間の経験的に知られていることである。また、他学科と比較してポイント以下の数字の上下を論って分析し一喜一憂する意味は皆無だと思われる。その上、年2回のアンケートより、こまめなりアクションペーパーの活用の方がはるかに授業改善に役立つはずである。にもかかわらず、無意味に詳細なデータを業者に依頼して作成する意味が理解できない。

なお、前向きな意見を申せば、ほぼリアルタイムで集計が見られるシステムが用意できたのであるから、学期の中間に実施して、担当者が直ちに参照して後半の授業に反映させる方が、はるかに実質的ではないか。統計資料を作成するために、敢えて期末実施を固定化して集計をするのは、如上のことから無意味だと思われるのであるが如何なものであろうか。止めるわけに行かないのであれば、可能な限り合理化し手間暇も費用も掛けないに如くはないのではないだろうか。

3. その他

各学部で年度毎の「FD 活動報告書」を作成して公式サイトで公表している。2021年度に就いても、詳細については其方を参照していただきたい。

以上

(3) 社会情報学部

1 令和3年度社会情報学 FD 委員会構成

委員長 池田緑 (社会生活情報学専攻)、 委員：正村俊之 (社会生活情報学専攻主任)、細谷夏実 (環境情報学専攻主任)、木村ひとみ (環境情報学専攻)、市村哲 (情報デザイン専攻主任)、小野茂 (情報デザイン専攻)、原田龍二 (語学代表)、オブザーバー：関えいこ (学務助手：庶務・記録)。

2 本年度のFD活動の概要

社会情報学部が組織的なFD活動を開始してから20年目にあたる令和3年度も、これまでの活動成果を継承しつつ、オンライン授業の恒常化に伴いFDの実施方法を見直し、新たな課題にも向き合いながら、以下のFD活動を実施した。

① 学生との意見交換会の開催 (オンライン)

本年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い実施したオンライン授業について、前期の授業評価アンケートの結果も踏まえ、11月4日に教員と学生とのオンラインでの意見交換会を開催した。

② オンラインFD研修会の実施

12月25日にオンラインでFD研修会を実施し、34名 (参加率97.0%、欠席1名) が参加した (欠席1名も後日録画動画を視聴済み)。研修会では、

- (1)池田 緑：「Tips集・学生とのオンライン意見懇談会・授業評価アンケートを受けて」
- (2)市村 哲：「対面出席とオンライン出席が混在した授業に適した情報ツールの検討」
- (3)田中 清：「オンライン授業における受講モチベーション」

の3つの報告が行われ、Tips集 (以下⑤) の紹介、オンライン授業・ハイブリッド授業の実践的な実施方法が提起され、議論が行われた。また資料として、①の学生との意見交換会の議事録を配布した。

③ 特定枠プロジェクト研究の実施

特定枠プロジェクト研究として、以下1件に助成を行った。

研究テーマ「ハイブリッド授業の実施に向けた実践的ノウハウの獲得」

研究代表者：市村哲、共同研究者：中野希大

④ FD研究会

昨年度採択された以下3件の、特定枠プロジェクト研究、プロジェクト研究の成果につき、12月25日のFD研究会 (オンライン) で報告があり、34名 (参加率97.0%、欠席1名) が参加した。

- (1)講演者：市村 哲・堤 江美子

演題：プログラミング実習授業のためのオンライン演習環境の検討

- (2)講演者：木下 勇・細谷 夏実・松本 暢子・下井倉 ともみ

演題：環境情報学専攻におけるオンライン授業プログラム工夫と改善の方向性に関する研究

- (3)講演者：小野 茂

演題：3年生向けPROGテスト

⑤ Tipsの作成

昨年度に引き続き、日常の授業活動の改善・充実を図ることを目的に、講義等における授業改善のための

アイデアを集める Tips の募集と情報の共有を行った。特に、今年度はオンデマンド型授業が一定割合設定されていることから、オンデマンド型授業を中心としたオンライン授業、対面授業とのハイブリッド型について、失敗事例も含めて募集した。また、本年度より本格導入された大妻 Google アカウントの諸機能の有効活用法についても募集した。これらの情報は Tips 集として取りまとめ、FD 研修会時に Google ドライブを用いて全教員に配布した。

⑥ 入学時学生生活調査の実施

入学時学生生活調査を実施し、1 年生 299 名中 313 名のアンケートを 4 月に回収した。重複回答があったため、回収率は 100.0%を超えた。本年度は Google Forms を利用して実施した。

⑦ 卒業時の学生生活調査の実施

昨年度、オンライン授業の実施に伴い Google Forms を利用して卒業時の学生生活調査を実施したが、本年度も 1 月に同様の方法で実施した。4 年生 373 名中 183 名のアンケートを回収し、回収率は 49.1%であった。

⑧ 「より良い授業評価アンケートのための教育活動」への専攻別取組み

社会生活情報学専攻では正村ゼミにて、環境情報学専攻では 1 年生のほとんどが履修している「住居学」にて、情報デザイン専攻では 1 年次必修科目「情報デザイン基礎演習」にて、それぞれ授業評価についてのアンケートの説明、授業評価アンケートのあり方に対するアンケート、授業評価アンケートのあり方についての議論を行った。

⑨ オフィスアワーの実施

大学ホームページの教員紹介に掲載されているオフィスアワーの実施方法につき、対面形式とオンライン形式が併用される授業形態に応じ、時間割上、在宅で研究室に訪問できない学生の状況や、年間を通じた感染状況の不確実性を考慮し、授業、ゼミ、クラス担任別に設定されている manaba のコースニュースを通じてオフィスアワーの実施方法（特に、オンラインでのオフィスアワー実施の場合の URL 等）を周知し、例年通り 90 分の教員へのアクセスを確保することとした。

⑩ 授業評価アンケートの実施

全学 FD 活動の一環として、前期、後期にオンラインで実施した。

⑪ 授業評価アンケートに関する教員の意見の提出

従来からの取り組みを継続し、授業評価アンケートに関する教員の意見の提出を行い、とりまとめて全学部教員に配布した。

⑫ その他

その他、学部ホームページの更新、学外 FD 活動への参加を実施した。

3 本年度の FD 委員会における主な報告・審議事項

令和 3 年度は、全 10 回の定期委員会をオンラインにより実施した。また新たに FD 委員会のメーリングリストを設定し、より緊密な情報共有・意見交換を可能とした。

上記活動については、『令和 3 年度大妻女子大学社会情報学部 F D 活動報告書』に詳細が報告されているため、参照されたい。

以上

(4) 人間関係学部

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で例年とは大きく異なる状況下で下記のFD活動の取り組みを行った。

1) 学部FD研修会の実施

「授業をよりよくするためのオンライン授業 Tips 第6弾（オンライン&対面授業）」という研修をZoomにより実施した（令和3年12月10日）。研修会の内容と参加者の意見については、令和3年度人間関係学部FD報告書の中で詳しく紹介されている。

2) 学生による授業評価

令和3年度においても、前期・後期の年2回、学生による授業アンケートを実施した。

3) 学友会代表とFD委員会・教職員との懇談会

教育の質の更なる向上に向けて、令和3年度においても、授業改善について学友会代表との意見交換を行った（令和4年1月21日（金））。意見交換の内容については、令和3年度人間関係学部FD報告書の中で詳しく紹介されている。

4) 多摩キャンパスの学修環境に関するアンケート

学部内部質保証の向上を目的として、人間関係学部の学生を対象としたアンケートの実施を行った（令和4年1月14日～1月31日）。

5) オフィスアワーの実施

学生が事前の予約なしに気軽に教員の研究室を訪ねることができる時間帯という趣旨で、本学部では全ての専任教員がオフィスアワーを設定し、大学のホームページ等でこれを公開している。本年度は対面とオンラインの組み合わせにより実施した。

6) 非常勤講師との教育懇談会

例年前期・後期に実施している非常勤講師との教育懇談会であるが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により後期開催分は中止となり、前期のみ実施した。教育懇談会の内容については、令和3年度人間関係学部FD報告書の中で詳しく紹介されている。

7) 各種委員会との連携

学生の教育内容・教育環境の向上のためにはFD委員会による取り組みだけでは不十分であるため、教学面の管理を担当する教務委員会、就学環境全般の改善を目指す学生委員会、健康面をサポートする保健管理委員会等の各種委員会が教授会・学科会議等の場で報告する事項を参考にしながら、FD活動の一層の充実を図っている。

8) 各学科・専攻におけるFD活動の内容の共有

教育方法に関する配慮・工夫に関しては、基本的にそれぞれの学科・専攻の専門的な判断にゆだねられるべき領域であるが、同時にある教員・ある専攻が行っている取り組みが、専門性の垣根を超えた普遍性を持つ場合もあり、そのような参考にすべきノウハウについては、学内の様々な機会を利用して全教員が共有できるようにしている。また、令和3年度人間関係学部FD報告書の中でも各学科におけるFD活動の内容を具体的に紹介しているが、そこで述べられた内容を各教員が参考にしながら、今後の教育内容の向上につなげることを期待している。

9) クラス担任制度

本学部においては、ほとんどの専任教員がいずれかのクラス担任として学生の指導にあたっており、このシステムが学生の教育効果を高めるうえにおいても大きな効果を発揮している。令和3年度人間関係学部FD報告書の中でも各教員が1年間のクラス担任としての活動を振り返って、今後の取り組みにつながるような提言や意見交換を行っている。

以上

(5) 比較文化学部

本学部では主に、(I) 授業改善のためのアンケートの実施、(II) 授業担当者懇談会、(III) 父母・教員懇談会、(IV) オフィスアワーの実施に取り組んだ。紙幅の関係で、以下では主に (I) について詳細に報告する。

(I) 「授業改善のためのアンケート」実施について

a) アンケート実施時期と実施方式

今年度は以下のような方法で実施した。

【前期】

・ 中間期

期間： 5 月 14 日(金)～5 月 27 日(木)

方法： 全ての対象科目において、学生は UNIPA からアンケート回答ができるようになっているため、実施を希望する授業担当者は 該当科目の履修生に回答を指示する。(学生は、全ての対象科目が UNIPA に表示されるが、授業担当者から 指示された科目のみアンケートに回答する。)

・ 学期末

期間： 7 月 2 日(金)～7 月 15 日(木)

方法： 昨年度と同様

【後期】

・ 中間期

期間： 11 月 8 日(月)～11 月 20 日(土)

方法： 実施を希望する授業担当者は、対象科目のうち実施希望科目を事前に申請する。(学生は、実施科目のみが UNIPA に表示されるため、その全ての科目に回答する。)

・ 学期末

期間： 1 月 11 日(火)～1 月 24 日(月)

方法： 昨年度と同様

いずれも、実施期間になると UNIPA を通じて学生に通知され、学生は UNIPA にログインしてアンケートを実施するという方式が取られた。オンライン授業のさなか、UNIPA と manaba 双方に注意を払わなければならない学生がアンケート実施を見落とすことを懸念して、FD 委員会より教授会で告知をおこない、教員からも学生のアンケート参加を促してもらうよう依頼した。

b) 実施対象：原則、ゼミを除く全授業で実施

比較文化学部には、通年、半期あわせて前期授業 217 コマ、後期授業 212 コマ（共に、3 年ゼミの比較文化演習と、4 年ゼミの比較文化セミナーを含む）が開講されている。開講されている授業は、講義、演習、語学等々さまざまな形態があり、受講者数も数名規模から 200 名近くまでさまざまである。そうした授業間の差異は集計結果を組み合わせることによってかなりの程度考慮、検討することができる。そのため本学部では、原則としてゼミ（3 年ゼミに相当する比較文化演習ならびに 4 年ゼミに相当する比較文化セミナー）を除く全ての科目でアンケートを実施した。

c) 実施科目の受講者数と有効回答数

実施科目の受講者数は、前期 21,490 名である。うち、有効回答者数は 11,101 名(回答率 51.65%)であった。

他方後期の実施科目の受講者数は 19,970 名である。うち、有効回答者数は 8,135 名(回答率 40.73%)であった。

d) 集計

回答の集計処理は外部業者に委託した。業者からは各授業別の集計結果だけでなく、授業方法別（講義・演習・講義演習）、区分別（外国語・教養・専門）、クラスサイズ別、言語別、学年別、担当教員の職名別、担当教員の年齢別、全授業の平均評定平均度数分布といった集計結果が納品された。これまで本学部の報告書には評定平均度数分布が掲載されていたが、昨年度以降、納入されたデータは学部ごとに集計・整理されたものではなく全学のデータとなったことから、今回の FD 報告書（以下の f で説明）には掲載していない。

e) アンケート結果の伝達

授業単位の集計結果は、成績登録期間終了後に UNIPA から担当教員が直接確認することができるようになった。そのため、アンケート回答結果が閲覧可能になった時点で、UNIPA を通じて授業担当教員本人にその旨を告知した。

f) 教員からのフィードバック

上記集計結果について告知する際、集計結果に対する所感、感想執筆を全教員に対して依頼した。前期は専任教員 6 名、非常勤教員 5 名の計 11 名から、後期は専任教員 11 名、非常勤教員 4 名の計 15 名から応答があった。

g) 一連のサイクル実施の報告

従来、年度開始後（前期）のアンケート結果の概要につき、後期に開催される父母懇談会にて説明してきたが、近年は web で公開することができるよう、PDF 形式で FD 報告書を年度末に公刊している。

h) 公開するアンケート集計結果について

数値として算出される集計結果はそのまま報告書に公開しているが、学生による意見・感想を掲載することは、昨年度同様見送ることとした。学生による意見・感想には時に非常に示唆的なものが見られる反面、無責任あるいは感情的なコメントや授業期間中に教員とコミュニケーションをとって解決することができたであろう事案も見られるからである。一方、教員による所感・感想は、学生のコメントに対する応答でもあるため、表記統一と誤字脱字の修正を除いて原則編集せずに掲載した。アンケートが web 上で実施された結果、教員は自身の集計結果については即時に確認することができるようになった。ただ、同じような集計結果が他の授業一たとえば同じ言語の他の授業、同じカテゴリの専門科目などにも見られるのかどうかは、にわかには確認しづらくなった。そこで、報告書には専門科目・言語別のアンケート集計結果を掲載している。

(II) 授業担当者懇談会

本学部では、非常勤講師と専任教員で、授業担当者懇談会を令和 3 年 5 月 8 日に実施した。東京都が非常事態宣言の最中であったため、今年度は ZOOM で実施した。

(III) 父母・教員懇談会

本学部では、保護者と専任教員で、父母・教員懇談会を令和 3 年 11 月 13 日に実施した。東京都がまん延防止等重点措置期間であったため、今年度は ZOOM で実施した。

(IV) オフィスアワーの実施

本学部では学部のホームページ上の教員紹介各ページにオフィスアワーを掲示し、学生の学業面、生活面などのサポートを行なっている。その上で、学生には以下のように URL とともに周知している。

「学生が教員の研究室を訪ねやすいように空けてある時間がオフィスアワーです。オフィスアワーの時間はアポイントメント不要です。相談したいことがあれば、下記の学部ホームページの各教員のページから曜日と時間を確認して、気軽に研究室を訪ねてください。」

以上

(6) 短期大学部

1. 令和3年度短期大学部FD委員会の構成と活動方針

短期大学部FD委員会は家政3専攻から各1名、国文科から1名、英文科から1名の計5名の専任教員によって構成されている。昨年度に引き続き、以下の項目を中心にして、FD活動の実施・検討を行った。

- (1) 授業改善のためのアンケート
- (2) オフィス・アワー
- (3) ホームページ
- (4) 保証人との懇談会
- (5) 授業公開
- (6) 学習支援活動
- (7) FD講演会、FD研修会
- (8) 満足度調査

2. 令和3年度のFD活動の概要

活動の詳細は、令和3(2021)年度FD活動報告書第19号に掲載した。ここでは、その概要を記す。

(1) 「授業改善のためのアンケート」について

今年度も、FD基幹活動として、短期大学部開講科目受講者を母集団とする「授業改善のためのアンケート」を実施した。昨年度に引き続き、学内ポータルサイト「UNIVERSAL PASSPORT(ユニバーサルパスポート)」でオンラインによるアンケート実施である。実施時期のうち、中間期は教員の任意とし、学期末のみ昨年同様、原則全科目の実施対象で行ったが、いくつか例外もあった。前期(中間・学期末)・後期(中間・学期末)とも、設問数全9問により実施した。アンケートの実施期間は、前期(中間)が令和3年5月14日(金)～5月27日(木)、前期(学期末)は令和3年7月2日(金)～7月15日(木)、後期(中間)が令和3年11月8日(月)～11月20日(土)、後期(学期末)は令和4年1月11日(火)～1月24日(月)であった。

昨年度との比較として学期末で見ると、短期大学部全体として、前期は履修者総数6,022人中3,401人、後期は履修者総数4,870人中2,540人から回答を得た。No.3～9までのカテゴリーの平均値は前期4.14、後期4.11であり、前期、後期ともほぼ同程度であった。

(2) オフィス・アワーについて

各学科・専攻の専任教員が各自オフィス・アワーを設定し、ホームページやシラバスに掲示して周知に努めた。学生の学習支援・生活支援・進路指導などに取り組んだが、今年度もコロナ禍対応中であるため、zoomやEメールも活用して可能な限り対応し、きめ細かな支援を心掛けた。

(3) ホームページについて

短期大学部広報委員会を中心に、3学科が共同でホームページの維持と管理を実施した。ホームページは、高校生が進学先を選択する際に重要な情報源となるばかりでなく、本学短期大学部からの対外発信の主要な手段となるものである。新任教員の紹介ページを加え、ページの充実を図った。

(4) 保証人との懇談会

今年度は、国文科が保証人との懇談会を実施した。国文科からは専任教員の全員が出席し、学科長、教務委員、学生委員がそれぞれ、学科の全体状況、授業のカリキュラム、学生生活全般、就職活動について解説し、全体で懇談を行った後、クラス指導主任との個別面談も設けた。

(5) 授業公開について

今年度も、短期大学部各学科で授業公開を実施した。家政科では専任教員全員 17 名が授業を公開し、国文科では専任教員の 1 名が、英文科では専任教員 1 名が公開担当した。「授業公開」に関する案内は、Eメールで周知した。実施後は、公開担当者および参観者にアンケートを実施して、参観者のアンケート結果は授業担当者にフィードバックし、また両者での話し合いの場を設けて意見交換をするなどして、今後の授業の改善に繋げた。

(6) 学習支援活動について

学力面や生活面で多様な背景を持つ学生たちが学ぶ短期大学部では、学生の状況や個性をふまえ、柔軟かつ積極的な支援を行っている。今年度もそれぞれの学科・専攻において、工夫を凝らした支援活動が実施されている。個別の指導においては、クラス指導主任を中心に、副担任助手のほか、教育支援グループや学生支援グループ、学生相談室カウンセラーと連携して問題解決にあたった。

(7) 短期大学部主催 FD 講演会・FD 研修会について

FD 講演会は、「VUCA時代の就職活動～今、企業が求める人材とは～」を令和 3 年 11 月 18 日（木）にオンライン（zoom）で開催した。講師は株式会社エービーシーエデュケーション、チーフコンサルタントの山本みどり氏である。山本先生には、平成 28 年にも、短期大学部 FD 講演会でご講演をいただいている。コロナ禍における就職活動の実態、教員から学生への働きかけについて、実例を踏まえ、お話いただいた。短期大学部の全員の教員が参加し、「とても良かった」との感想が寄せられた。

また FD 研修会を、「授業改善を学生とともに考える」を令和 4 年 2 月 16 日（水）にオンライン（zoom）で開催した。当日の参加者は、学生 12 名、教員は短期大学部の学部長、学科長、専攻主任、有志の教員の合計 13 名であった。あらかじめ学生にはグループディスカッションのテーマを配布し、当日までに準備を依頼し、Zoom で 5 ルームに分かれ議論した。学生からは活発な意見が寄せられ、多くの示唆を得た研修会となった。

(8) 満足度調査について

満足度調査は、教育成果の確認と教育環境の改善・向上に役立てることを目的として例年実施しており、今年度はコロナ禍対応のため令和 4 年 1 月 21 日（金）～2 月 6 日（日）にオンラインの Google アンケートで行った。卒業年次生を対象として無記名で実施したところ、回答の総計は 185 名（前年は 233 名）であった。

「全体的にみて」の項目では、「満足」が 28%で「やや満足」の 35%を加えると 63%となり（去年は 74%、一昨年は 76.6%）、概ね満足と回答している。評定平均は 3.73（去年は 4.06）であった。対面授業はあったものの、オンライン授業を継続せざるを得なかった今年度の状況下では、高い評価を受けたと考える。

以上

3 人間文化研究科の令和3年度FD活動

大妻女子大学大学院人間文化研究科FD委員会は、令和元年度～3年度の3年計画で、大学院におけるFD活動の実施計画を策定した。この実施計画にもとづき、個々の具体的なFD活動を実施してきたので、その実情を以下の通り報告し、今後の活動に繋げたい。

I. 令和元年～3年度大妻女子大学大学院FD実施計画

1. 基本方針

大学院FD委員会の協議のもと、院生の入学から修士課程修了ならびに博士後期課程修了までの全学習・研究過程を視野におさめながら、より質の高い教育ならびに研究指導の実践を目指して、大学院における教育力を高める。よって、大妻女子大学全学の教育力向上に貢献する。

① FD活動の目標

大学院FD活動の目標を次のように定める。

- ① 学部・短大FDと大学院FDの連携のもとで、学部の入学・卒業から大学院入学・修了までを展望したFD活動を実施する。
- ② 教育活動に有益なFDを実施することに努め、教員が協力しやすい状況をつくり、全員の参加を目指す。
- ③ 教員対象のFDにとどまらず、職員や院生の協力・連携を基盤とした、全体的なFDに取り組む。
- ④ 個々のプログラム内容の充実に努め、その成果に関する情報を集積し、関係者の間での共有化を進める。

② FD活動の計画

大学院FD活動の計画は次の通りとする。

- ① 「大学院進学意識に関するアンケート」
- ② 「大学院の研究・教育に関する意見の収集」
- ③ 「大学院修了に際しての意見の収集・アンケート」
令和元年度のアンケートを用いて実施する。回収率の向上を目指す。
- ④ 院生・教員懇談会の実施
開催の時期・方法については、各専攻・専修の協議によるものとする。懇談会の結果、院生からもたらされた意見・要望については、その都度、取りまとめて、FD委員会に報告する。
- ⑤ 学会発表の奨励に関する活動
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。
- ⑥ 学内発表会の奨励・支援に関する活動
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。
- ⑦ 院生論文集発行の支援に関する活動
「人間生活文化研究:International Journal of Human Culture Studies」を掲載誌とし、編集事務局の援助を受けながら発行していく。
- ⑧ 他大学との各種連携の活性化に関する活動
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。
- ⑨ 就職支援に関する活動
活動実態については、専攻ごとに取りまとめて、年1回、FD委員会に報告する。アンケートの希望が多かった大学院生の就職支援体制の充実に努める。
- ⑩ 社会人院生・社会人教育の実質化のための活動

・千代田・多摩キャンパスの連携・充実を具体的にどのように推進していくか検討する。

⑪ 研究科設置の主旨に沿った教育方針具体化のための活動

・専攻・専修内の授業間の整合性の検証やスリム化を視野に入れた教育・研究体制のあり方について検討する。

・大学院の組織の見直し（特に博士後期課程）を検討する。

⑫ その他の活動

大学院生室の有効活用の検討など

II. FD 活動の実施状況

以下、3つのアンケート調査を実施した。①と②については、平成28年度からWebを利用して調査している。

① 「大学院進学意識に関するアンケート」

大学院修士課程入学者を対象に、10月に実施した。その結果については、「Ⅲ. 大学院進学意識に関するアンケート（結果の概要）」と題して、本報告書に掲載した。

② 「大学院の研究・教育に関する意見の収集」

全大学院生を対象に、昨年度とほぼ同じ内容で10月に実施した。その結果については、「Ⅳ. 大学院の研究・教育に関する意見の収集（結果の概要）」と題して、本報告書に掲載した。

③ 「大学院修了に際しての意見の収集・アンケート」

令和4年3月修了予定の修士課程と博士後期課程の院生を対象に「大学院修了時アンケート」と題して2月～3月にかけて実施した。その結果については、「大学院修了時アンケート（結果の概要）」として、本報告書に掲載した。また、大学院における今後の進路指導の課題に鑑み、就職先の実態を把握することとした。その結果は、XII.「就職支援に関する活動」欄のとおりである。

III. 大学院進学意識に関するアンケート（結果の概要）

III-1 はじめに

大妻女子大学大学院人間文化研究科は平成22年4月（2010年）に改組して以来、12年目を迎えた。本年度も「大学院FD活動実施計画」に基づき、各種の活動を実施してきたが、これまでの活動との比較を考慮して、前年度とほぼ同様の内容で「大学院進学意識に関するアンケート」と「大学院の研究・教育に関する意見の収集」（Ⅳ.参照）を実施した。前者は修士1年生を対象に、後者は大学院生全員を対象に実施している。以下に両調査の結果の概要を大学院のFD活動を継続的に考察するための資料として提示する。なお、大学院の在学生在が少ないため、専攻、専修や在学年を答えると回答者が特定される懸念があることから、昨年度から修士1年生向けアンケートでは、「専攻」の質問を削除、全大学院生向けのアンケートでは所属する課程のみを聞き、またその回答は必須としないことにしていた。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響により経験する学生生活が入学年度によって大きく異なっている可能性があることから、昨年度より「学年」を設問に加えている。ただし回答は任意とした。

III-2 進学意識に関する調査の目的と方法

令和3年度の修士課程1年生は、アンケート実施時には12名でそのうち10名から回答があった。新入学の修士課程1年生を対象とする「大学院進学意識に関するアンケート」の目的は、大学院進学にあたっての経緯や動機を把握し、いかにして多くの学生が集まる魅力的な大学院をつくるかの参考にすることにある。調査の方法は志望動機、志望決定にあたっての情報入手経路、他大学との併願状況、修了後のキャリア計画、大学院生活への抱負などを聞いた。

III-3 調査の対象・時期・回収の状況

「大学院進学意識に関するアンケート」は次の要領に基づいて実施した。

(ア) 調査の対象：令和3年度人間文化研究科各専攻修士1年生12名を対象とした。回答者は10名だった。

(イ) 調査の期間：令和3年10月15日～10月31日

(ウ) 回収の状況：平成27年度から今年度までの1年生の回答者数と回収率を表1に示した。今年度の回収率は83.3%で昨年度と同じであった。ここ数年は高い回答率を維持できており、学生への周知の方法などが定着してきたこと、コロナ禍でUNIPAやmanabaに学生が日常的にアクセスする習慣がついたことなどが考えられた。

表1 大学院進学意識に関するアンケート（新入学者）

対象者	平成27年度 (H27)	平成28年度 (H28)	平成29年度 (h29)	平成30年度 (H30)	令和元年度 (R1)	令和2年度 (R2)	令和3年度 (R3)
新入学者	19	22	24	18	18	18	12
回答者	15	16	19	12	17	15	10
回答率(%)	78.9	72.7	79.2	66.7	94.4	83.3	83.3

III-4 大学院への進学の動機について

「本学大学院への進学を志望するに当たって、その動機に係る1～12項目に対してどの程度重視しましたか」との問いに対する結果を、表2に示した。「非常に重視した」5点、「かなり重視した」4点、「どちらとも言えない」3点、「あまり重視しなかった」2点、「ほとんど重視しなかった」1点、「まったく考えたことがない」0点として平均点を算出した。

表2 大学院進学にあたって重視した動機項目の順位

		平均点数（5～1点評価）						
		H27 (n=14)	H28 (n=16)	H29 (n=19)	H30 (n=12)	R1 (n=17)	R2 (n=15)	R3 (n=10)
1	将来、研究職・臨床職に就きたいこと	3.3	3.7	3.9	2.9	3.4	2.8	3.2
2	専門分野の学位が取れること	3.5	4.0	4.1	3.9	3.6	3.8	3.8
3	就職に有利になること	2.8	3.5	3.3	2.3	2.5	3.0	2.6
4	自宅・会社からの通学が便利なこと	3.0	2.1	3.2	3.0	2.6	3.3	2.9
5	指導を受けたい教員がいること	3.7	4.4	4.4	3.8	4.0	4.5	3.9
6	大学のネームバリューがあること	2.1	2.3	2.5	2.2	1.8	2.5	2.0
7	就職を先に延ばせること	1.7	2.2	1.7	1.6	1.3	1.3	1.2
8	希望する就職先がなかったこと	1.3	1.5	1.4	1.2	0.6	1.4	1.3
9	奨学金を受給できること	1.9	2.7	2.3	1.6	1.8	1.3	0.6
10	専門の資格が取れること	2.8	4.0	3.8	3.1	2.6	2.0	3.1
11	研究したいことがあること	3.7	4.2	4.3	3.8	4.1	4.2	3.6
12	在学中の学費の支払いのこと			3.5	3.4	2.9	3.4	2.8

※表中数値は平均値

表2に見られるように、全体的な傾向としては過去6年間とほぼ同様であり、「指導を受けた教員がいること」「専門分野の学位が取れること」「研究したいことがあること」といった項目が上位を占めている。自由記述欄に「先生方の熱意ある指導を学部時代から感じていた」という記述もあり、大学院進学への動機づけに教員が大きく関与していることが分かる。

一方、「将来、研究職・臨床職に就きたいこと」「専門の資格が取れること」も比較的上位にあり、自由記述欄に「修了後の指導が充実している」「研究できる環境がほしかった」との記述もあることから、大学院で取得できる資格や修了後のサポート、在学中の研究環境なども、大学院進学の際に重要な要素であったことが窺える。

この質問に対しては以下の自由記述があった。

- ・研究テーマに沿った専門的な知識を得られること。
- ・先生方の熱意のある指導を学部時代から感じており(大妻学部卒です)、継続して指導していただきたかったため。卒院してからの指導が充実しているため。実習の指導が充実しており、ケース数もたくさんこなせるため。
- ・研究できる環境が欲しかった。

III-5 大学院進学にあたっての影響を与えた情報源について

表3 大学院進学にあたって影響源となった項目の順位

		平均点数 (5~1点評価)						
		H27 (n=11)	H28 (n=11)	H29 (n=19)	H30 (n=12)	R1 (n=17)	R2 (n=15)	R3 (n=10)
1	本学の先輩の研究成果を見たこと	1.6	1.9	2.8	1.7	2.4	2.0	1.6
2	大学院に行っている友人・知人からの情報		2.5	2.9	2.0	2.9	2.1	1.8
3	両親や兄弟姉妹から勧められたこと	1.5	1.1	1.8	2.2	1.9	1.3	0.9
4	自分の配偶者の意見	1.0	0.3	0.6	1.1	0.8	0.2	1.3
5	大学院紹介の受験雑誌などの記事	2.1	1.2	2.1	1.2	1.1	0.9	0.8
6	本学発行の大学院紹介パンフレット	3.1	3.0	2.9	2.6	2.6	2.3	1.4
7	学内の大学院進学説明会	2.5	2.5	3.6	2.9	1.8	2.6	2.1
8	学外の大学院進学説明会	2.2	1.2	1.4	0.8	0.8	0.2	1.4
9	本学のホームページの記事	2.4	2.7	2.6	2.0	2.9	2.5	1.3
10	指導教員になる教員との相談	3.5	4.5	3.9	4.2	4.2	4.5	3.6
11	学部時代お世話になった教員との相談	2.3	2.7	3.0	3.4	3.1	2.9	2.4
12	出身大学の先生との相談	3.0	2.7	3.0	3.6	2.5	2.0	2.5
13	出身高校の先生との相談	1.1	0.9	0.8	0.2	0.4	0.3	0
14	教員の業績と研究テーマをみて、将来自分の研究テーマを追求していくうえで最適な場所と考えたから	3.0	3.9	3.8	3.6	3.9	3.9	3.1
15	他の大学院にはない独創的な文化資源(蔵書、マニュスクリプト、物的資料など)があると考えたから	3.0	1.6	2.1	1.8	1.9	2.4	1.6

※表中数値は平均値

過去6年間と同様、「指導教員になる教員との相談」「教員の業績と研究テーマを見て、将来、自分のテーマを追求していくうえで最適な場所と考えたから」が高い得点となっており、大学院教員の研究力・発信力が重要であると考えられた。また、「学部時代にお世話になった先生との相談」や「出身大学の先生との相談」なども上位にランクインしており、信頼できる人からのアドバイスも重要であることがうかがえるとともに、自由記述欄に「他大からみた大妻のイメージ」「なるべく多くの人からの意見」との記述もあり、学院全体として取り組む研究環境、これまでの修了生の活躍など総合的に評価されていることもうかがえた。一方、「本学のホームペ

ージの記事」を参考にした割合はR2年度までは比較的高い数値を示していたが、R3年度は低めであった。学内からの進学者が多い場合はホームページを参考にする割合は下がると考えられるが、アクセス数の解析なども含めて今後の推移を見守る必要があると思われた。

この質問に対しては以下の自由記述があった。

・大妻の説明会はもちろん、既に通っている大妻の先輩の話や教員の方々から様子を聞いたりなどした。他大の説明会の参加や、他大の先輩から他大についての説明もうけ、比較検討した。その際、他大からみた大妻のイメージについても聞き、その上で進路を検討した。その際は、一人に頼るというよりかは、出来るだけ多くの人数に聞くことを心がけていた。

III-6 他大学の受験状況：

「他の大学院を受験しましたか」との質問では、回答した10名のうち9名が「いいえ」と答えた。他大学大学院の受験者は1名であった。例年とも同傾向であり、指導教員の研究内容を吟味した上で、第一希望で入学してきた学生がほとんどであることが伺えた。

III-7 大学院修了後の進路及びどの様な大学院生活を送りたいか

「大学院修了後の進路は、どの様に考えていますか」については平成28年度からの推移を表4に、「あなたはどの様な大学院生活を送りたいですか」については平成27年度からの推移を表5にまとめた。

表4および表5に関しては、複数回答であるため回答率で示した。今年度は回答者数が例年より少ないことも影響して、回答率に偏りがみられた。今年度の特徴は「まだ具体的に考えていない」が多かったことである。回答者の属性はわからないが、近年社会人の大学院入学者が増えていることを考えると有職者がこの選択肢を選んだ可能性も考えられる。有職者向けの選択肢も検討していく必要があるかもしれない。また、今年度は「博士後期課程に進学したい」が0%であった。修士課程から続けて博士課程に進学したいと考える学生の減少は昨年度から見られており、コロナ禍による経済的影響も1つの要因として注視していく必要があると思われる。

自由記述欄に書かれていた修了後の不安については、常勤職を得るためのサポートについて組織的に取り組むことも大学院進学者を確保していく上で重要なポイントであると思われた。

表4 大学院修了後の進路について（複数回答）

	H28	H29	H30	R1	R2	R3
1 博士後期課程に進学したい	22	26	42	35	13	0
2 外国に留学したい	22	16	17	6	0	10
3 教育職員（専修）（幼稚園・小・中・高校・栄養教諭）として就職したい	28	21	25	12	13	0
4 専門社会調査士として就職したい	0	0	17	6	0	0
5 臨床心理士として就職したい	22	37	33	24	13	40
6 研究機関で研究開発の仕事に就きたい	6	16	8	24	13	20
7 民間企業で一般職の業務に就きたい	11	0	17	24	20	0
8 民間企業で総合職の業務に就きたい	11	16	17	24	13	30
9 公務員として就職したい	11	11	17	12	20	0
10 大学教員として就職したい	6	16	8	29	13	0
11 まだ具体的に考えていない	28	5	8	18	27	60

※表中数値は%

※希望は複数回答のため、合計は100%を超えている。

この質問に対する自由記述欄には次のようなものがあった。

・常勤職が少なく、若手のうちは非常勤として働くことが勉強になるという考え方もある職種であるため、就職後安定した生活をしていけるか不安。

大学院生活への希望を尋ねた結果を表5に示した。

表5 どんな大学院生活を送りたいか（複数回答）

	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3
1 専門分野についての研究中心の生活をしたい	20	44	63	17	59	53	30
2 研究（実験・実習を含む）と自由時間をバランスさせたゆとりある生活をしたい	82	61	58	50	53	80	70
3 たくさん授業科目を履修して社会に出るための教養を深めたい	27	44	42	25	18	0	30
4 就職活動や資格を取るための時間を多くしたい	27	17	16	8	18	0	30
5 就職活動を早めに始めて、まずは就職を決めたい	13	11	16	8	12	20	20
6 狭い専門分野の研究にこだわらずに、幅広い分野の知識を得たい	53	17	37	25	18	47	30
7 アルバイトや遊びはできるだけ控えたい	0	0	11	17	12	7	10
8 アルバイトや遊びも大いにやりたい	27	11	6	8	12	13	20
9 自由な時間をできるだけ楽しみたい	27	17	16	17	18	33	20
10 どうするか、まだはっきり考えていない					9	7	0

※表中数値は%

どんな大学院生活を送りたいかについて見ると、「研究（実験・実習を含む）と自由時間をバランスさせたゆとりある生活をしたい」が回答率70%と最も多かったが、「専門分野についての研究中心の生活をしたい」も30%で、「自由な時間をできるだけ楽しみたい」の20%を上回っており、大学院に一定の目的をもって入学してきた学生が多いことがうかがえた。「たくさん授業科目を履修して社会に出るための教養を深めたい」「狭い専門分野の研究にこだわらずに、幅広い分野の知識を得たい」の回答率がいずれも30%であり、「就職活動や資格をとるための時間を多くしたい」も同様の回答率であったことから、修士論文研究にこだわらずに修了後を見据えた幅広い学びや活動（就職活動）を重視したい傾向がみられた。

この質問に対する自由記述欄には次のようなものがあった。

・本校を卒業してかなりの年月が経っているので、事務的なこと、授業のことなどわからないことが多かったのですが、指導教員や先輩方から丁寧に教えていただき、何とか前期を終えることができました。

III-8 大学院進学に当たって一番考えたこと、悩んだこと

「進学意識調査」の最後に、大学院進学に当たって一番考えたこと、悩んだことについて自由記述欄に記述された意見を以下に掲げる。

- ・社会人での進学だったので家族からの理解、家族への責任など本当に両立させることはできるのか考えた。子育てが終わっていない中で、学費の工面も簡単ではなかった。
- ・仕事との両立、金銭面。
- ・周りに進学者がおらず、独りで違う道に進むことが正しいのか。
- ・学生でいる期間が伸びてしまうこと。
- ・母子家庭なので、学費のこと。

・2年間の時間を費やすものの、これとって取得できる資格があるわけではなかったこと、学費も安くはないことに、少し悩んだ。

IV. 大学院の研究・教育に関する意見の収集（結果の概要）

「大学院の研究・教育に関する意見の収集」は、全大学院生を対象に授業内容、履修環境、事務体制に対して点数による客観的評価と自由記述による意見を集約し、授業方法の改善、カリキュラムの構成、設備の整備など、教育改革に反映させることを目的としている。

平成25年度から回答を、「非常にそう思う；5点」から「まったくそう思わない；1点」までの5段階評価としている。評価点は、回答者全員の平均点と最高点、最低点を算出している。

なお、新型コロナウイルス感染症の影響により様々な学生生活が制限されている状況を鑑み、昨年度より以下の点を変更し、今年度もこれを踏襲した。

(1) 個人を特定されそうで回答しにくいという学生からの意見を踏まえ、これまで「学年」は設問に含めていなかったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況および授業実施形態の変化によって回答に差が出る可能性があることから、「学年」を設問に加えた。ただし回答は任意とした。

(2) 通常、回答のための選択肢は1～5の中から選んでいるが、昨今の状況により影響を受ける一部の設問には、「0. コロナ禍により利用していない 等」を加えた。

(ア) 調査の対象：大学院人間文化研究科に在籍する大学院生47名

(イ) 回収の状況：27件の回答があった（回答率57.4%）。回答率は例年と比較すると低めであった。

結果の概要は以下の通りである。

IV-1 各評価項目

大学院の授業全般についての評価は表6の通りである。問1から問4までの各項目は5段階評価で概ね4点前後にあり、コロナ禍の制約はあったものの授業や研究指導はおおむね適切に行われているという評価であったといえる。

しかしながら、問5の学外研究・学外実習に関する項目は修士課程1年が1.8、博士後期課程が1.6と低く、全平均も2.2にとどまった。昨年度よりも若干回復したものの新型コロナウイルス感染症の影響が学外での諸活動を制限したことが読み取れる。IV-2にとりあげた自由記述欄の記載にも「交流が少ないこと」への不安が書かれていた。

表6 大学院の授業全般についての評価

課程	回答数	問1	問2	問3	問4	問5
			シラバスに記載された到達目標に示された知識や能力を獲得できた	授業の水準や範囲は大学院の授業として適切であった	授業の内容は専門知識等を習得する上で十分な意義が感じられた	研究指導や論文指導のあり方について適切であった
修士課程1年	7	3.4	4.1	4.1	3.8	1.8
修士課程2年	13	4.0	4.2	4.1	4.0	2.7
博士後期課程	7	4.4	4.4	4.4	4.6	1.6
全平均	27	3.9	4.2	4.2	4.2	2.2
最高点		5	5	5	5	5
最低点		2	3	3	2	0

※表中数値は平均値、最高点及び最低点

続いて、大学院の履修および研究環境については表7の通りである。

事務手続きのシステム全般、およびガイダンスの日程や実施方法については3.5前後の評価が得られており、コロナ禍に対応した運用ができていたと考えられた。一方、図書館他学校の施設設備、院生自習室の学習環境については、特に博士後期課程の学生で2点の前半と評価が低かった。**IV-2**にとりあげた自由記述欄の記載を読むと、図書館については、来校しないで文献複写を取り寄せるしくみなど、コロナ禍に合わせたしくみを整える必要があると考えられた。また、院生自習室については、PCや周辺機器の整備や更新、またサポート体制の整備に早急に取り組む必要があると思われた。

表7 大学院の履修および研究環境について

課程	回答数	問6	問7	問8	問9
		事務手続きのシステム全般について分かりやすかった	ガイダンスの日程や実施方法について適切であった	図書館他学校の施設設備について満足している	院生自習室の学習環境について満足している
修士課程1年	7	3.2	3.7	2.7	3.2
修士課程2年	13	3.4	3.7	3.6	2.9
博士後期課程	7	3.8	3.7	2.2	2.1
全平均	27	3.5	3.7	3.0	2.8
最高点		5	5	5	5
最低点		2	2	0	0

※表中数値は平均値、最高点及び最低点

教育・研究支援について表8に示す。

表8 教育・研究支援について

課程	回答数	問10	問11
		事務職員の対応は適切であった	大学院の学費・奨学金は適切であった
修士課程1年	7	4.1	3.2
修士課程2年	13	4.0	3.6
博士後期課程	7	4.2	3.5
全平均	27	4.1	3.5
最高点		5	5
最低点		3	2

※表中数値は平均値、最高点及び最低点

全体の評価は、4.1および3.5であり、学年間のばらつきも少なかったことから、全体的には適切であったとの評価結果であるといえよう。しかしながら、**IV-2**にとりあげた自由記述欄の記載から、博士後期課程の学生への支援が足りていないことが窺えた。博士後期課程の学生が研究資金を得るための支援制度の充実、今後必須のことと思われた。

IV-2 大学院の授業全般（問 1～5）、履修・研究環境（問 6～9）、教育・研究支援（問 10～11）に関する自由記述欄への記述状況

自由記述欄に記載された意見については、そのままの意見を箇条書きで以下に記載する。

問1. 「大学院の授業ではシラバスに記載された到達目標として示された知識や能力を獲得できた。」

- ・まだ、履修途中ですので、厳密言えば「シラバスに記載された到達目標として示された知識や能力」をととても獲得できた(そうだ)と感じています。

問2. 「授業の水準や範囲は大学院の授業として適切であった。」

- ・一緒に履修している学生の研究内容を含めた背景を十分に生かした授業が展開されていると感じている。

問3. 「授業の内容は専門知識等を習得する上で、十分な意義が感じられた。」

- ・保育・教育学専修の博士後期課程は履修可能な授業が少ない。

問4. 「研究指導や論文指導のあり方について適切であった。」

- ・自分自身がうまく言葉にできない研究上の悩みや試行錯誤を丁寧に聞き取り、指導していただいている。

問5. 「学外研究・学外実習について希望通り実施することができた。」

- ・交流が少なく本来であれば学べることも学べていないのではないかという不安がある。
- ・仕事と両立する必要があるため、思うようにできているとは言い難い。

問 6. 「事務手続きのシステム全般について分かりやすかった。」

この質問には自由記述はなかった。

問7. 「ガイダンスの日程や実施方法について適切であった。」

この質問には自由記述はなかった。

問8. 「図書館他の学校の設備について満足している。」

- ・文献を他の施設から複写取り寄せする際には、「ネットで依頼→図書館から完了の報告→図書館に行く→図書館から払込用紙をもらう→払い込みに行く→払込の控えを持って図書館に行き、文献を受けとる」という流れで、2回も図書館に行く必要があり不便に感じました。図書館で支払える、もしくはウェブの振り込みができる、というようになると便利で助かります。
- ・授業や研究指導等の必要最低限の時間のみ学校に滞在しているので、図書館を有効活用できていない。
- ・来校の機会が少ないため

問9. 「大学院生室・大学院生自習室の学習環境について満足している。」

- ・現在院生室のコピー機が使用不可のため、使用可能なコピー機を設置していただきたいです。
- ・プリンターの調子が永遠に悪く、非常に勝手が悪い。院生室を利用したくない致命的な理由となっている。
- ・パソコンが遅い、プリンターが使用できないまま置かれているという問題点があるが、教

員一体(共同研究室の方々も含め)となって真摯に対応してくださっている。ただし、ただでさえ授業や学部生の授業に追われている教員の方々が、専門外であるはずの機械関係の問題解決に来てもらうのはこちらとしては申し訳ない上、それならプリンターの修理時間ではなく指導に時間を割いてもらったほうが、院生だけでなく学部生の利益に繋がるのではないかと感じている。学院として、故障・プリンターの御用聞きとしての役割はないのか疑問に思う。いるならそちらの方を頼りたい。

- ・使用する事が殆どないため。

問 10. 「事務職員の対応は適切であった。」

この質問には自由記述はなかった。

問 11. 「大学院の学費・奨学金制度について」

- ・学部生と修士課程の学生と選考が同じになったため、博士後期課程の学生が利用できる奨学金が少ない。
- ・学費は他大と比較して良心的でありがたいです。ただ博士課程の学生が資金を獲得するための支援制度が少ないと感じます。まず学振の特別研究員を目指すための支援体制(説明会など)があると有り難いです(研究支援室の方には個人的に相談し丁寧にご対応いただきました)。今年から始まった JST の次世代研究者挑戦的研究プログラムは大学ごとに枠を確保する制度なので、在学中に大妻でも始まったら嬉しいです。また、大妻育英奨学金は博士課程用に枠が確保されているものではないので、博士課程用の支援制度があると、より安心して進学ができます。

IV-3 ハラスメントについて

平成 24 年度からアンケート調査項目に「ハラスメントについて」を取り入れた。ハラスメントに関する平成 27 年度からの調査結果を図 1 に示した。今回のアンケート調査では 27 名が回答し、「経験がある」が 0 名、「答えたくない」が 3 名、「経験がない」が 24 名であった。自由記述欄には記述がなかった。なお、アンケートを取る際に回答結果は慎重に扱う旨、例年通り明記している。

H28 年度以降では、「経験がある」と答えた学生が初めて 0 名となり、全体の取り組みの成果があったと考えられた。しかしながら、「答えたくない」が 3 名おり、ハラスメントあるいはそれに近い状況がいまだに存在していることが推測される。内容如何にかかわらず、ハラスメントは本来一件もあってはならないことであるが、指導教員と学生が 1 対 1 になりがちな大学院は起こりやすい環境であるとも言える。ハラスメントは一過性の行為ではなく常習的に行われることが多く、加害者側にハラスメントの認識がないケースがほとんどであることから、学生が副指導教員を含めた複数の教員から指導を受けられる体制を整え、学生の SOS 信号をできる限り早いうちに見つけ出すしくみの確立が重要である。

これまでとってきたハラスメント防止対策を再度、確認しておきたい。

- ① FD アンケートの回答について、修了生も申し出ができる機会を確保する措置を講じる。
事案には FD 委員、ハラスメント委員、専攻教員が適宜対応する。
- ② ハラスメントに関する回答の FD 報告書への記載は、一部表現について個人を特定しづらい形に修正する。
- ③ 専攻会議等で結果を報告し、注意喚起を行う。

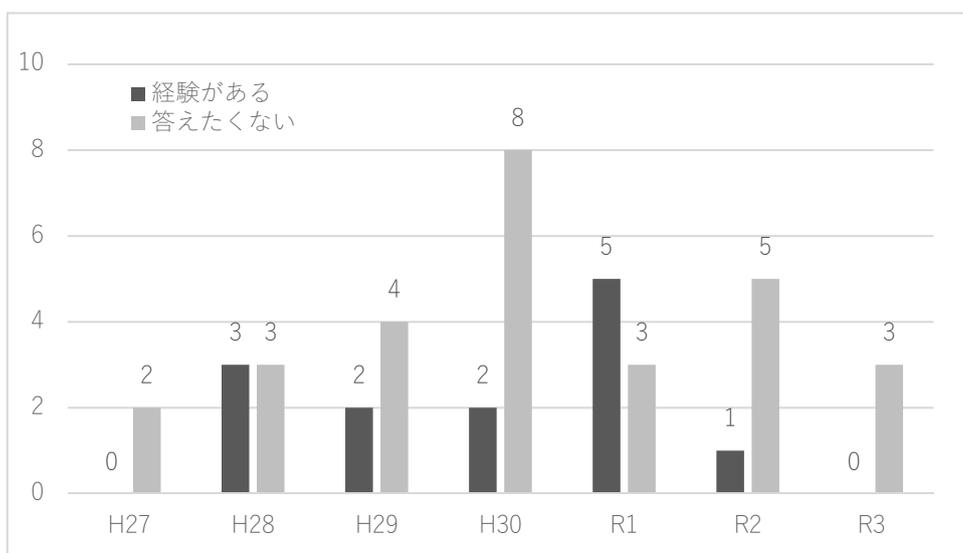


図1 ハラスメントについて

IV-4 社会人特別選抜の入学者への配慮について

社会人特別選抜の入学者を対象にした「授業の開講時間など適切な配慮がなされ、履修することができた」かの問いでは9名から回答を得た。詳細は、「5 非常にそう思う」が4名、「4 そう思う」が4名、「3 どちらともいえない」が1名。全体の平均値は4.3であり、社会人学生から一定の評価を受けているといえる。しかしながら、社会人特別選抜の学生が増えることによって、授業日時の調整が難しくなっている様子も窺えた。社会人学生への対応パターンを通常の間割とは別に履修登録前に提示するなど、社会人対応の仕組みを整えていく必要があると思われる。また、場合によっては、コロナ後にも社会人対応としてオンライン授業を継続することも考えていく必要があると思われた。

社会人入学者の自由記述は2件あった。

- ・授業時間が社会人入学者に配慮されているとは思いますが、そのことにより夜間大学院のようになっているとも感じる。コロナがおさまる全面的に対面に戻った時に、夜間や土・日曜日開講が常態化しつつあることには、賛同しかねる面もある。
- ・希望した授業はすべて履修できたが、先生や他の受講生の方々との調整の難しさはとても感じる。先生によってさまざまに工夫していただいていることには感謝します。

IV-5 その他意見・希望について

この質問に対する自由記述欄には以下のような記述があった。

- ・院生の研究費について、気になる点があります。ホームページに (<https://www.grad.otsuma.ac.jp/research/subsidy/>)年間30万円と記載があるのですが現在と異なっているので気になりました。
- ・全体的に、非常に満足しております。引き続き宜しく願いいたします。

ホームページの記載は常に最新のものであるよう、確認をしていく必要がある。

V. 大学院修了時アンケート（結果の概要）

V-1 大学院修了時アンケートの目的

このアンケートは、令和4年3月修了予定の修士課程と博士後期課程の院生を対象に在学期間中の学修環境や体験・修得した能力について把握し、また自由記述による意見を集約することで、教育・研究環境改善につなげることを目的として、今年度より新たに実施した。

V-2 調査対象・方法・期間・回収状況

- (1) 調査対象：大学院修士課程及び博士後期課程修了予定者（満期退学含む）17名
- (2) 調査方法：Google フォームによる WEB アンケート
- (3) 調査期間：令和4年2月26日～3月19日
- (4) 回収状況：回答数10件、回答率58.8%

結果の概要は以下の通りである。

V-3 学修環境等についての評価

評価は表9の通りである。問1から問6までの各項目は4段階評価で「そう思う」4点、「ある程度そう思う」3点、「あまりそう思わない」2点、「そう思わない」1点として平均点を算出した。

表9 研究・授業、進路、学生生活についての評価

	回答数	問1	問2	問3	問4	問5	問6
		本学大学院在学中は研究・学業に意欲的に取り組みましたか	開講科目の数や種類は十分でしたか。	授業内容は、全体として満足していますか。	研究指導や論文指導について指導教員から十分な指導を受けることができましたか。	修了後の進路は希望に沿ったものになりましたか	大学院での学生生活に満足していますか。
全平均	10	3.6	3.4	3.7	3.8	3.6	3.6
最高点		4	4	4	4	4	4
最低点		3	2	3	3	2	3

※表中数値は平均値、最高点及び最低点

問1から問6までの平均値は3.4～3.8の範囲内であった。授業内容の満足度（問3）は3.7、研究・論文指導（問4）は3.8であり個々の教員の努力は一定の評価を得ているようであるのに対し、開講科目の数や種類（問2）は3.4と低めであり、開講科目数および種類が実情にあっていないことが推測された。「大学院の研究・教育に関するアンケート」の自由記述に（IV-2の問3参照）、選択できる科目が少なかったことが記載されていたが、学生の希望に応じて柔軟に対応できるカリキュラムも検討していく必要があると思われる。

V-4 大学院在学中に体験・修得した能力

知識や能力の向上に大きく役立ったことを表10に、在学中に修得した能力について表11にまとめた。

表10 知識や能力の向上に大きく役立ったことについて（複数回答）

	R3
1 大学院での授業全般	70
2 指導教員による指導	90
3 研究活動	90
4 論文執筆	70
5 論文発表、最終試験	50
6 資格取得	0
7 院生時代に築いた人脈	50
8 その他	0
9 特に役立っているものはない	0

※表中数値は%

※複数回答のため、合計は100%を超えている。

知識や能力の向上に大きく役立ったこととしては、「指導教員による指導」、「研究活動」を90%の学生があげており、「論文執筆」の70%と合わせて、学位論文のための研究活動や論文執筆の過程が能力向上に役立ったことが窺える。また、大学院での授業が役に立ったと回答した学生は70%と高い回答率であった。「論文発表、最終試験」と「院生時代に築いた人脈」も50%の学生が役立ったことにかけていた。本学の間文化研究科は同級生が必ずしも多いとは言えない状況であるが、教員／学生間の交流、学生間の交流などが、コロナ禍においてもある程度確保されており、院生時代に築いた人脈として学生に評価された結果であると思われる。

在学中に修得した能力（表11）では、「ものごとを分析する力」が90%、「問題を論理的に考える力」が80%と高く、「特定の専門分野に関する理解力」70%、「自分と異なる意見や考え方を柔軟に理解する力」60%、「プレゼンテーションを準備し発表する力」60%、「表現すべき内容の文章を書く力」50%と続いた。論理的に理解し、分析する力、それを発表したり文章として書いたりする力が、大学院生活の中で大きく向上したと考えられた。

一方で、「英語の運用力」をあげた学生は0%であった。領域によっては多くの学術論文が英語で発表されていると思われるが、翻訳サイトが充実し、英語を読む機会は実質的に減っていると考えられた。また、英語以外の外国語の運用力をあげた学生も0%であり、国際交流活動は大学院にはあまり波及していない現状が窺えた。

表 1 1 在学中に修得した能力について（複数回答）回答率（%）で表示

	R3
1 教養	30
2 ものごとを分析する力	90
3 問題を論理的に考える力	80
4 特定の専門分野に関する理解力	70
5 肯定的な意味で批判的に考える力	30
6 自分と異なる意見や考え方を柔軟に理解する力	60
7 リーダーシップ	0
8 人間関係を築いたり調整する力	30
9 地域社会が抱える問題への関心や理解力	20
10 明快かつ簡潔に話す力	20
11 表現すべき内容の文章を書く力	50
12 英語以外の外国語の運用力	0
13 プレゼンテーションを準備し発表する力	60
14 学術的な文献の読解力	40
15 情報技術（ICT）の運用力	10
16 国際的な諸問題に対する関心や理解力	0
17 英語の運用力	0
18 ものごとの本質をみて判断しようとする力	50
19 自分を律して行動する力	40
20 得た知識やスキルを活かして問題を解決する力	60
21 これらの項目については特に伸びていない	0

※表中数値は%

※複数回答のため、合計は100%を超えている。

V-5 教育全般についての自由記述

教育全般について、以下のような自由記述があった。

- ・学生の自主性を重んじながら、的確に研究の核心からブレないように導いていただきました。
- ・学内の図書館を利用することが多くあったのですが、不自由に思う点の一つがありました。同じ書籍の貸し出しを3日間明けてしか借りられないということです（1回の貸し出し延長後）。他大の図書館や自治体の図書館では、図書館に持参すれば、同じ書籍を再度借りられることができます。

VI. 院生・教員懇談会の実施

開催の時期・方法については、各専攻・専修の協議によるものとした。今年度の実施状況は以下の通りであった。

専攻	実施内容
人間生活科学専攻D	令和2年度に引き続き、新興感染症のまん延防止の観点から、大学院生・教員懇談会は実施しなかった。
人間生活科学専攻M (健康・栄養科学専修)	令和2年度に引き続き、新興感染症のまん延防止の観点から、大学院生・教員懇談会は実施しなかった。
(生活環境学専修)	令和2年度に引き続き、新興感染症のまん延防止の観点から、大学院生・教員懇談会は実施しなかった。
(保育・教育学専修)	専修内での中間発表を10月7日(木)18時00分～20時30分に千代田キャンパスにおいてZoomによるオンライン参加も含めて行い、院生と教員との間で修論に関する質疑応答の場を設けた。コロナ禍でもあり、例年のような懇談会は実施せず、終了時に参加した院生にお菓子を配布した。
言語文化学専攻 (日本文学専修)	言語文化学専攻日本文学専修では、令和3年7月22日(木)および12月16日(木)に、Zoomをもちいて開催した「日本文学専修院生研究発表会」終了後、オンラインのまま日本文学専修の院生及び教員の懇談をおこなった。
(国際文化専修)	新型コロナウイルス感染症等の影響により、院生・教員懇談会は実施できなかったが、千鳥会懇親会補助費を在籍院生2名に配付するお菓子代に充てさせていただいた。
現代社会研究専攻 (臨床社会学専修)	社会人等院生の置かれた境遇が多様で、一堂に会しての懇談会の開催は困難であるために、指導教員が個別に院生の要望を聴取するようつとめた。
臨床心理学専攻	2021年前期と後期の2回、大学院授業、実習、院生室の環境や学生生活等について、意見や要望、質問等を出してもらうように依頼した。その後、書面で提出された意見等に関し、オンラインで院生と大学院担当教員とで質疑応答と意見交換の時間を設けた。このオンライン会議には専任教員と院生全員が参加した。この時の話し合いを受け、院生室の備品の調整やプリンターの追加購入など環境調整を行った。さらに種々の授業間の調整に関わる情報や、本学出身者と他大学出身者の心理学研究法の学習の状況等について有意義な情報交換をすることができた。その他、2022年2月27日(土)には非常勤講師(スーパーヴァイザー)と院生の顔合わせと交流を目的とした懇談・懇親会を行うなど、昨年と同様に定期的なFD活動を行い、その結果を大学院教育と院生生活の整備に還元している。

VII. 学会発表の奨励に関する活動

学会発表に備えて、院生の各種学会への参加を奨励してきた結果、今年度の参加状況は次表の通りであった。活動類型のうち、「学会参加」のカテゴリーには「各種シンポジウム」「全国フォーラム」等への参加も含むが、学会での「発表」は含まないものとし、別途、IXに記載する。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、以下の内容はすべてオンラインで行われている。

専攻	活動類型	件数	内容
人間生活科学専攻 博士後期課程	学会参加	13件	<p>【健康・栄養科学専修】 第30回日本バイオイメージング学会学術集会、第18回乳酸研究会、日本栄養・食糧学会関東支部第24回健康栄養シンポジウム</p> <p>【保育・教育学専修】 第31回日本乳幼児教育学会、2021年大会こども環境学会</p> <p>【保育・教育学専修】 第60回大学美術教育学会、第55回日本美術教育研究発表会 2021、美術科教育学会2021年度第1回リサーチフォーラム、日本ホリスティック教育/ケア学会第4回研究大会、第60回大学美術教育学会「山形大会」、第27回美術教育研究会、日本教材学会第33回研究発表大会</p> <p>【臨床人間学専修】 日本保育学会第74回大会・日本乳幼児教育学会第32回大会</p>
言語文化学専攻 博士後期課程	学会参加	6件	<p>【日本文学専修】 第61回風俗史学会大会、第61回花袋研究学会定期大会、日本近代文学会春季大会、日本近代文学会6月例会、日本近代文学会秋季大会、日本近代文学会11月例会</p>
人間生活科学専攻 修士課程	学会参加	21件	<p>【健康・栄養科学専修】 東京都栄養士会研究教育事業部報告会・研修会、第26回腸内細菌学会学術集会、日本食物繊維学会第26回オンライン学術集会、日本栄養士会全国栄養士大会オンライン、日本健康・栄養システム学会大会オンライン、日本栄養食糧学会関東支部第108回シンポジウム、全国栄養士大会、パープルリボンセミナー静岡がんセンター、パープルリボンセミナー都立駒込病院2021、第52回日本膵臓学会大会</p> <p>【生活環境学専修】 服飾文化学会服飾文化セミナー・研究例会、共立女子大学博士論文公聴会、ファッション・デザイン部会研究例会、2021年度日本建築学会大会</p> <p>【保育・教育学専修】 保育士養成研究所第2回研修会、発達障害専門家会議第6回シンポジウム、日本保育学会第74回大会、日本乳幼児教育学会第32回大会、第6回日本保育者養成教育学会、第33回日本発達心理学会、第31回日本乳幼児医学・心理学会</p>
言語文化学専攻 修士課程	学会参加	3件	<p>【日本文学専修】 日本近代文学会秋季大会、昭和文学会秋季大会</p> <p>【国際文化専修】 マスコミ学会2021春季大会シンポジウム</p>
臨床心理学専攻 修士課程	学会参加	6件	<p>神経発達症研究推進機構”自閉症”再考～原点からASDを考える～、日本心理臨床学会第40回大会、東京公認心理師協会大会2021、日本心理学会第85回大会、日本心理臨床学会第41回大会、日本精神科医学会学術教育研修会「心理部門」</p>

Ⅷ. 学内発表会の奨励・支援に関する活動

学内での論文発表会については、「令和3年度大学院要覧」147頁に、「修士論文審査等に関する日程」のうち、第8番目の項目に「論文発表会の開催」として記載されている。その修士論文発表会を、令和4年2月26日に実施した。総勢15名の院生が発表した。当日のプログラムを以下に掲載しておく。

令和3年度 修士論文発表会プログラム (オンラインによる開催)

日時 令和4年2月26日(土)9時00分開始(ミーティングへの入室は8時40分から可)

開会の挨拶 堀江正一 人間文化研究科長
 総合司会 小谷敏 人間文化研究科教務委員長

開始予定時刻	発表順	発表者
9:00		小谷教務委員長プログラム説明
9:05		堀江研究科長あいさつ
		接続確認
9:10	1	臨床心理学専攻
9:27	2	人間生活科学専攻 保育・教育学専修
9:44	3	現代社会研究専攻 臨床社会学専修
10:01	4	人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修
10:18	5	臨床心理学専攻
10:35～10:45 休憩・接続確認		
10:45	6	言語文化学専攻 国際文化専修
11:02	7	人間生活科学専攻 生活環境学専修
11:19	8	臨床心理学専攻
11:36	9	人間生活科学専攻 保育・教育学専修
11:53～13:00 休憩・接続確認		
13:00	10	人間生活科学専攻 生活環境学専修
13:17	11	現代社会研究専攻 臨床社会学専修
13:34	12	人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修
13:51	13	言語文化学専攻 日本文学専修
14:08～14:18 休憩・接続確認		
14:18	14	人間生活科学専攻 健康・栄養科学専修
14:35	15	言語文化学専攻 日本文学専修

- ・持ち時間1人17分(発表12分、質疑応答・交代5分)発表開始から12分経過時、17分経過時に合図をします。
- ・発表開始時間は進行状況により前後する場合があります。また、通信の不具合やその他の都合により発表が開始されない場合は、発表順を変更する場合があります。

【オンライン実施上の注意】

- ・Zoomを利用して開催します。
- ・ミーティングのURLは別途送信するメール本文でご確認ください。
- ・Zoomの個人表示名は自身の氏名にしてください。発表者は氏名の前に「発表」の文字を入れてください。
- ・入室時はマイクをミュートにしてください。
- ・発表者は、各自の発表開始予定時刻2分前までにマイク・カメラの用意をし、発表開始時にミュートを解除してください。
- ・自分の発表以外は録音・録画しないでください。

IX. 院生論文集発行の奨励・支援に関する活動

新研究科の設置の趣旨に適合した院生論文集として、「人間生活文化研究:International Journal of Human Culture Studies」に掲載することとした。令和3年度の修士論文概要は、オンラインジャーナルの”No.32 2022”に掲載される。各専攻での研究教育活動の状況は以下の通りであった。研究教育活動の内容を「論文発表」「口頭発表」「ポスター発表」に分けて以下に示す。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、以下の内容はすべてオンラインや誌上開催等平常時とは異なる形式で行われている。

専攻	発表形式	題目
人間生活科学専攻 博士後期課程	ポスター発表	易吸収性トリペプチドが3T3-L1 脂肪細胞の脂肪滴形成およびエネルギー代謝に与える影響
	ポスター発表	遊離脂肪酸が膵臓β細胞のミトコンドリア膜電位に与える影響 ～トランス脂肪酸の影響～
	ポスター発表	高脂肪酸環境が膵臓β細胞の酸化ストレスに与える影響
	ポスター発表	妊娠中体重増加量と食習慣および食意識の関連
	口頭発表	大麦粉の摂取による胆汁酸動態の変化が脂質代謝に及ぼす影響
	口頭発表	大麦粉の腸内発酵による短鎖脂肪酸の増加は、L細胞に発現するGPR43を介してGLP-1分泌、細胞内Ca ²⁺ 放出量を増加させる
	口頭発表	大麦粉はマウスにおいて、腸内発酵の増加によるGPR43の活性化を介して食後血糖値の上昇を抑制する
	論文発表	Effect of roasted barley flour on lipid metabolism and gut fermentation in mice fed high-fat diets
	口頭発表	大型積み木を使用した初期段階の遊び場面におけるリスクマネジメント
	口頭発表	保育における遊び場面の事故要因分析手法の開発 —大型積み木を使用した初期段階の事例を通して—
	論文発表	保育の遊び場面における「危険性」概念の構造 —「ハザード」、「リスク」に着目して—
	ポスター発表	幼児の造形遊び×プログラミングロボットマウス ～幼児の造形遊びにプログラミングは融合するのか～
	口頭発表	創造、探求、問い直し、そのきっかけは画材(キットパス)!
	口頭発表	0歳児クラスにおける子ども—保育者間の視線 —会話分析を用いた実証的検討—
	ポスター発表	0歳児クラスにおける保育者の実践的知識 —視線に着目して—
論文発表	保育者の実践的知識はその視線においていかに表われるか —保育者の視線推移を詳細に示す試み—	

言語文化学専攻 博士後期課程	口頭発表	『更級日記』富士川奇譚をめぐって—富士の神と富士川
	論文発表	『更級日記』富士川奇譚をめぐって—富士の神と富士川
	論文発表	中世竹取説話分類の再検討(一)—卵生篇
	論文発表	平安仮名文学の地摺の裳
	論文発表	終戦直後に進む「船」をめぐって —太宰治「パンドラの匣」論
人間生活科学専攻 修士課程	口頭発表	海藻由来の水溶性食物繊維がマウスの肥満と腸内細菌叢に及ぼす影響
	ポスター発表	海藻由来の水溶性食物繊維がマウスの肥満関連指標に及ぼす影響
	ポスター発表	【26PO4-am1-08S】水チャネル AQP3 スプライスバリエントの過剰発現が細胞間 接着に与える影響
	ポスター発表	新型コロナウイルス感染症の影響下における共生型住宅の実態 —セルフワーク型コレクティブハウス3事例の調査から—
	論文発表	保育者養成校におけるパネルシアターの授業の実態 —全国の保育者養成校へのアンケート調査をもとに—
	口頭発表	パネルシアターの作品発表と技法の解説 「お池にじゃぼ〜ん」他
言語文化学専攻 修士課程	ポスター発表	〈江戸川乱歩〉像の形成——「陰獣」発表前後の作家像
臨床心理学専攻 修士課程	論文発表	知的障害児・者のきょうだいが望む支援について ——成育過程の語りから——
	口頭発表	心理療法におけるポジティブ感情の 相互的感情調節についての質的研究
	ポスター発表	女子大学生における「共感によるストレス」に関する調査

X. 他大学との各種連携の活性化に関する活動

現在、現代社会研究専攻では、相互の交流と発展を目指して、社会学分野ならびにその関連分野の授業科目に関して、特別聴講学生の単位互換制度を設けている。詳しくは、「令和3年度大学院要覧」71頁を参照されたい。

XI. 就職支援に関する活動

今後、キャリア教育の充実の観点から就職支援を強化していくための具体的な方策を検討していく。

専攻	主な進学先・就職先	
人間生活科学	進学	・大妻女子大学家政学部被服学科 科目等履修生
	就職	・学校法人大妻学院 ・株式会社武蔵野 ・社会福祉法人慶桜会 特別養護老人ホームまんさくの里
言語文化学	進学	・大妻女子大学 文学部日本文学科 科目等履修生
	就職	・株式会社二葉屋 ・学校法人聖書学園 千葉英和高等学校
現代社会研究	就職	・株式会社富士キメラ総研
臨床心理学	就職	・川崎市総合教育センター 特別支援教育センター ・医療法人社団明芳会 江田記念病院 ・相模原市立青少年相談センター

XII. 社会人院生・社会人教育の実質化のための活動

社会人特別選抜の入学者に授業の開講時間など適切な配慮がなされたかについては、アンケートをとったところ、全体の評価は良く、社会人学生から一定の評価を受けているといえる。

また、「大学院設置基準第14条に定める教育方法の特例」により勤務形態に配慮した教育研究体制を希望する学生の入学にあたり、入学先となる人間生活科学専攻教員への周知体制を強化した。

次年度も引き続き、千代田・多摩キャンパスの連携・充実を具体的にどのように推進していくか検討する。

XIII. 研究科設置の主旨に沿った教育方針具体化のための活動

新研究科の設置の主旨のひとつである「学部横断的（専攻・専修横断的）な教育・研究体制のあり方」、ならびに、「学位取得に至るまでの組織的指導体制の具体化・実質化」を推進して行くために、平成23年度入学生より、「中間発表会（旧研究計画発表会）」を研究科全体で実施することとし、「修士論文審査等に関する日程」のプログラムの中に位置付けることを決めた。

XIV. その他の活動

「その他の活動」として、院生によるティーチング・アシスタントの実施状況一覧を次に掲載しておく。

ティーチング・アシスタント等について

ティーチング・アシスタント等に 任用される大学院生・研究生	担当授業科目					
所属・学年等	開講学科等	授業科目名	授業担当 教員名	開講 時期	開講曜日 ・時限	開講 校地
人間生活科学専攻 (博士課程)	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	実践統計学	清原 康介	後期	水曜 3 限	千代田校
人間生活科学専攻 (修士課程)	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	基礎調理学実習Ⅰ	大田原 美保	前期	水曜1、2 限	千代田校
	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	基礎調理学実習Ⅱ	玉木 有子	後期	月曜3、4 限	千代田校
	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	人体構造機能論実験	明渡 陽子 高波 嘉一	前期	金曜3、4 限	千代田校
	社会情報学部 社会情報学科 環境情報学専攻	環境情報処理論及び実 習Ⅰ	大橋 寿美子 羽倉 尚人	前期	火曜1 限	千代田校
	社会情報学部 社会情報学科 環境情報学専攻	環境情報処理論及び実 習Ⅰ	大橋 寿美子 羽倉 尚人	後期	火曜1 限	千代田校
	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	生活環境実験	田中 直子	前期	木曜3、4 限	千代田校
	家政学部 食物学科 管理栄養士専攻	食品学実験	渡辺 雄二	後期	金曜3、4 限	千代田校
現代社会研究専攻 (修士課程)	社会情報学部 社会情報学科 社会生活情報学専攻	量の調査演習	松本 早野香	後期	水曜4 限	千代田校
臨床心理学専攻 (修士課程)	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	社会・臨床心理学基礎 セミナー	古田 雅明 高田 知恵子 中田 香奈子	前期	火曜4 限	多摩校
	人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	基礎統計学Ⅱ	伊藤 尚枝	後期	火曜3 限	多摩校

人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	基礎統計学Ⅱ	本田 周二	後期	金曜 1 限	多摩校
人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	キャリア心理学セミナー	本田 周二 八城 薫 三好 真	前期	水曜 4 限	多摩校
人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	心理学基礎実験	伊藤 尚枝	後期	火曜 4 限	多摩校
人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	基礎統計学Ⅰ	高橋 幸子	前期	火曜 3 限	多摩校
人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	心理学基礎実験	堀 洋元	後期	火曜 4 限	多摩校
人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	基礎統計学Ⅰ	八城 薫	前期	水曜 2 限	多摩校
人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	心理学基礎実験	田中 優	後期	火曜 4 限	多摩校
人間関係学部 人間関係学科 社会・臨床心理学専攻	基礎統計学Ⅰ	伊藤 尚枝	前期	火曜 3 限	多摩校

XV. おわりに

平成 25 年度から 3 年間の FD 実施計画を立て、「大学院進学意識に関するアンケート」と「大学院の研究・教育に関するアンケート」を実施してきた。本年度はその 3 巡目（令和元年～3 年度）の最終年に当たる。本年度は新たに「大学院修了時アンケート」も実施し、在学中に修得した能力について調査した。評価を点数化し経年変化をみる集計方法は継承し、自由記述も基本的にはほぼそのままを掲載した。

昨年度からの新型コロナウイルス感染症の拡大により、大学院生はもとより教職員も大きな制約を受ける中で大学院教育が実施されている。今年度は昨年度に比較すると状況は回復しているものの、調査研究は大きく制約を受け、学生間の交流も自由に行えない状況である。新型コロナウイルス感染症の影響は今後の統計上の数値の推移を慎重に判断する必要があるが、数値の重要性もさることながら、自由記述の内容がとても参考になるとの印象を受けた。実際に、今回のアンケートを実施した後に、院生の自由記述を参考に図書館の文献複写の申し込みシステムが簡素化され、貸し出し期間についても見直しが行われた。また、院生の利便性向上のために千代田キャンパスの大学院生室や多摩キャンパスの大学院生自習室に設置してあるプリンターの入れ替えを行った。本学の大学院は小規模であるため大きな予算をつけにくい面は否めないが、少人数であることの利点を生かした柔軟な対応、フットワークの良い授業運営、研究指導を行うことが重要であると考え。今後もこのような FD 活動を継続していくとともに、院生の声に日常的に耳を傾け、それに教員および職員が柔軟に対応しやすいしくみ作りを模索していくことが重要であると考え。

以 上

Ⅱ 全学FD講演会・研修会

1 講演会・研修会の内容及びアンケート結果

FD 講演会アンケート集計結果

< テーマ > オンライン授業の注意点と実践事例

～効果的・効率的に進めるためのツール・Tips 紹介を中心に～

< 講師 > 大阪大学キャリアセンター副センター長 家島 明彦氏

< 開催方法 > Zoomによるオンライン開催 + 録画配信

< 開催日時 > 令和3年7月16日(金) 16:30～18:00

< 録画配信 > 令和3年7月20日(火)～公開中

< 回答期間 > 令和3年7月16日(金)～8月31日(火) 23:59

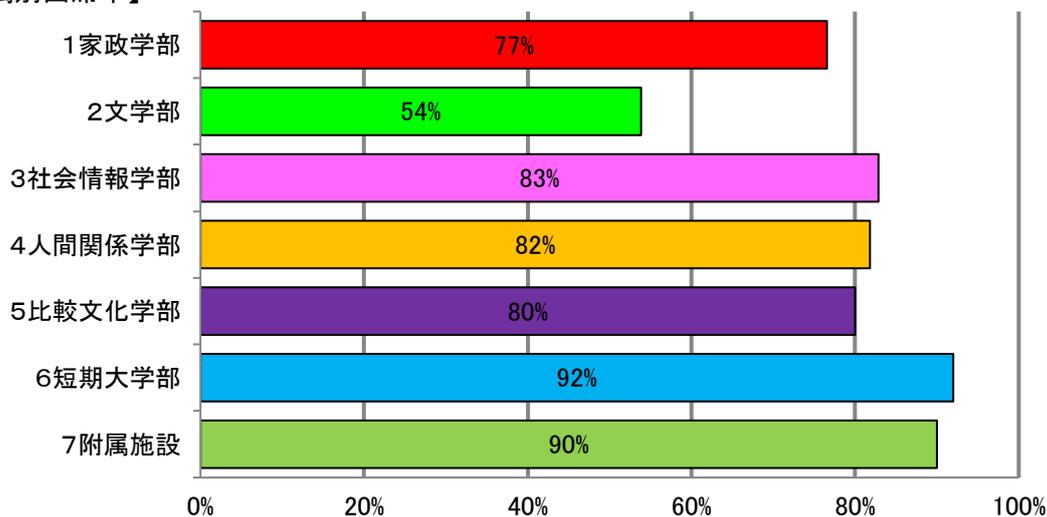
◎出席者数

	講演会出席者数 (アンケート提出者数)
Zoom参加	126人
録画映像の視聴	73人
合計	199人

【出席者・アンケート提出者の所属】

所属	出席者			所属教員数
	Zoom	録画	合計	
1 家政学部	36人	13人	49人	64人
2 文学部	8人	13人	21人	39人
3 社会情報学部	14人	15人	29人	35人
4 人間関係学部	26人	1人	27人	33人
5 比較文化学部	11人	5人	16人	20人
6 短期大学部	18人	5人	23人	25人
7 附属施設	8人	10人	18人	20人
8 助手	3人	11人	14人	
9 事務職員	2人	0人	2人	

【所属別出席率】



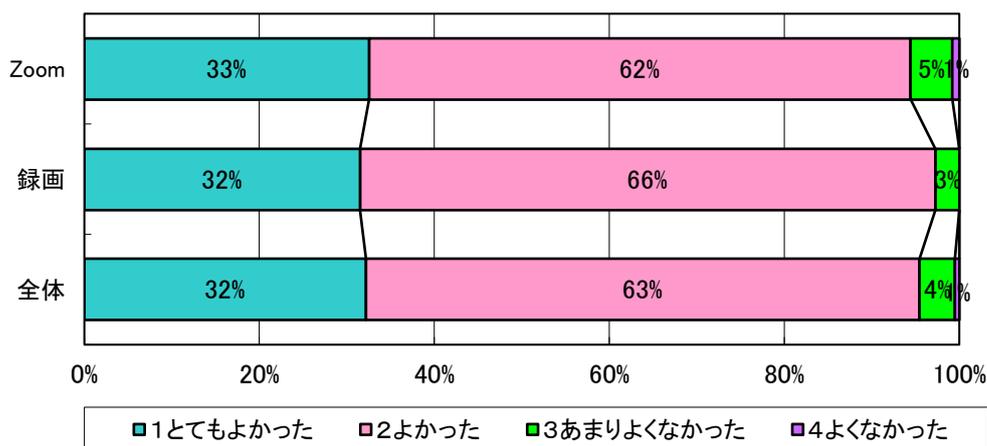
■ 1 家政学部 ■ 2 文学部 ■ 3 社会情報学部 ■ 4 人間関係学部 ■ 5 比較文化学部 ■ 6 短期大学部 ■ 7 附属施設

以下、提出されたアンケートの集計結果（アンケート回収総数199人分を対象）

問1 講演会の内容、運営などについて当てはまるものを選択してください。

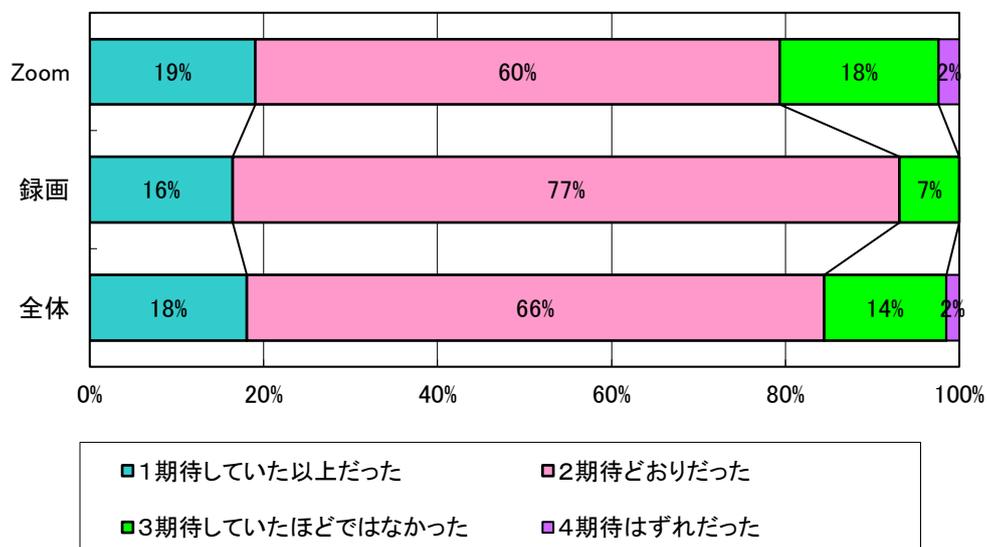
(1) 講師について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 とてもよかった	41 (33%)	23 (32%)	64 (32%)
2 よかった	78 (62%)	48 (66%)	126 (63%)
3 あまりよくなかった	6 (5%)	2 (3%)	8 (4%)
4 よくなかった	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)



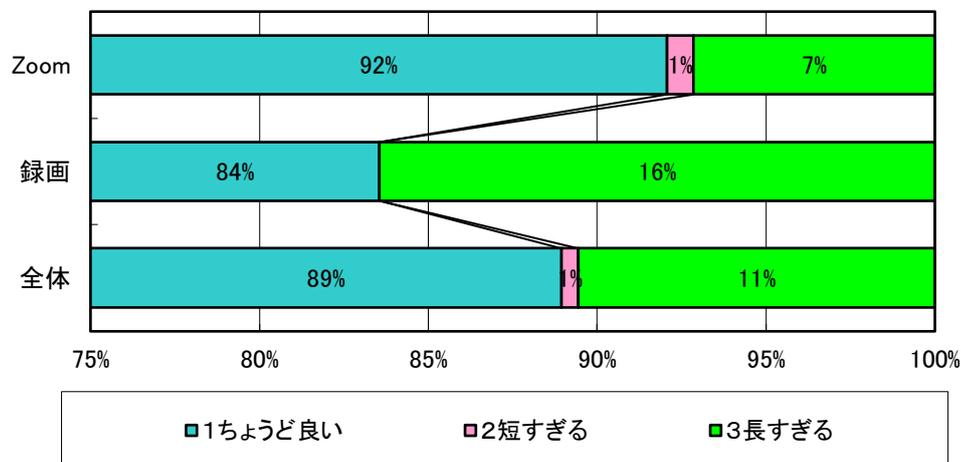
(2) 内容について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 期待していた以上だった	24 (19%)	12 (16%)	36 (18%)
2 期待どおりだった	76 (60%)	56 (77%)	132 (66%)
3 期待していたほどではなかった	23 (18%)	5 (7%)	28 (14%)
4 期待はずれだった	3 (2%)	0 (0%)	3 (2%)



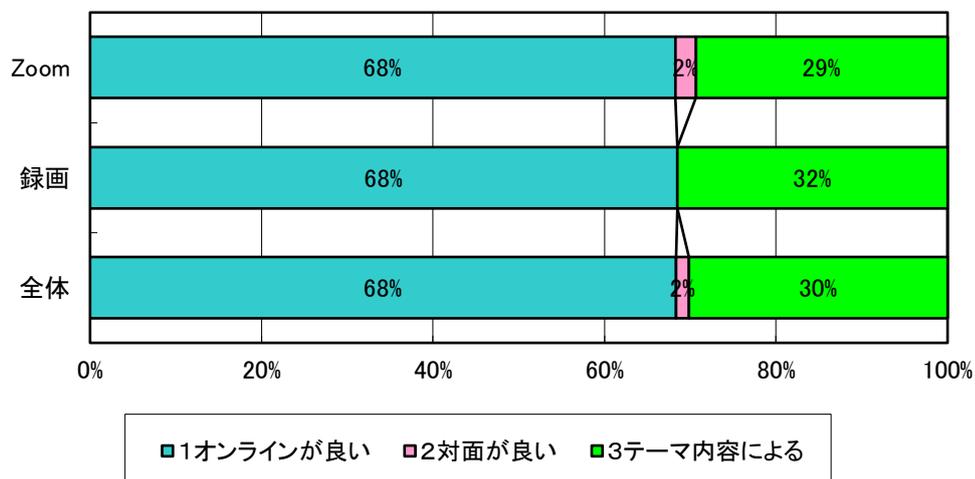
(3) 時間について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 ちょうど良い	116 (92%)	61 (84%)	177 (89%)
2 短すぎる	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)
3 長すぎる	9 (7%)	12 (16%)	21 (11%)



(4) 開催方法について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 オンラインが良い	86 (68%)	50 (68%)	136 (68%)
2 対面が良い	3 (2%)	0 (0%)	3 (2%)
3 テーマ内容による	37 (29%)	23 (32%)	60 (30%)



FD 研修会アンケート集計結果

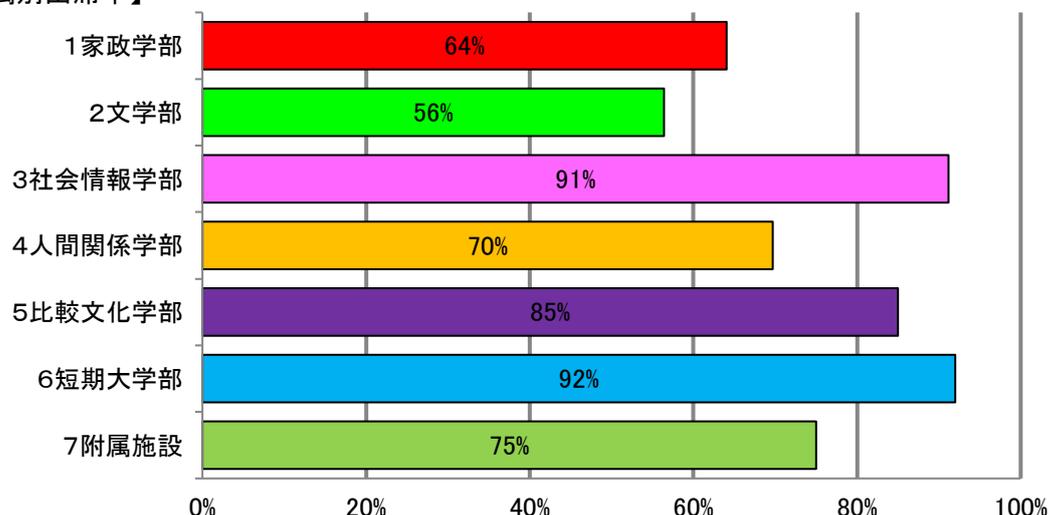
- ＜ テーマ ＞ 本学におけるオンライン授業事例の紹介・共有
- ＜ 講演内容 ＞ 1、映像を使った反転授業と respon を使った学生の考え方の集約(文学部教授)
 2、対面出席とオンライン出席が混在した授業に適した情報ツールの検討
 (社会情報学部教授)
 3、オンライン授業における学生の主体的な参加への取り組み(人間関係学部専任講師)
 4、オンラインでのグループワークについて(比較文化学部専任講師)
- ＜ 開催方法 ＞ Zoom によるオンライン開催 + 録画配信
- ＜ 開催日時 ＞ 令和4年1月31日(月) 15:00～16:45
- ＜ 録画配信 ＞ 令和4年2月9日(水)～ 公開中
- ＜ 回答期間 ＞ 令和4年1月31日(月)～ 2月28日(月) 23:59

◎出席者数

【出席者・アンケート提出者の所属】

所 属	出 席 者			所属教員数
	Zoom	録画	合計	
1 家政学部	29 人	12 人	41 人	64 人
2 文学部	13 人	9 人	22 人	39 人
3 社会情報学部	25 人	6 人	31 人	34 人
4 人間関係学部	17 人	6 人	23 人	33 人
5 比較文化学部	13 人	4 人	17 人	20 人
6 短期大学部	20 人	3 人	23 人	25 人
7 附属施設	11 人	5 人	15 人	20 人
8 助手	4 人	2 人	7 人	
9 事務職員	6 人	0 人	6 人	
計	138 人	47 人	185 人	

【所属別出席率】

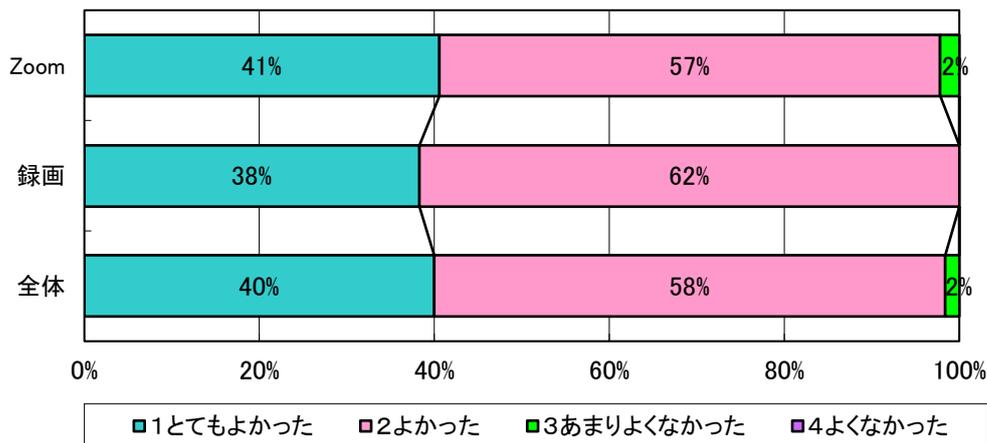


以下、提出されたアンケートの集計結果（アンケート回収総数185人分を対象）

問1 講演会の内容、運営などについて当てはまるものを選択してください。

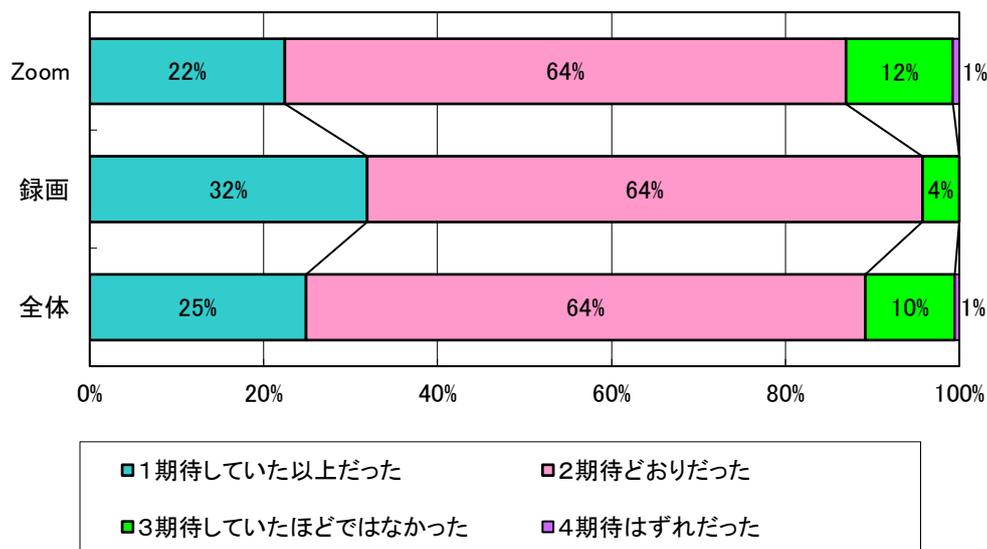
(1) 講師について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 とてもよかった	56 (41%)	18 (38%)	74 (40%)
2 よかった	79 (57%)	29 (62%)	108 (58%)
3 あまりよくなかった	3 (2%)	0 (0%)	3 (2%)
4 よくなかった	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)



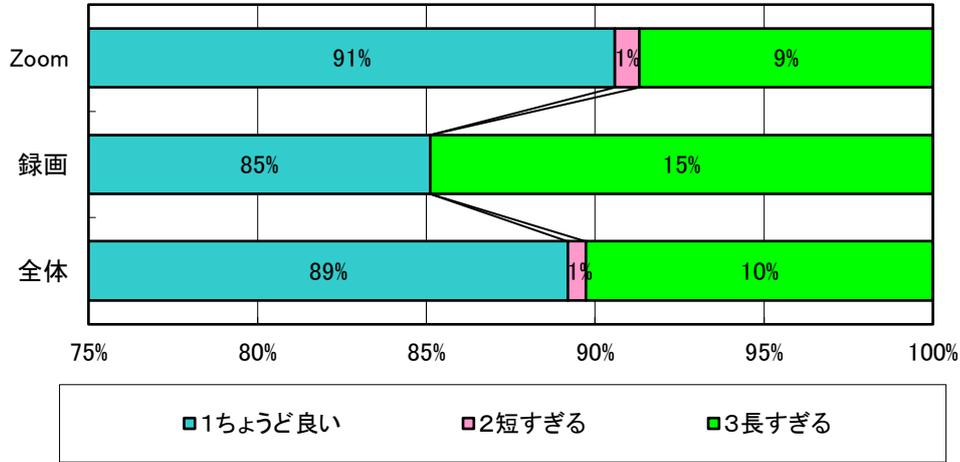
(2) 内容について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 期待していた以上だった	31 (22%)	15 (32%)	46 (25%)
2 期待どおりだった	89 (64%)	30 (64%)	119 (64%)
3 期待していたほどではなかった	17 (12%)	2 (4%)	19 (10%)
4 期待はずれだった	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)



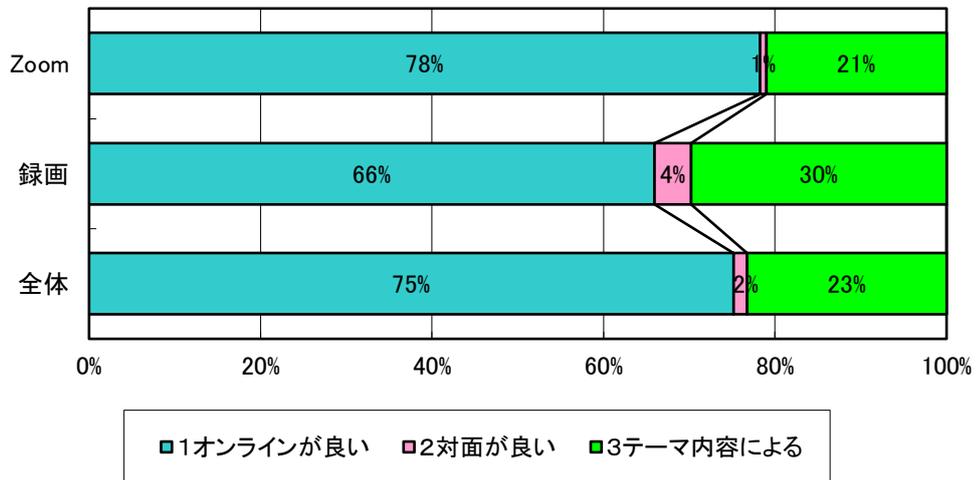
(3) 時間について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 ちょうど良い	125 (91%)	40 (85%)	165 (89%)
2 短すぎる	1 (1%)	0 (0%)	1 (1%)
3 長すぎる	12 (9%)	7 (15%)	19 (10%)



(4) 開催方法について

選択肢	Zoom	録画	全体
1 オンラインが良い	108 (78%)	31 (66%)	139 (75%)
2 対面が良い	1 (1%)	2 (4%)	3 (2%)
3 テーマ内容による	29 (21%)	14 (30%)	43 (23%)



大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程

平成15年3月7日

制定

(設置)

第1条 大妻女子大学大学院、大妻女子大学及び短期大学部（以下「本学」という。）に、本学の教育の内容及び方法の検討、さらにそれらの組織的な研修、研究及び改善（以下「FD」という。）を推進するため、大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 副学長 1名
- (2) 人間文化研究科長及び人間文化研究科FD委員長
- (3) 家政学部長、文学部長、社会情報学部長、人間関係学部長、比較文化学部長及び大妻女子大学短期大学部長
- (4) 各学部及び短期大学部から選出された教員各1名

2 学長及び委員以外の副学長は、必要に応じて出席することができる。

(任期)

第3条 前条第1項第4号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2 前項の委員が欠員となった場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(審議事項)

第4条 委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) FDの企画及び実施に関する事項
- (2) FDに関する情報の収集及び提供に関する事項
- (3) FDの実施に係わる支援及び評価に関する事項
- (4) 研究科、各学部及び短期大学部におけるFD活動に関する事項
- (5) その他、委員会が必要と認める事項

(委員長)

第5条 委員会に委員長を置き、副学長をもって充てる。

2 委員長は委員会を招集し、その議長となる。

3 委員長に事故があるときは、委員長が指名した者がその職務を代理する。

(議事)

第6条 委員会は、委員の過半数の出席がなければ議事を開くことができない。

2 委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは委員長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第7条 次の各号の者は委員会に出席して意見を述べることができる。

- (1) 事務局長、教育支援センター一部長、多摩事務部長
- (2) 委員会の同意を得て委員長が必要と認めた者

(事務)

第8条 委員会の事務は、教育支援センターにおいて処理する。

(規程の改廃)

第9条 この規程の改廃は、委員会の議を経て、大学運営会議において定める。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年1月11日から施行し、平成16年12月1日から適用する。
ただし、第7条第1項第1号の規定は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年3月23日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年5月7日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

大妻女子大学ファカルティ・ディベロップメント委員名簿

		令和3年度
		氏 名
副学長(委員長)		山 倉 健 嗣
副学長		小 川 浩
人間文化研究科長		堀 江 正 一
家政学部長		市 川 博
文学部長		五十嵐浩司
社会情報学部長		藤 村 考
人間関係学部長		福 島 哲 夫
比較文化学部長		佐 藤 円
短期大学部長		松 木 博
委員	人間文化研究科	田 中 直 子
	家政学部	矢 野 博 之
	文学部	高 木 元
	社会情報学部	池 田 緑
	人間関係学部	本 田 周 二
	比較文化学部	行 田 勇
	短期大学部	榎 本 千 賀